

元総社蒼海遺跡群(94街区)

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2018.8

前橋市教育委員会
タカセン株式会社
有限会社毛野考古学研究所

元総社蒼海遺跡群(94街区)

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



J-6号住居跡出土瓦片

2018.8

前橋市教育委員会
タカセン株式会社
有限会社毛野考古学研究所



調査区遠景（北西から前橋市街地を望む）



J - 6号住居跡出土浅鉢

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告する「元總社蒼海遺跡群（94街区）」は、上野国府推定区域や上野国分僧寺・国分尼寺などの施設を擁する古代上野国の中核地域にあり、多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出、確認はかないませんでしたが、縄文時代の住居跡、古墳時代から平安時代にかけての集落跡、中世溝跡など様々な時代の遺構や遺物が見つかりました。今回の調査成果をはじめ、これまでに蓄積された資料は、国府や国府のまちを再現するための貴重な手がかりとなります。現状での保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、地域の歴史や前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係者、関係機関、各方面の多大なるご配慮やご協力・ご尽力を賜り調査事業を円滑に進められことに厚くお礼申しあげます。

平成30年8月

前橋市教育委員会
教育長 塩崎政江

例　　言

1. 本報告書は、店舗建設に伴う元総社蒼海遺跡群（94街区）発掘調査報告書である。
2. 調査は、タカセン株式会社の委託を受け、前橋市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社毛野考古学研究所が実施した。
3. 発掘調査から整理調査を経て本書刊行に至る経費は、タカセン株式会社に負担して頂いた。
4. 発掘調査の要項は次のとおりである。

遺　跡　所　在　地：群馬県前橋市元総社町（94街区）1607、1610-1・2・3、1561-1、1799（甲）

遺　跡　略　称：28A230（元総社蒼海遺跡群（94街区））

発　掘　調　査　面　積：805 m²

発　掘　調　査　期　間：平成29年4月17日～平成29年6月16日

整理・報告書作成期間：平成29年6月19日～平成30年8月31日

発　掘　・　整　理　担　当　者：伊藤順一・山本杏子・春里桃子（有限会社毛野考古学研究所）

5. 本遺跡に関わる遺構測量は、小出拓磨・石塚伸輝（有限会社毛野考古学研究所）が、空撮は小出が担当した。
6. 本書の編集は伊藤が行った。原稿執筆は、Iを小峰篤（前橋市教育委員会）、IIを南田法正（有限会社毛野考古学研究所その他を伊藤が担当した。遺物実測は石器を土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）、他を伊藤・渡辺博子（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。遺物写真は渡辺が担当した。
7. 調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
8. 発掘調査・整理作業に関わった方々は、下記のとおりである。（五十音順・敬称略）

【発掘調査】 石井元明 石倉稔夫 岩瀬　勇 碓井俊夫 囊庭秋男 君塚松男 金城　勝 久保口寛
小関泰洋 小山茂男 佐藤潤雄 薗田英二 都木英之 高橋民雄 田村貴広 寺村信一
時谷かおる 中島厚人 中島勝由 永井述史 橋元裕児 鎌塙和貴 森山孝男

【整理作業】 井口ヒロ子 池内麻美 囊庭秋男 瀬尾則子 関小百里 武士久美子 竹中美保子 橋元裕児
樹田光代 森山恵子 山口昌子 山下奈邦子

9. 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の方々に御指導・御協力を賜った。（順不同・敬称略）
大和ハウス工業株式会社
鈴木徳雄 須田　茂 関根慎二 谷藤保彦 外山政子 三浦京子 中村岳彦

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を1/60縮尺で掲載することを基本とし、挿図中にはスケールを付した。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は、1/1～1/8縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とほぼ同縮尺である。また、遺物実測図に用いたトーンについてはそれぞれに凡例を示した。
3. 文中における（ ）は復元値及び推定値を、〈 〉は残存値を示す。
4. 遺構の略称は次のとおりである。 H：堅穴住居跡 D：土坑 W：溝 SP：ピット P：遺構内ピット
5. 文中における色調観察は『新版 標準土色帖』（農林水産省技術会事務局 財団法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。
6. 文中におけるテフラの略号は以下のとおりである。

As-C：浅間C軽石（3世紀後半降下） Hr-FA：棟名ニツ岳洪川テフラ（6世紀初頭降下）

As-B：浅間B軽石（1108年降下）

目 次

卷頭図版

はじめに

例言・凡例

目次・図版目次・表目次・写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	地理的・歴史的環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	2
III	調査の方法と経過	4
	1. 調査の方法	4
	2. 調査の経過	4
IV	基本層序	5
V	遺構と遺物	5
	1. 遺跡の概要	5
	2. 壊穴住居跡	5
	3. 土坑	48
	4. 溝	62
	5. ピット	65
	6. 遺構外出土遺物	65
VI	まとめ	68
	1. J - 6・7号住居跡出土漆塗り彩文土器について	68
	2. 碇石建ち堅穴住居跡について	69

図版目次

Fig. 1	調査区の位置	1	Fig. 14	堅穴住居跡遺構図（7）	17
Fig. 2	遺跡位置図	2	Fig. 15	堅穴住居跡遺構図（8）	18
Fig. 3	周辺の遺跡	3	Fig. 16	堅穴住居跡遺構図（9）	19
Fig. 4	基本層序	5	Fig. 17	堅穴住居跡遺構図（10）	20
Fig. 5	全体図	6	Fig. 18	堅穴住居跡遺構図（11）	21
Fig. 6	縄文時代住居跡全体図	8	Fig. 19	堅穴住居跡遺構図（12）	22
Fig. 7	堅穴住居跡遺構図（1）	10	Fig. 20	堅穴住居跡遺構図（13）	23
Fig. 8	堅穴住居跡遺構図（2）	11	Fig. 21	堅穴住居跡遺構図（14）	24
Fig. 9	堅穴住居跡遺構図（3）	12	Fig. 22	堅穴住居跡遺構図（15）	25
Fig. 10	堅穴住居跡遺構図（4）	13	Fig. 23	堅穴住居跡遺構図（16）	26
Fig. 11	堅穴住居跡遺構図（5）	14	Fig. 24	堅穴住居跡遺構図（17）	27
Fig. 12	堅穴住居跡遺構図（6）	15	Fig. 25	堅穴住居跡遺構図（18）	28
Fig. 13	古墳時代以降堅穴住居跡全体図	16	Fig. 26	堅穴住居跡出土遺物（1）	28

Fig. 27	堅穴住居跡出土遺物（2）	29	Fig. 42	土坑遺構図（4）	54
Fig. 28	堅穴住居跡出土遺物（3）	30	Fig. 43	土坑遺構図（5）	55
Fig. 29	堅穴住居跡出土遺物（4）	31	Fig. 44	土坑遺構図（6）	56
Fig. 30	堅穴住居跡出土遺物（5）	32	Fig. 45	土坑出土遺物（1）	57
Fig. 31	堅穴住居跡出土遺物（6）	33	Fig. 46	土坑出土遺物（2）	58
Fig. 32	堅穴住居跡出土遺物（7）	34	Fig. 47	土坑出土遺物（3）	59
Fig. 33	堅穴住居跡出土遺物（8）	35	Fig. 48	溝遺構図（1）	62
Fig. 34	堅穴住居跡出土遺物（9）	36	Fig. 49	溝全体図	63
Fig. 35	堅穴住居跡出土遺物（10）	37	Fig. 50	溝遺構図（2）	64
Fig. 36	堅穴住居跡出土遺物（11）	38	Fig. 51	ピット全体図	66
Fig. 37	堅穴住居跡出土遺物（12）	39	Fig. 52	遺構外出土遺物	67
Fig. 38	土坑全体図	50	Fig. 53	H-20号住居跡礎石検出状態	69
Fig. 39	土坑遺構図（1）	51	Fig. 54	礎石建ち堅穴住居跡の事例（1）	69
Fig. 40	土坑遺構図（2）	52	Fig. 55	礎石建ち堅穴住居跡の事例（2）	70
Fig. 41	土坑遺構図（3）	53			

表目次

Tab. 1	堅穴住居跡一覧（1）	9	Tab. 11	堅穴住居跡出土遺物観察表（9）	48
Tab. 2	堅穴住居跡一覧（2）	10	Tab. 12	土坑一覧	49
Tab. 3	堅穴住居跡出土遺物観察表（1）	40	Tab. 13	土坑出土遺物観察表（1）	60
Tab. 4	堅穴住居跡出土遺物観察表（2）	41	Tab. 14	土坑出土遺物観察表（2）	61
Tab. 5	堅穴住居跡出土遺物観察表（3）	42	Tab. 15	土坑出土遺物観察表（3）	62
Tab. 6	堅穴住居跡出土遺物観察表（4）	43	Tab. 16	溝一覧	62
Tab. 7	堅穴住居跡出土遺物観察表（5）	44	Tab. 17	ピット一覧	65
Tab. 8	堅穴住居跡出土遺物観察表（6）	45	Tab. 18	遺構外出土遺物観察表（1）	67
Tab. 9	堅穴住居跡出土遺物観察表（7）	46	Tab. 19	遺構外出土遺物観察表（2）	68
Tab. 10	堅穴住居跡出土遺物観察表（8）	47	Tab. 20	礎石計測表	69

写真図版目次

P L. 1	J-4号住居跡（南から）
調査区全景（上が北）	J-4号住居跡炉跡（西から）
J-1号住居跡（北東から）	J-5号住居跡（北から）
J-1号住居跡炉跡（北東から）	J-5号住居跡炉跡（北から）
J-1号住居跡埋設土器（北東から）	J-5号住居跡遺物出土状態（南西から）
J-1号住居跡遺物出土状態（北西から）	J-6号住居跡（上が北）
P L. 2	P L. 3
J-3号住居跡（南から）	J-6号住居跡遺物出土状態（北から）
J-3号住居跡遺物出土状態（東から）	J-6号住居跡遺物出土状態（南から）

J - 7 号住居跡（南東から）	D - 1 号土坑遺物出土状態（北西から）
J - 7 号住居跡北東部ピット列（南西から）	D - 12 号土坑（北から）
H - 1 号住居跡（西から）	P L. 8
H - 2・6 号住居跡（西から）	D - 15 号土坑（東から）
H - 3・7 号住居跡（西から）	D - 29 号土坑遺物出土状態（東から）
H - 4 号住居跡（西から）	D - 29 号土坑遺物出土状態近景（東から）
P L. 4	D - 30 号土坑遺物出土状態（北西から）
H - 5 号住居跡（西から）	D - 31 号土坑人骨出土状態（南から）
H - 8 号住居跡（西から）	D - 44 号土坑（北東から）
H - 9 号住居跡（南西から）	W - 3 号溝（南から）
H - 10 号住居跡・W - 5 号溝（西から）	W - 4 号溝（南東から）
H - 11 号住居跡（西から）	P L. 9
H - 12 号住居跡（西から）	住居跡出土遺物（1）
H - 13・14 号住居跡（西から）	P L. 10
H - 15 号住居跡（西から）	住居跡出土遺物（2）
P L. 5	P L. 11
H - 16 号住居跡（東から）	住居跡出土遺物（3）
H - 17 号住居跡（西から）	P L. 12
H - 18・19 号住居跡（西から）	住居跡出土遺物（4）
H - 20 号住居跡（西から）	P L. 13
H - 20 号住居跡カマド（西から）	住居跡出土遺物（5）
H - 20 号住居跡遺物出土状態（西から）	P L. 14
H - 20 号住居跡遺物出土状態（西から）	住居跡出土遺物（6）
H - 21 号住居跡（南西から）	P L. 15
P L. 6	住居跡出土遺物（7）・土坑出土遺物（1）
H - 21 号住居跡カマド（南西から）	P L. 16
H - 21 号住居跡遺物出土状態（南東から）	土坑出土遺物（2）
H - 22 号住居跡（西から）	P L. 17
H - 23 号住居跡（西から）	土坑出土遺物（3）・遺構外出土遺物
H - 24 号住居跡（西から）	
H - 26 号住居跡（西から）	
H - 27 号住居跡（西から）	
H - 27 号住居跡遺物出土状態（西から）	
P L. 7	
H - 28 号住居跡（西から）	
H - 29 号住居跡（西から）	
H - 30 号住居跡（西から）	
H - 31 号住居跡（西から）	
H - 31 号住居跡カマド（西から）	
H - 32 号住居跡（南西から）	

I 調査に至る経緯

前橋市元総社町での店舗建設にあたり、開発事業者であるタカセン株式会社（以下「事業者」という。）と前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）は、埋蔵文化財の取扱について協議を重ねてきた。平成 29 年 1 月 11 日、同年 3 月 21 日に試掘確認調査を実施した。試掘調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、古代竪穴住居跡などが検出された。これを受け、事業者と市教委は埋蔵文化財の現状保存について協議・検討した結果、当該建設工事計画で現状保存が困難な範囲について、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで相互に合意した。埋蔵文化財の発掘調査実施にあたっては、市教委直営による調査は他事業で実施中であり、本事案について実施が困難であるため、民間調査組織での発掘調査実施を提案し、事業者からも承諾を得られた。これを受け、市教委作成の発掘調査仕様書に則り、平成 29 年 4 月 5 日付けで、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所と事業者との間で、埋蔵文化財発掘調査に係る業務契約を締結した。また、事業者、民間調査組織、市教委の三者間で発掘調査に関する協定書を取り交わし、現地での発掘調査着手に至った。

遺跡名称は「元総社蒼海遺跡群（94 街区）」（遺跡コード：28A230）とした。「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「（94 街区）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

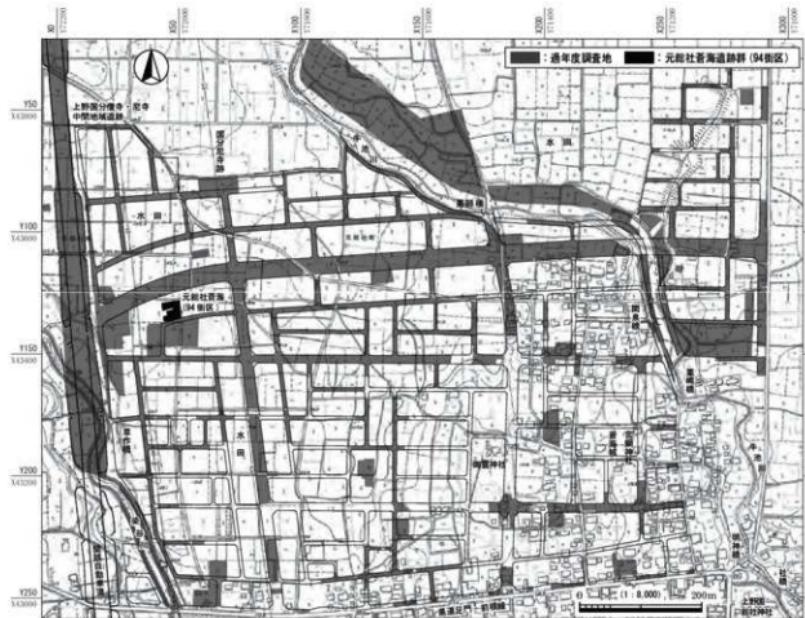


Fig. 1 調査区の位置（前橋市現形図 昭和 43 年 1/2,500 を改変）

II 地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

元総社蒼海遺跡群（94 街区）は前橋市の南西部に位置し、高崎市との市境付近に該当する。

地形的には広瀬川（旧利根川）と井野川に挟まれた前橋台地上に立地し、また榛名山東南麓の相馬ヶ原扇状地末端部にも該当する。前橋台地とは、2.3～2.4万年前頃に浅間山の外輪山である黒斑山が崩壊し、これに伴つて発生した応桑岩屑なだれに起因した前橋泥流堆積物によって形成された扇状地性台地を指す。その厚さは15m前後を測る。前橋泥流堆積物の上部には、排水不良などが原因とされる前橋下部泥炭層が形成されている。

1.6万年前頃には榛名山の山体崩壊による陣場岩屑なだれが発生し、相馬ヶ原扇状地をつくりだした。約1.3～1.4万年前には浅間板鼻黄色軽石（As-YP）が降下し、1.1万年前頃には浅間總社軽石（As-SJ）が降灰する。

As-SJ の降灰後には前橋上部泥炭層が形成され、さらにこの上には粘質土・シルト・細砂の互層からなる總社砂層が、およそ2～5mの厚さで広範囲に堆積している。この總社砂層が本遺跡群の直接的な基盤層（地山）であり、相馬ヶ原扇状地から南東流する染谷川・牛池川・八幡川などが、總社砂層の供給源と推測されている。

總社砂層の上部には黒色土（黒ゴク土）が堆積し、縄文時代以降の遺物包含層となっている。總社砂層の離水時期は不詳ながら、黒色土中の遺跡形成は縄文時代前期後葉の諸礎式期以降に始まる。

主要引用・参考文献

早田 勉 1990 「第1章 群馬県の自然と風土」『群馬県史 通史編1』

日沖剛史 2015 「群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用」『地域考古学』1号 地域考古学研究会

吉田英嗣 2004 「浅間火山を起源とする泥流堆積物とその関東平野北西部の地形発達に与えた影響」『地理学評論』77-8

2. 歴史的環境

本遺跡は染谷川の左岸に位置する。牛池川と八幡川の一帯も含めて元総社地域は遺跡の密集地帯であり、近年は遺跡群としての理解が進む。ここでは、本遺跡の主体的な時代である、縄文時代・古墳時代・古代の周辺遺跡について元総社地域を中心に概述する。詳細は『元総社蒼海遺跡群（93 街区）』II 章・VI 章を参照して頂きたい。

縄文時代では、上野国分僧寺・尼寺中間地城遺跡（以下、中間地城）を中心として、前期後葉・諸礎式期と中期後葉・加曾利E式期を主体とする2時期の大型環状集落が重複して存在する。両集落は本遺跡を含む広大な範



Fig. 2 遺跡位置図（国土地理院発行『宇都宮』・『長野』20万分の1を改変）

間に展開する。牛池川左岸の元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）では晩期前半の住居跡が確認されている。

古墳時代前期にも中間地域や染谷川左岸一带に居住域が広がる。牛池川左岸では、元総社蒼海遺跡群（61）（62）（81）（82）（100）などで周溝墓群が展開する。6世紀後半～7世紀前半には居住域が拡大するものの、中小河川からは大きく離れない。これは、河川沿いの幅の狭い低位段丘面の水田化・耕地化と関係しているものと推察され、元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・総社閑泉明神北遺跡群などでは、古墳後期のHr-FA直下およびHr-FP泥流直下の水田跡が調査されている。八幡川左岸域には元総社古墳群が展開し、7世紀代には愛宕山古墳・宝塔山古墳・蛇穴山古墳という3基の大型方墳が築かれる。これらの南西には山王庵寺（放光寺・7世紀後半）も建立され、一帯は上毛野の中心地としての様相を呈している。

古代になると、元総社地域の中央部に上野国府が置かれ、北西には国分僧寺・国分尼寺が造営される。元総社小学校校庭遺跡の大型掘立柱建物、元総社蒼海遺跡群（99）の掘込地業建物、元総社寺田遺跡で出土した「國厨」「國」「曹司」などの墨書き器等から、同国府の実態は徐々に解明されつつある。近傍の鳥羽遺跡には神社遺構や鍛冶工房群も存在し注目される。中間地域をはじめ本遺跡近隣の各遺跡では、縄輪陶器・三彩陶器・飾り金具等の特殊な金属製品、硯、腰帶具などが出土し、いわゆる特殊遺物が多出する区域である。元総社蒼海遺跡群（41）では10世紀代の竪穴住居から青磁・円面硯・金付着灰釉陶器等が出土し、9世紀代の鍛冶遺構も確認されている。国分尼寺に近いことに加え、古墳時代から続く集落と耕地の長期安定性が関係しているものと推察される。



Fig. 3 周辺の遺跡（国土地理院発行『前橋』25,000 分の 1 を変更）

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

調査は店舗建設工事に伴い店舗の建物用地に関わる部分について行い、調査面積は 805 m²である。調査区に被せる方眼は 2000 年に行われた上野国分尼寺寺域確認調査から用いられている 4 m 毎の方眼（日本測地系）を基準とし、近隣調査との整合性を取りやすくした。グリッドは北西杭の名称を使用し、西から東へ X:38、X:39、X:40…、北から南へ Y:138、Y:139、Y:140… と設定した。本遺跡元總社蒼海遺跡群（94 街区）の X:40、Y:140 の公共座標は以下のとおりである。

・元總社蒼海遺跡群（94 街区）測点 X:40 Y:140

日本測地系：X = 43480、Y = -72020 世界測地系：X = 43834.9083、Y = -72311.7535

調査方法は基本的に表土除去→遺構確認→遺構検出→遺構完掘の順に行い、平面・断面測量及び写真撮影による記録保存を調査の進捗に合わせて適宜行った。表土除去は試掘結果に基づき 0.45 パックホーを用いて遺構確認面である褐色土層（基本層序IV層上面）、削平により第IV層上面が検出されない場合は基盤層である總社砂層（基本層序第V層上面）まで掘り下げることとした。遺構は規模に応じて断面観察用のベルトを設定し埋没状態および重複する遺構の新旧関係をとらえることに努めた。遺構は原則的に移植ゴテを用いて掘削し、溝など規模の大きな遺構については鋤籠などを使用した。遺物の出土状態には最新の注意をはらい、可能な限りトータルステーションを用いて出土位置および標高を記録したのちに取り上げを行った。検出された遺構は、平面・断面測量および写真撮影にて記録保存を行った。堅穴住居跡遺構図面は平面・断面図とともに 1/20 縮尺を基本として作成し、平面図をトータルステーション、断面図を基準点からの測り込みにより測量した。遺構写真は 35mm 白黒・35mm カラーリバーサルフィルムを使用して撮影し、あわせて 1000 万画素相当のデジタルカメラを使用した。また、完掘跡の遺跡全景・遺景写真にはドローンを用いて空撮を行った。

2. 調査の経過

4 月期

17 日：重機掘削を開始する。18 日：重機掘削を継続する。安全対策を実施する。基本層序を確認する。19 日：重機掘削を終了する。人力による作業を開始する。遺構確認作業に着手する。20 日：安全対策を実施する。遺構確認作業を開始する。21 日：基準点の設置を行う。遺構確認作業を継続する。概略図用の空撮を行う。24 日：遺構掘削、遺構断面測量を開始する。トータルステーションによるグリッドの設定を行う。25～28 日：遺構調査、遺構測量を継続する。

5 月期

1 日：遺構調査・遺構測量を継続する。雨天・強風のため午後は作業を中止とした。2 日：遺構調査・遺構測量を継続する。連休（3 日～7 日）に備え安全対策を実施する。8～9 日：遺構調査・遺構測量を継続する。10 日：午前中は雨天のため作業を中止とした。午後より遺構調査・遺構測量を継続する。11・12・15～16 日：遺構調査・遺構測量を継続する。17 日：遺構調査・遺構測量を継続する。調査区南側の調査に着手する。18～19・22～24 日：遺構調査・遺構測量を継続する。25～26 日：雨天のため作業を中止とした。27・29～31 日：遺構調査・遺構測量を継続する。

6 月期

1 日：午前中は雨天のため作業を中止とした。午後より遺構調査・遺構測量を継続する。2・5～10 日：遺構調査・遺構測量を継続する。12 日：遺構調査・遺構測量を継続する。空撮準備を開始する。13～14 日：遺構調査・遺構測量を継続する。15 日：空撮を行う。前橋市教育委員会による現地調査の完了検査を受ける。16 日：仮設トイレ、機材庫の撤収を行う。現地における調査の全工程を終了する。

IV 基本層序

基本層序はA・Bの2地点で確認した。調査区は北から南へと緩傾斜が認められた。B地点と比べやや標高の高いA地点では削平のため第III層は認められなかった。各層位の詳細については以下のとおりである。

I 表土

II 暗灰色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い。旧表土。

As-B を多量に含む。

III 暗灰色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い。As-B を大量に含む。As-B 混土層。

IV 暗色土 (10YR4/4) しまり弱く粘性ある。第V層ブロック (0.5 ~ 3 cm) 少量。第V層の漸移層。

V 明黄褐色土 (10YR6/8) しまり強く粘性弱い。総社砂層。

遺構の確認についてはIV層ないしV層上面で行った。

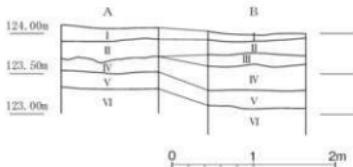


Fig. 4 基本層序

V 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

今回の調査では、堅穴住居跡37軒、土坑55基、溝5条、ピット82基が検出された。帰属時期は縄文時代前期・中期、古墳時代、平安時代、中世以降 (As-B 降下以降) である。調査区南側では遺構の密集度が高く遺構プラン及び新旧関係の把握に困難を要する箇所が認められた。各遺構の計測値については遺構種別ごとの一覧表に示した。

2. 堅穴住居跡

縄文時代前期：5軒の堅穴住居跡が検出された。いずれも諸磯b～c式期に帰属するものである。出土遺物には在地の土器とともに浮島式・興津式といった土器も散見された。また船形土器も多量に含む土器も一定量認められ当該期における他地域との関連が想定される。J-1号住居跡は調査区北西部に位置する。北西側は倒木による削平が認められるのと調査区外に範囲が及ぶ。住居跡のほぼ中央に地床炉と考えられる被熱痕が認められ、その北西側には埋設土器 (J-1住1) が設置されていた。出土遺物から諸磯b式期に帰属するものと考えられる。J-3号住居跡は調査区東部に位置し、J-6号住居跡と重複する。切り合い関係からJ-3号住居跡が新しいと考えられる。また、北半部は調査区外に範囲が及ぶ、帰属時期は出土遺物から諸磯c式期と考えられる。J-5号住居跡は調査区南西部に位置し、西半部は調査区外に範囲が及ぶ。住居跡中央部には地床炉と考えられる被熱痕が認められた。帰属時期は出土遺物から諸磯b式期と考えられる。J-6号住居跡は調査区東部に位置する。他の住居跡と比較すると規模が大きいのと、平面形が不整形であることから数軒の重複がある可能性も考えられたが、今回の調査では捉えることができなかった。本住居跡からは、赤漆地に黒漆で文様を描いた浅鉢片 (J-6住8) が出土しており特筆される。今回出土したJ-6住8のように文様構成が把握できるような遺物は群馬県内においては管見に触れない。同様の類例としては山形県押出遺跡が著名である。帰属時期は出土遺物から諸磯c式期に帰属するものと考えられる。J-7号住居跡は調査区南東部に位置し、南半部は調査区外に範囲が及ぶ。古代の住居跡との重複が著しく遺構形状を把握するのに困難を要した。本住居跡は平面形は円形を基調とする直径11.6m以上の大型住居跡である。本調査区周辺域における同時期の住居跡の事例としては大型に分類されるものであり特筆されよう。出土遺物にはJ-6号住居跡と同様、赤漆地に黒漆で文様を描いた

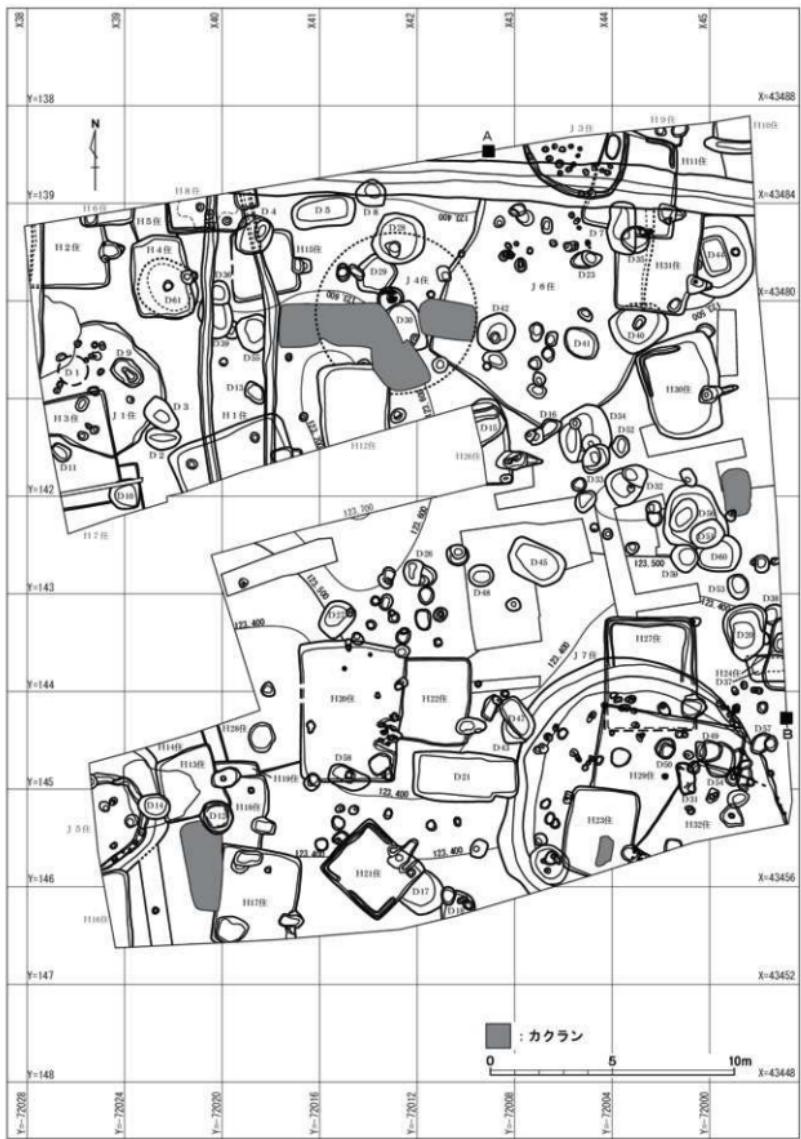


Fig. 5 全体図

た浅鉢片（J - 7住5）が出土している。帰属時期は出土遺物から諸磯E式期に帰属するものと考えられる。

縄文時代中期：J - 4号住居跡が該当する。調査区北側中央部で検出された。削平が著しく、遺構の平面形状の詳細な把握はできなかった。主柱穴と考えられるビットが5基検出され、ビットに囲まれた中央部に炉が認められた。遺構形状については、ビットの配列と当該期における周辺域の住居形状から勘案すると円形と考えられる。炉は北側に礎を1石配するものであった。礎は被熱による表面の剥離が著しかった。炉体土器には深鉢胴部下半を欠いたもの（J - 4住1）が設置されていた。帰属時期は出土遺物から加曾利E III式期と考えられる。

古墳時代：3軒の住居跡（H - 1・21・32）を検出した。当該期の住居跡は周辺域の調査事例も含めて、後に続く奈良・平安時代の住居跡の主軸方位と比較すると約45°北に傾く傾向が認められる。今回の調査においてもH - 21・32号住居跡についてはその傾向に一致することが確認された。H - 1号住居跡は東壁にカマドが付設されており、主柱穴と考えられるビットが2基検出された。南半は調査区外に範囲が及ぶ。埋没土にはHr-FAがブロック状に混入する状態が確認された。H - 21号住居跡は北東壁にカマドが付設されていた。主柱穴と考えられるビットは検出されなかった。遺物の遺存状態が良好であったが、全て床面より10～15cmほど浮いた状態での出土であり住居跡廃絶後に投棄されたものである可能性も考慮されよう。なお、本住居跡も埋没土中にHr-FAブロックを多量に含んでいた。H - 32号住居跡は他の遺構との重複が著しく遺存状態は不良であった。

奈良・平安時代：28軒の堅穴住居跡（H - 2～20・22～24・26～31）が検出された。これらの住居跡は前時代の古墳時代の住居跡とは異なり主軸方位はほぼ東に向いている。また、遺構間の重複も著しく残存状態も不良なものが多く認められた。

出土遺物から8世紀に帰属すると考えられる住居跡は、H - 8・13・15・17～19・27・29～31が該当する。当該期の住居跡は調査区内においては2～3軒を1単位として散在する状況が看取される。H - 8号住居跡では桃と考えられる炭化種子が出土した。H - 13号住居跡からは「雀」の字が刻印された平瓦が出土している。H - 15号住居跡からは「馬」と思われる文字が墨書きされた土師器壺が出土した。H - 17号住居跡からは判読不明だが墨書き土器が1点出土している。H - 18号住居跡においても底面に「太」と墨書きされた土師器壺が出土している。H - 27号住居跡は滑石製の紡錘車を始め、鉄製品刀子や銅製品蛇尾など良好な遺物が出土している。また、カマド燃焼室内からは砂岩製の支脚が出土しており底面には工具痕が良好に認められた。H - 30号住居跡からは削り出し高台を有する壺の底面に「入田」と書かれた墨書き土器が出土した。この「入田」という墨書きは新田郡家間連遺跡とされている天良七堂遺跡を始め、古代新田郡城にあたる周辺遺跡において出土することで知られているものである。本遺跡において出土したことは古代新田郡との関係を示唆する点で重要といえる。H - 31号住居跡では、カマド袖の芯材にほぼ完形の玉環瓦が用いられていた。その他、カマド燃焼室内からは単弁五弁文の軒丸瓦が出土しているほか、良好な状態で鉄鎌が1点出土している。

出土遺物から9～10世紀に帰属すると考えられる住居跡は、H - 2～5・9・11・12・20・22・23・28号住居跡である。H - 3号住居跡からは鬼瓦の一部が出土しており、同様の事例は群馬県高崎市に所在する黒熊中西遺跡に求めることができる。H - 20号住居跡では壁際に礎石と考えられる大型の礎が配された状況が確認できた。礎石と考えられる礎はそれぞれ東壁で3基、西壁で1基、北壁で1基、南壁で1基確認された。この堅穴住居跡に礎石を使用する例は群馬県内においても数例認められるのみであることから特異な事例といえる。本住居跡は出土遺物も豊富で特に鉄製品の出土量が多く（鉄鎌2・釘10・鋸1）他の同時期の住居跡と比較すると突出している。H - 20住1とH - 20住2は口縁部と口縁部が接する状態で出土していることから、H - 20住2はH - 20住1の蓋として用いられていたと考えられる。その他、判読不明の墨書き土器が1点、耳皿、灰釉陶器、混入遺物ではあるが口に「方」の字が刻印された平瓦など多くの遺物が出土している。H - 23号住居跡からは則天文字「天」の墨書きが認められる須恵器壺が出土した。H - 28号住居跡においても判読不能ではあるが墨書き土器が1点出土しているほか、巻貝と考えられる動物遺体が1点出土した。



Fig. 6 繩文時代住居跡全体図

H-6・7・10・14・16・24について切り合ひ関係や埋没土から8世紀以降に帰属する可能性が考えられるものの出土遺物に乏しく詳細な帰属時期については不明であった住居跡である。いずれも土器小片が出土するのみであったが、H-24号住居跡からは桃と考えられる炭化した種子が1点出土している。

遺構名	平面形	規模				主軸	炉・カマド		出土遺物	帰属時期	備考
		長軸	短軸	深さ	面積		全長	幅			
J-1	E	<5.40>	5.10	0.54	24.77	—	0.48	0.36	縄文土器（深鉢）、石器（スクレーバー、打製石斧・凹石・石皿・削片）	縄文時代前期	
J-2	欠番										
J-3	C	4.32	<2.52>	0.72	<19.94>	—	—	—	縄文土器（深鉢）、石器（打製石斧・スクレイバーパーティカル）	縄文時代前期	
J-4	D	(6.60)	(6.60)	0.30	(34.19)	—	0.90	1.02	縄文土器（深鉢・鉢）、土製品（瓦栓）、石器（スクレイバーパーティカル・凹石・削片）、石製品（块状耳飾り）	縄文時代中期	
J-5	D	<5.16>	<3.01>	0.60	<7.32>	—	0.60	0.36	縄文土器（深鉢・鉢）、石器（スクレイバーパーティカル・打製石斧・石核・凹石・石皿・台石・削片）	縄文時代前期	
J-6	B	<10.26>	8.46	0.54	<86.80>	—	—	—	縄文土器（深鉢・浅鉢）、石器（石核・石核・打製石斧・磨石・凹石・石皿）	縄文時代前期	彩唐土器
J-7	D	11.64	<8.40>	0.36	(136.77)	—			縄文土器（深鉢・鉢）、石器（スクレイバーパーティカル・打製石斧・削片）	縄文時代前期	
H-1	C	4.38	<1.92>	0.48	<7.36>	N-76°-E	1.28	<0.50>	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・甕・瓦片）	6世紀後半	
H-2	C	3.00	<2.82>	0.21	<7.29>	N-85°-E	1.08	0.87	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・甕・瓦片）	10世紀	1は混入遺物
H-3	C	4.62	<2.55>	0.33	<10.90>	—	—	—	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・甕・土釜、瓦（平瓦・軒平瓦・鬼瓦）、烈點器（钉）	10世紀	
H-4	B	3.42	2.34	0.39	6.37	N-75°-E	0.68	0.59	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・瓦）、瓦（平瓦）	9世紀	
H-5	C	<1.68>	<1.26>	0.21	<1.97>	—	—	—	土師器（坏）、瓦（平瓦）	10世紀	
H-6	C	2.2	<0.54>	0.42	<0.74>	—	—	—	出土遺物なし。	平安時代以降	
H-7	C	<3.21>	<1.95>	0.36	<6.26>	—	—	—	土師器小片	平安時代以降	
H-8	C	3.18	<1.41>	0.36	<3.67>	N-9°-W	0.87	<0.75>	土師器（坏・甕）、須恵器（坏・甕）、石製品（白玉）、鐵製品（釘・鍵）、灰燼（種子）	8世紀	
H-9	C	<1.98>	<0.84>	0.42	<1.50>	N-87°-E	0.69	<0.42>	土師器（坏）、須恵器（壺）、羽釜、瓦（平瓦）	10世紀	
H-10	C	<3.06>	<2.10>	0.69	<5.80>	—	—	—	土師器小片	平安時代以降	
H-11	B	4.08	3.78	0.36	13.81	N-96°-E	1.11	0.69	須恵器（坏・壺）、羽釜、土釜、瓦（平瓦）	10世紀	
H-12	B	<3.09>	2.88	0.30	<7.34>	—	—	—	土師器小片、須恵器（坏・壺）、鐵製品（釘）	10世紀	
H-13	A	2.76	2.76	0.18	6.81	N-76°-E	1.23	0.69	土師器（坏・甕）、須恵器（坏）、瓦（平瓦）	8世紀	
H-14	F	<0.54>	—	—	—	—	—	—	瓦（瓦片）	平安時代以降	削平らしい。
H-15	A	2.76	2.64	0.18	6.34	N-86°-E	0.78	0.63	土師器（坏・甕）、須恵器（壺）、瓦（平瓦）	8世紀	墨書き土器
H-16	C	<3.24>	<1.02>	0.30	<2.75>	—	—	—	土師器小片、須恵器小片	平安時代以降	
H-17	C	<3.78>	3.36	0.36	<10.37>	N-83°-W	0.99	1.02	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・坏・甕）、鐵製品（刀子・鍵）	8世紀	墨書き土器
H-18	C	<3.0>	2.64	0.36	<7.08>	N-84°-W	0.99	0.66	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・坏・甕）	8世紀後半～	墨書き土器
H-19	C	3.42	<1.56>	0.15	<4.55>	—	—	—	土師器（坏・甕）、須恵器（壺・坏）	8世紀	
H-20	B	5.40	4.44	0.36	23.00	N-91°-E	1.14	1.59	土師器（坏）、須恵器（坏・壺・耳皿）、灰陶陶器（壺・坏・甕）、瓦（平瓦）、鐵製品（鐵鑄・釘・鍵）	10世紀	燧石、平瓦に口に「方」の刻印。
H-21	A	3.30	3.12	0.27	8.42	N-45°-E	1.47	1.29	土師器（坏）、須恵器（壺・坏・甕）、瓦（平瓦）、鐵製品（鐵鑄・釘・鍵）	6世紀後半	
H-22	C	3.6	<2.76>	0.15	<9.44>	N-90°-E	1.23	0.69	土師器（坏）、須恵器（坏・壺）、土釜、羽釜、瓦（平瓦）、石製品（白玉）	10世紀	
H-23	B	3.66	2.88	0.42	(9.18)	N-78°-W	1.17	0.69	土師器（坏）、須恵器（坏・壺）、土釜、羽釜、瓦（平瓦）、石製品（白玉）	10世紀	墨書き土器

※単位：m 面積：m² 平面形態=A：圓丸方形、B：圓丸長方形、C：圓丸長方形もしくは圓丸方形、D：円形、E：不整形、F：不明 計測値の規模は上端幅を計測した。面積については下端幅を用いて算出した。

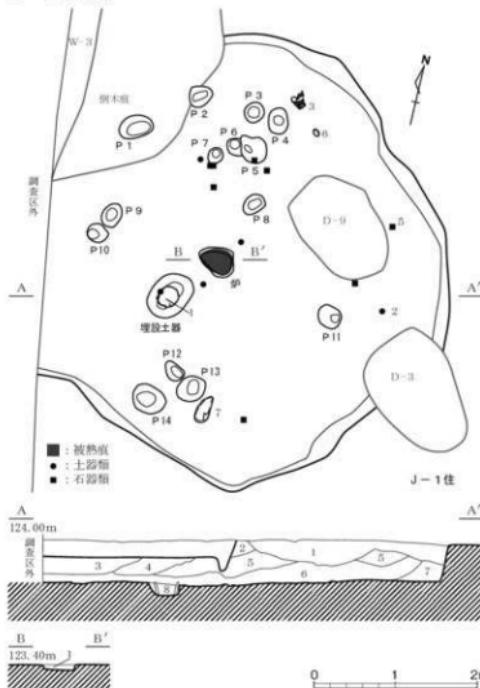
Tab. 1 堅穴住居跡一覧（1）

遺構名	平面形	規模				主軸方位	伊・カマド 全長	出土遺物	帰属時期	備考	
		長軸	短軸	深さ	面積						
H-24	C	<3.00>	(0.90)	0.45	<2.20>	—	—	土師器小片、須恵器(坏)、瓦(平瓦・丸瓦)、炭化種子	平安時代以降		
H-25 丸番											
H-26	C	3.54	(1.14)	0.48	<3.12>	N-99° -E	1.95	0.74	土師器(坏・焼)、須恵器(坏・焼)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(棒状製品)	8世紀後半～9世紀	
H-27	B	4.62	3.72	0.21	15.66	N-88° -E	1.07	1.11	土師器(坏・焼)、須恵器(坏・焼)、石製品(紡錘車・支脚)、鐵製品(刀子)、銅製品(乾尾)	8世紀	
H-28	C	<3.48>	<2.52>	0.15	<8.41>	—	—	土師器(坏・焼)、須恵器(坏・焼)、羽釜、動物遺体(巻貝)	10世紀		
H-29	C	5.94	<5.52>	0.30	<31.45>	—	—	土師器(坏・焼)、須恵器(蓋・坏・焼)、鉄製品(刀子)、棒状製品	8世紀	墨書き土器。	
H-30	B	4.20	3.18	0.48	8.21	N-77° -E	1.67	0.75	土師器(坏・焼)、須恵器(蓋・坏・焼)、土製品(土鍋)、鐵製品(刀子)	8世紀	墨書き土器。
H-31	B	<4.32>	3.42	0.21	<13.36>	N-97° -E	1.02	0.78	土師器(坏・焼)、須恵器(坏・焼)、瓦(平瓦・軒丸瓦)、鐵製品(鉄鍔)	8世紀後半～9世紀	
H-32	C	<4.96>	(2.88)	0.48	<9.98>	—	—	土師器(坏・焼)	6世紀後半		

※単位:m 面積:m² 平面形態=A: 囲丸方形、B: 囲丸長方形、C: 囲丸長方形もしくは圓丸方形、D: 円形、E: 不整形、F: 不明 計測値の規模は上端幅を計測した。面積については下端幅を用いて算出した。

Tab. 2 堪穴住居跡一覧 (2)

J-1号住居跡



ピットNo.	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
P 1	0.43・0.28・1.36
P 2	0.31・0.27・0.14
P 3	0.26・0.25・0.39
P 4	0.41・0.32・0.39
P 5	0.41・0.32・0.26
P 6	0.23・0.18・0.39
P 7	0.21・0.19・0.26
P 8	0.30・0.22・0.10
P 9	0.31・0.23・0.34
P 10	0.27・0.23・0.25
P 11	0.31・0.27・0.47
P 12	0.28・0.19・0.18
P 13	0.38・0.31・0.67
P 14	0.43・0.35・0.41

A-A' (J-1住)

1灰褐色土 (107R4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石少量、紺社砂層ブロック (0.5～1cm) 多量。

2暗褐色土 (107R3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石少量、紺社砂層ブロック (0.5～1cm) 少量。

3黒褐色土 (107R3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量、紺社砂層・塊土質。

4暗褐色土 (107R3/3) しまりあり粘性ある。黄色軽石多量、白色軽石少量、紺社砂層ブロック (0.5～1cm) 少量。

5黒褐色土 (107R3/2) しまりあり粘性ある。紺社砂層多量、白色軽石・黄色軽石微量。

6暗褐色土 (107R3/3) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量、紺社砂層ブロック (0.5～5cm) 少量。

7暗褐色土 (107R3/3) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石少量、紺社砂層微量。

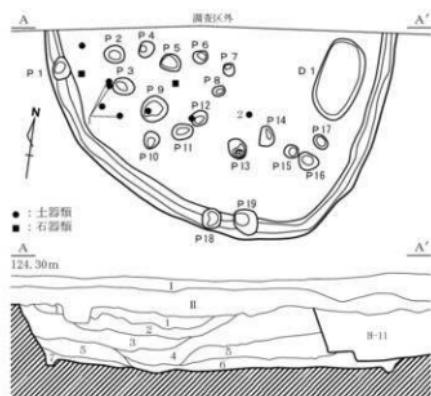
8黒褐色土 (107R3/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石・紺社砂層ブロック (0.5～3cm) 少量。

B-B' (J-1住)

1明赤褐色土 (50R5/5) しまりあり粘性高い。被熱層。白色土ブロック (0.5～1cm)・白色軽石少量。

Fig. 7 堪穴住居跡遺構図 (1)

J - 3号住居跡



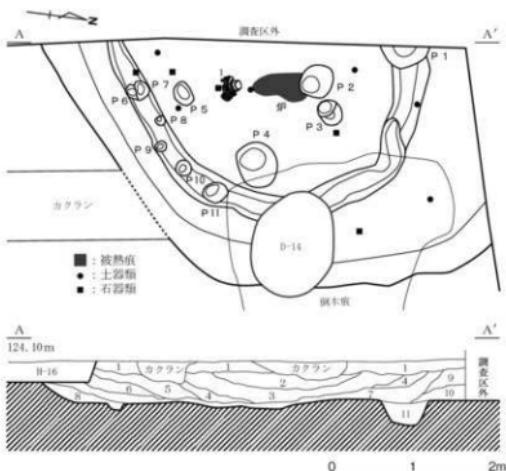
遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 平均:m
P 1	0.29 • 0.22 • 0.28
P 2	0.26 • 0.22 • 0.17
P 3	0.27 • 0.21 • 0.33
P 4	0.21 • 0.18 • 0.13
P 5	0.26 • 0.21 • 0.07
P 6	0.19 • 0.16 • 0.19
P 7	0.16 • 0.14 • 0.19
P 8	0.16 • 0.13 • 0.15
P 9	0.33 • 0.33 • 0.10
P 10	0.22 • 0.19 • 0.29
P 11	0.27 • 0.21 • 0.33
P 12	0.22 • 0.18 • 0.25
P 13	0.27 • 0.22 • 0.19
P 14	0.25 • 0.19 • 0.10
P 15	0.18 • 0.17 • 0.24
P 16	0.26 • 0.22 • 0.16
P 17	0.20 • 0.16 • 0.06
P 18	0.25 • 0.24 • 0.11
P 19	0.35 • 0.30 • 0.18
D 1	1.02 • 0.54 • 0.20

0 1 2m

A-A' (J - 3住)

- 1 黒褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。総社砂層少量。
 2 黒褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。総社砂層少量。黄色軽石微量。
 3 喰褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。白色軽石・総社砂層微量。
 4 喰褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量。総社砂層ブロック (0.5~1cm) 少量。炭化物微量。
 5 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量。総社砂層少量。
 6 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5~3cm) 少量。
 7 にぶい・黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。白色軽石微量。

J - 5号住居跡



ピット No.	計測値(長軸・短軸・深さ) 平均:m
P 1	0.61 • 0.29 • 0.32
P 2	0.41 • 0.39 • 0.23
P 3	0.34 • 0.28 • 0.20
P 4	0.57 • 0.49 • 0.20
P 5	0.30 • 0.22 • 0.36
P 6	0.22 • 0.14 • 0.12
P 7	0.24 • 0.18 • 0.12
P 8	0.13 • 0.12 • 0.11
P 9	0.14 • 0.13 • 0.12
P 10	0.20 • 0.20 • 0.14
P 11	0.32 • 0.26 • 0.18

A-A' (J - 5住)

- 1 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石少量。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5~3cm) 微量。
 2 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。総社砂層少量。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5~1cm) 少量。黄色軽石微量。
 3 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石大量。白色軽石・総社砂層少量。白色軽石微量。
 4 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量。総社砂層微量。白色軽石微量。総社砂層微量。白色軽石微量。
 5 黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石微量。白色軽石微量。総社砂層微量。白色軽石微量。総社砂層微量。白色軽石微量。
 6 黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石微量。白色軽石微量。総社砂層微量。白色軽石微量。総社砂層微量。白色軽石微量。

- 7 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。黄色軽石・総社砂層ブロック (0.5~3cm) 少量。
 8 にぶい・黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。総社砂層大量。白色軽石・黄色軽石微量。白色軽石・炭化物微量。
 9 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層大量。白色軽石・黄色軽石微量。白色軽石・炭化物微量。
 10 にぶい・黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。総社砂層多量。白色軽石・黄色軽石微量。
 11 にぶい・黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5~1cm) 多量。白色軽石・黄色軽石微量。

Fig. 8 穴窓住跡遺構図 (2)

J-4号住居跡

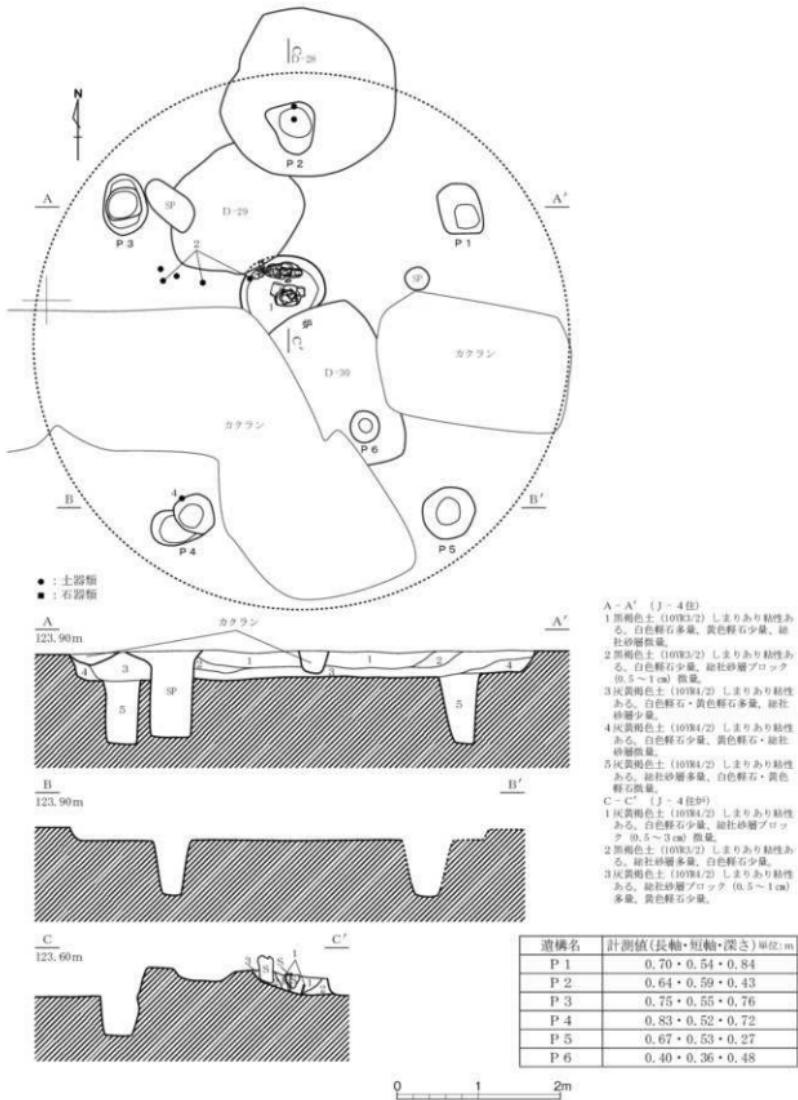
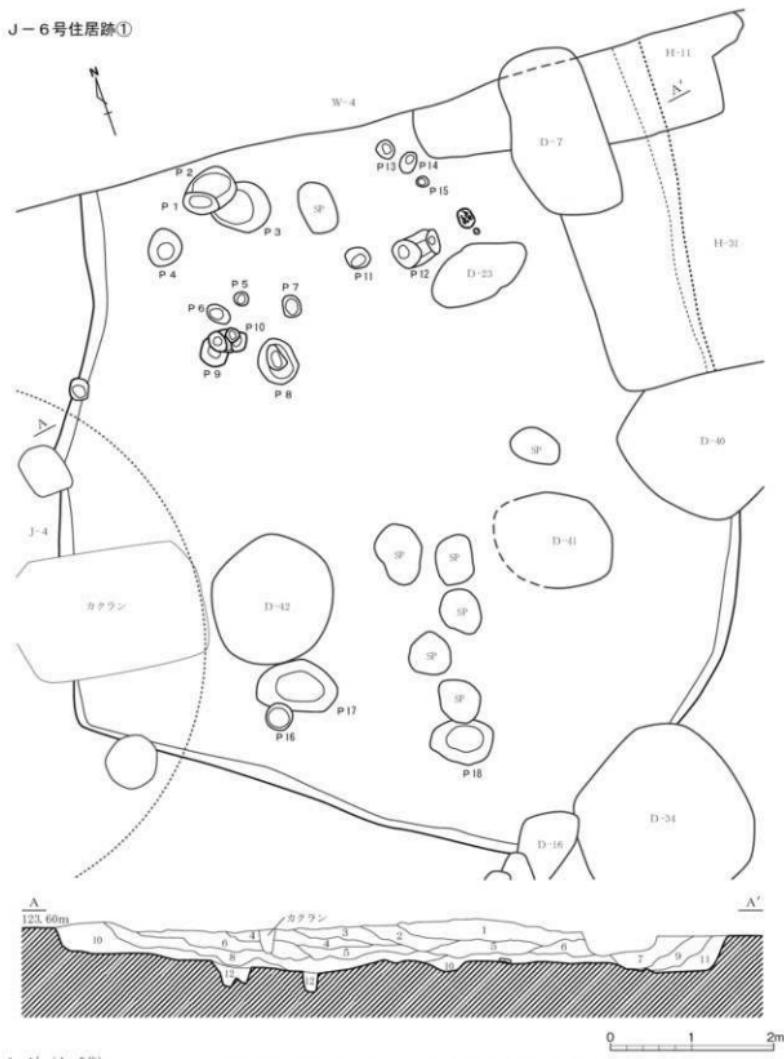


Fig. 9 堪穴住居跡遺構図 (3)

J-6号住居跡①



- A-A' (J-5住)
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量、総社
砂層少量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石多量、総社
砂層少量。
 - 3 黄褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。黄色軽石・総社砂層
ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。黄色軽石・総社砂層少
量。
 - 5 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石多量。白色軽石少量、総社
砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。
 - 6 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。黄色軽石・総社砂層少
量、炭化物混在。
- 7 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量、黄色軽石・総社砂層ブロッ
ク (0.5 ~ 1cm) 数量。
- 8 黄褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性ある。黄色軽石・黒褐色ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。
白色軽石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
- 9 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。総社砂層ブロック (0.5
~ 3cm) 少量。黄色軽石微量。
- 10 梅色土 (10YR4/4) しまりあり粘性ある。白色軽石・黄色軽石少量。
- 11 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 5cm) 多量。
白色軽石・黄色軽石少量。
- 12 にごく黄褐色土 (10YR6/4) しまりあり粘性ある。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5
~ 1cm) 多量。

Fig. 10 積穴住居跡構図 (4)

J - 6号住居跡②

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 単位:m
P 1	0.46 • 0.28 • 0.14
P 2	0.59 • 0.51 • 0.08
P 3	0.70 • 0.61 • 0.13
P 4	0.47 • 0.41 • 0.76
P 5	0.18 • 0.19 • 0.25
P 6	0.32 • 0.21 • 0.41
P 7	0.27 • 0.22 • 0.32
P 8	0.46 • 0.58 • 0.52
P 9	0.34 • 0.33 • 0.32

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 単位:m
P 10	0.48 • 0.31 • 0.40
P 11	0.32 • 0.27 • 0.41
P 12	0.60 • 0.40 • 0.18
P 13	0.24 • 0.21 • 0.18
P 14	0.28 • 0.20 • 0.28
P 15	0.16 • 0.14 • 0.16
P 16	0.34 • 0.34 • 0.29
P 17	1.00 • 0.65 • 0.02
P 18	1.00 • 0.65 • 0.02

J - 7号住居跡①

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 単位:m
P 1	0.24 • 0.22 • 0.46
P 2	0.20 • 0.19 • 0.12
P 3	0.40 • 0.24 • 0.42
P 4	0.19 • 0.19 • 0.26
P 5	0.50 • 0.38 • 0.14
P 6	0.49 • 0.37 • 0.06
P 7	0.50 • 0.39 • 0.44
P 8	0.43 • 0.35 • 0.38
P 9	0.33 • 0.31 • 0.15
P 10	0.35 • 0.31 • 0.54
P 11	0.29 • 0.23 • 0.26
P 12	0.47 • 0.36 • 0.11
P 13	0.31 • 0.30 • 0.32
P 14	0.24 • 0.17 • 0.23
P 15	0.24 • 0.18 • 0.18
P 16	0.25 • 0.24 • 0.10
P 17	0.22 • 0.16 • 0.44
P 18	0.27 • 0.19 • 0.34
P 19	0.41 • 0.27 • 0.39
P 20	0.34 • 0.18 • 0.43
P 21	0.26 • 0.25 • 0.33
P 22	0.25 • 0.21 • 0.14
P 23	0.23 • 0.18 • 0.13
P 24	0.33 • 0.23 • 0.13
P 25	0.34 • 0.20 • 0.37
P 26	0.49 • 0.30 • 0.25
P 27	0.37 • 0.32 • 0.31
P 28	0.26 • 0.17 • 0.44
P 29	0.25 • 0.23 • 0.48
P 30	0.31 • 0.22 • 0.45
P 31	0.35 • 0.20 • 0.26
P 32	0.18 • 0.17 • 0.20

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 単位:m
P 33	0.60 • 0.44 • 0.08
P 34	0.26 • 0.22 • 0.38
P 35	0.35 • 0.31 • 0.05
P 36	0.30 • 0.19 • 0.50
P 37	0.32 • 0.27 • 0.42
P 38	0.62 • 0.50 • 0.31
P 39	0.25 • 0.19 • 0.24
P 40	0.25 • 0.20 • 0.06
P 41	0.35 • 0.28 • 0.59
P 42	0.35 • 0.29 • 0.10
P 43	0.63 • 0.35 • 0.18
P 44	0.33 • 0.20 • 0.17
P 45	0.25 • 0.22 • 0.04
P 46	0.20 • 0.18 • 0.07
P 47	0.17 • 0.11 • 0.02
P 48	0.20 • 0.18 • 0.13
P 49	0.18 • 0.13 • 0.17
P 50	0.13 • 0.09 • 0.16
P 51	0.28 • 0.25 • 0.27
P 52	0.27 • 0.13 • 0.20
P 53	0.16 • 0.07 • 0.04
P 54	0.11 • 0.07 • 0.18
P 55	0.13 • 0.07 • 0.14
P 56	0.14 • 0.07 • 0.19
P 57	0.57 • 0.31 • 0.54
P 58	0.23 • 0.21 • 0.13
D 1	1.66 • 0.73 • 0.14
D 2	1.00 • 0.85 • 0.10
D 3	0.84 • 0.74 • 0.11
D 4	0.72 • 0.53 • 0.06
D 5	1.72 • 1.43 • 0.79

A - A' (J - 7住)

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石灰量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。
 2 黒褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。白色粘石多量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。
 3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石灰。褐色土ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。黄色鮮石灰少量。
 4 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。白色粘石大容量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。
 5 混合褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。白色粘石多量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
 6 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。白色粘石微量。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
 7 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。白色粘石。黄色鮮石灰少量。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
 8 二色性褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。白色粘石。黄色鮮石灰少量。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。白色鮮石灰。黄色鮮石灰微量。
 9 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色粘石多量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
 10 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色粘石多量。黄色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。黃色鮮石灰微量。
 11 灰黄褐色 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色粘石。黃色鮮石灰。純社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。黃色鮮石灰微量。
 12 灰黄褐色 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色粘石。黃色鮮石灰。原化物微量。

Fig. 11 堅穴住居跡遺構図 (5)

J - 7号住居跡②

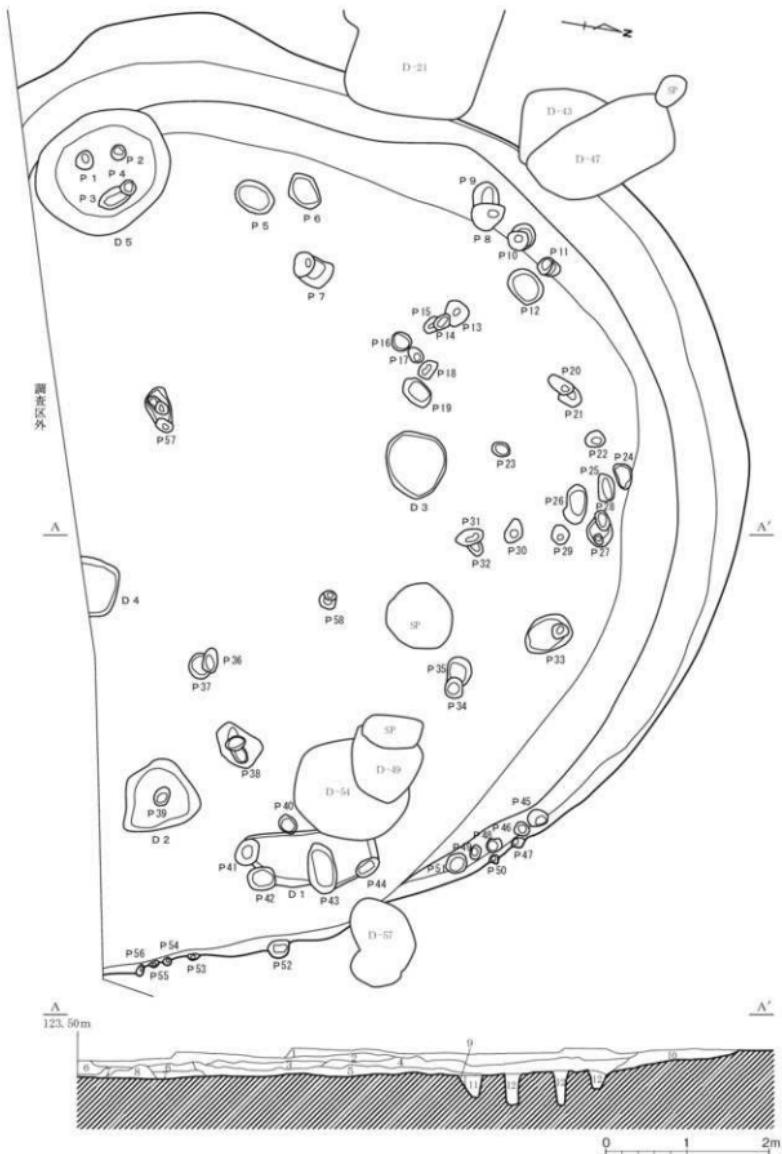


Fig. 12 壓穴住居跡遺構図 (6)

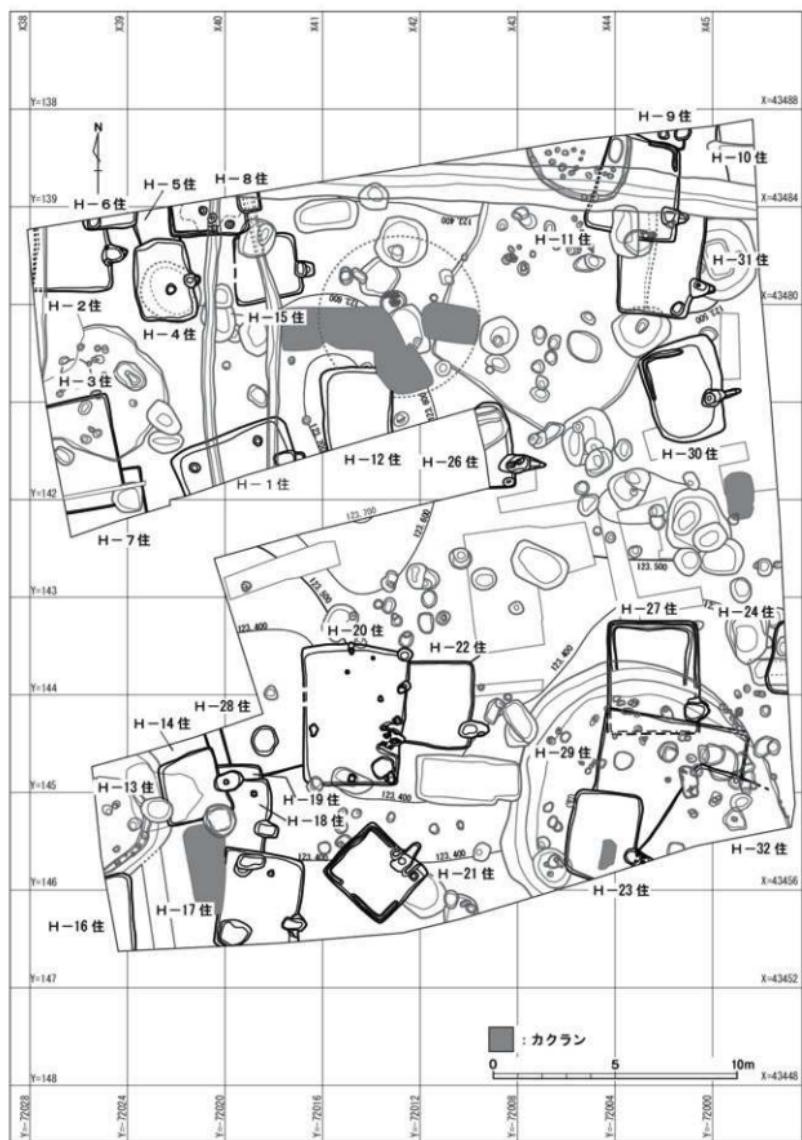
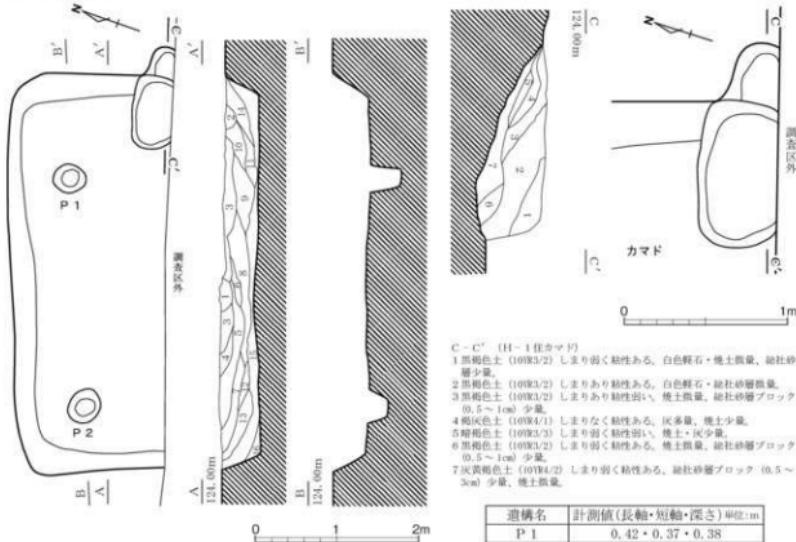


Fig. 13 古墳時代以降堅穴住跡全体図

H-1号住居跡



遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ) 単位:mm
P 1	0.42・0.37・0.38
P 2	0.44・0.42・0.22

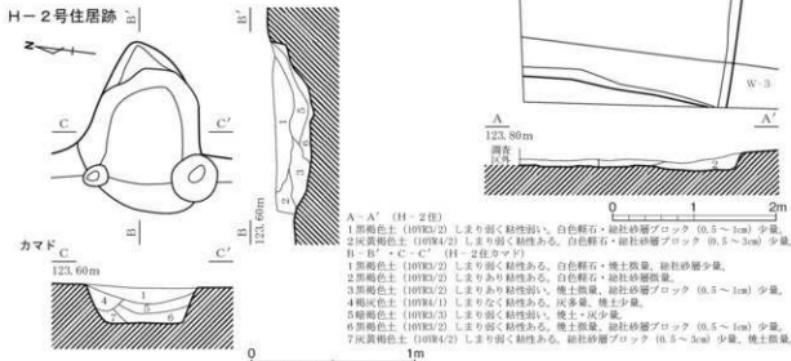
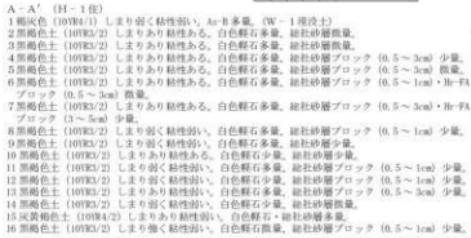
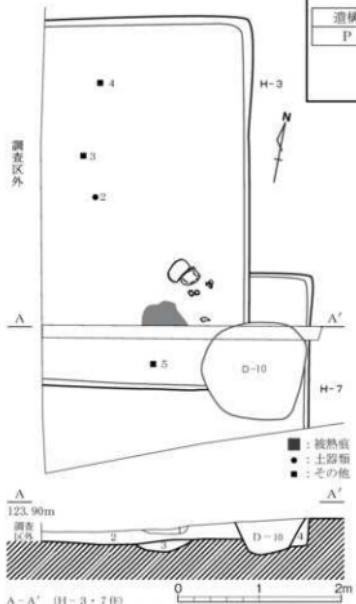
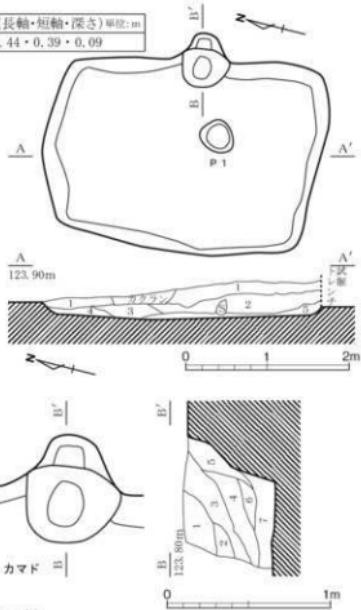


Fig. 14 穹穴住居跡遺構図(7)

H-3・7号住居跡



H-4号住居跡



H-5・6・8号住居跡



- A-A' (H-4住)
1 黒褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性弱い。A-C 多量、総社砂層微量。
2 黒褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色粗石少量、総社砂層・堆土微量。
3 黑褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性ある。白色粗石少量、総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm)、炭化物微量。
4 黑褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性ある。白色粗石少量、総社砂層少量、堆土・炭化物微量。
5 黑褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性ある。白色粗石多量、総社砂層微量、炭化物微量。
6 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 少量、堆土微量。
1 黑褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。A-C 少量、堆土微量。
2 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 少量、堆土微量、総社砂層微量。
3 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C、総社砂層少量、堆土微量。
4 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量、A-C・堆土微量。

6 ふら黄褐色土 (10YR4/4) しまりあり粘性ある。A-C、総社砂層微量。

6 ふら黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C、総社砂層微量、堆土少量。

7 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量、堆土少量。

8 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量、堆土少量。

9 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量、堆土少量。

10 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。堆土多量、A-C、炭化物少量。

11 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。堆土多量、A-C、総社砂層微量。

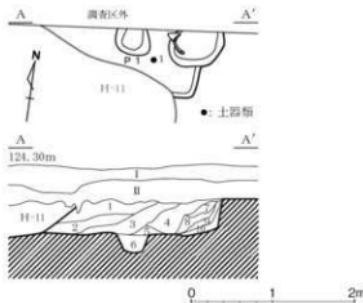
12 黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。A-C 多量、堆土・炭化物微量。

Fig. 15 堅穴住居跡遺構図 (8)

H-5・6・8号住居跡②

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
H-6 P 1	0.53・<0.43>・0.10
H-8 P 1	0.36・0.50・0.18
H-8 P 2	0.42・0.24・0.38
H-8 P 3	0.42・0.36・0.22
H-8 P 4	0.30・0.30・0.08

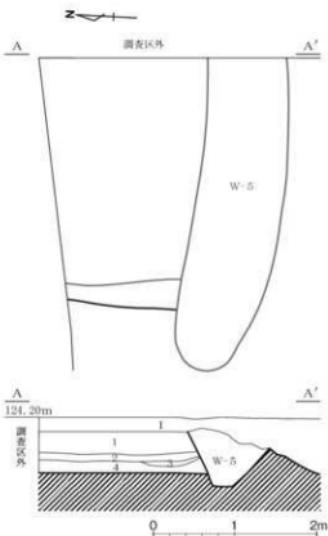
H-9号住居跡



A-A' (H-9住)

- 1灰黃褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ar-C多量、総社砂留多量、焼土微量。
- 2灰黃褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ar-C多量、総社砂留ブロック (0.5 ~1cm) 少量、焼土・炭化物微量。
- 3灰黃褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ar-C少量、総社砂留多量、焼土微量。
- 4暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C・淡黄色粘質土ブロック (0.5 ~1cm) 少量、焼土・炭化物微量。
- 5褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。燒土多量、Ar-C少量。
- 6灰黃褐色土 (10YR4/2) しまりなく粘性弱い。総社砂留少量、Ar-C微量。
- 7暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。燒土少量、Ar-C・総社砂留微量。
- 8灰褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。燒土多量、総社砂留少量、Ar-C微量。
- 9赤褐色土 (5YR8/6) しまりあり粘性ない。焼土層、天井の崩落土。
- 10黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。焼土、Ar-C・総社砂留微量。

H-10号住居跡



A-A' (H-10住)

- 1灰黃褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。総社砂留多量、Ar-C微量、焼土・総社砂留微量。
- 2暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C少量、焼土・総社砂留微量。
- 3暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色粘質土多量、Ar-C微量。
- 4二五ニ黄褐色 (10YR5/4) しまり弱く粘性ある。総社砂留多量、Ar-C微量。

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
H-9 P 1	0.42・<0.30>・0.24

H-11号住居跡

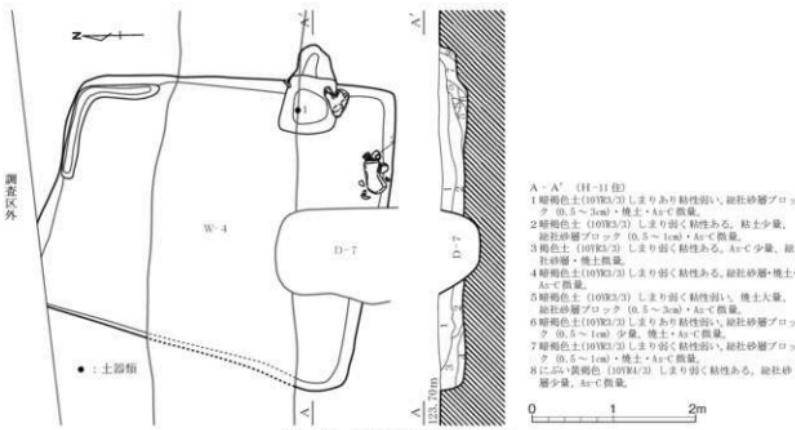
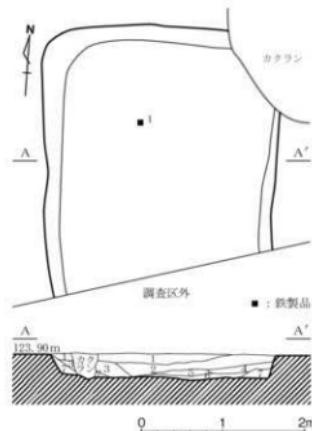


Fig. 16 堪穴住居跡構造図 (9)

H-12号住居跡

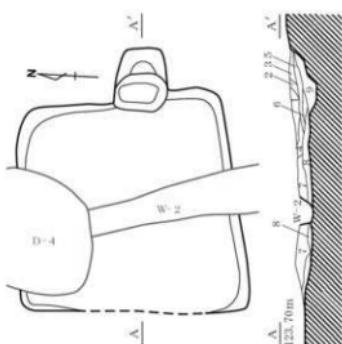


- A-A' (H-12 住)
1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層、
堆土微量。
2 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層、堆土、
炭化物微量。
3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層少量、
堆土微量。
4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層ブロック
0.5～1cm 少量。
5 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、堆土・炭化物、
総社砂層少量。
6 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、堆土微量、
総社砂層ブロック (0.5～2cm) 多量、Ar-C 少量。
7 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層微量。

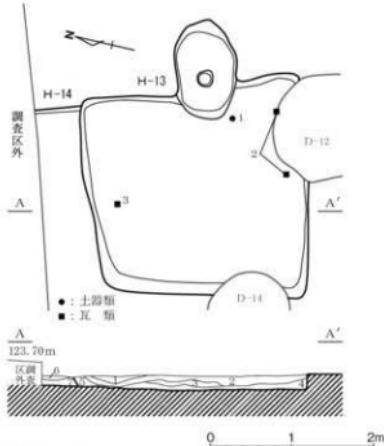
B-B' (H-12 カマ)

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層ブロック (0.5～1cm) 数量。
2 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、堆土・炭化物微量。
3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、堆土・炭化物、
総社砂層ブロック (0.5～1cm) 数量。
4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、堆土微量。
5 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層微量。
6 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。灰大量、堆土微量、
総社砂層微量。
7 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、Ar-C 少量、堆土・炭化物微量。

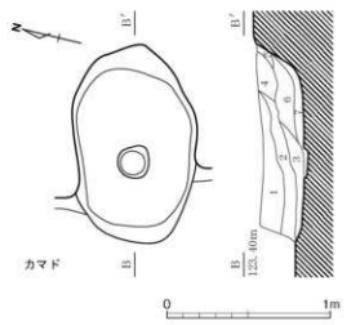
H-15号住居跡



H-13・14号住居跡



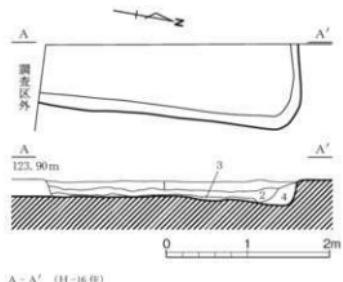
- A-A' (H-13・14 住)
1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、炭化物微量。
2 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層ブロック (0.5～3cm) 少量、
堆土微量。
3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層微量。
4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層ブロック (0.5～1cm) 数量。
5 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層微量。
6 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層微量。
7 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層ブロック (0.5～5cm) 少量。



- A-A' (H-13 住)
1 黒褐色土 (7.5YR3/4) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、堆土微量。
2 黒褐色土 (7.5YR3/4) しまりあり粘性ある。堆土ブロック (1～4cm) 多量、炭化物少量。
3 黑褐色土 (7.5YR3/4) しまりあり粘性ある。堆土粒多量、堆土ブロック (0.5～1cm)。
Ar-C 少量。
4 塗糊褐色 (7.5YR2/4) しまりあり粘性あり。Ar-C 少量、堆土微量。
5 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、総社砂層微量、堆土微量。
6 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。白色粘土少量、総社砂層微量。
7 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層ブロック (0.5～2cm) 少量。
8 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性あり。Ar-C 少量、総社砂層ブロック (0.5～5cm) 数量、Ar-C 少量。
9 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ar-C 少量、総社砂層ブロック (0.5～2cm) 数量。

Fig. 17 穴窓住居跡遺構図 (10)

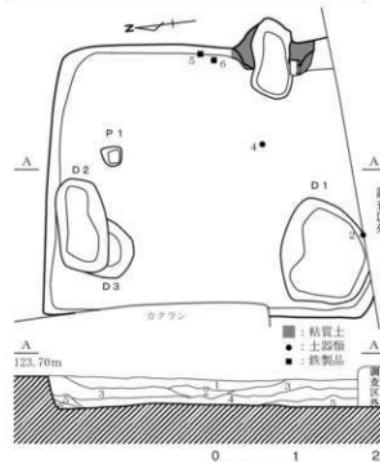
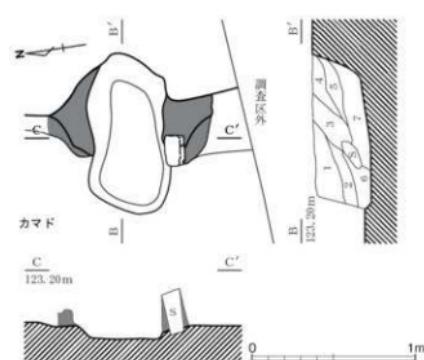
H-16号住居跡



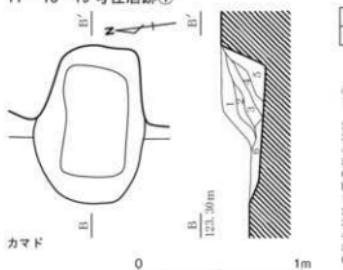
A-A' (H-16住)

- 1 黄褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 粘土砂層多量、他土微量。
- 2 黑褐色土 (7, 5YR3/3) しまりあり粘性ある。他社砂層多量、Ar-C 少量、他土少量。
- 3 塗褐色土 (7, 5YR3/3) しまりあり粘性ある。粘土砂層多量、Ar-C 少量。
- 4 黑褐色土 (10YR2/2) しまりあり粘性ある。Ar-C 多量、他社砂層・他土少量。炭化物微量。

H-17号住居跡



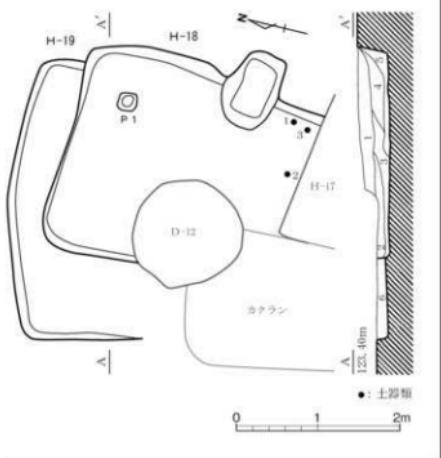
H-18・19号住居跡①



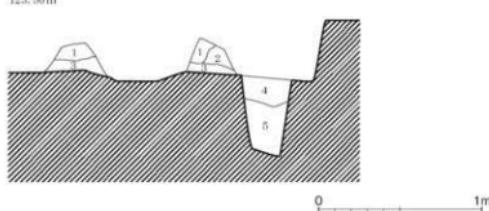
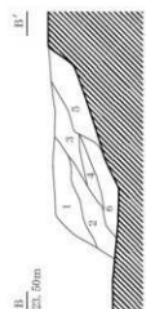
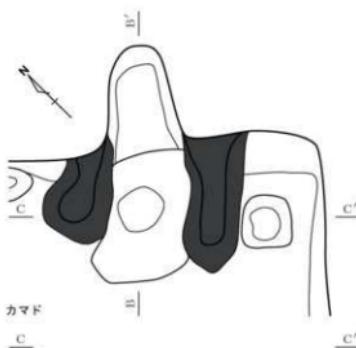
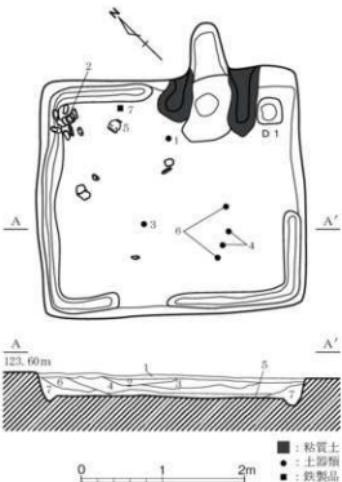
遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
H-18 P 1	0.24・0.24・0.16
H-17 D 1	1.16・0.67・0.19
H-17 D 2	1.14・0.60・0.20
H-17 D 3	0.69・<0.30>・0.16

Fig. 18 穴竪住居跡遺構図 (1)

H-18・19号住居跡②



H-21号住居跡



遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
H-21 D 1	0.32・0.32・0.48

Fig. 19 堪穴住居跡遺構図 (12)

H-20号住居跡

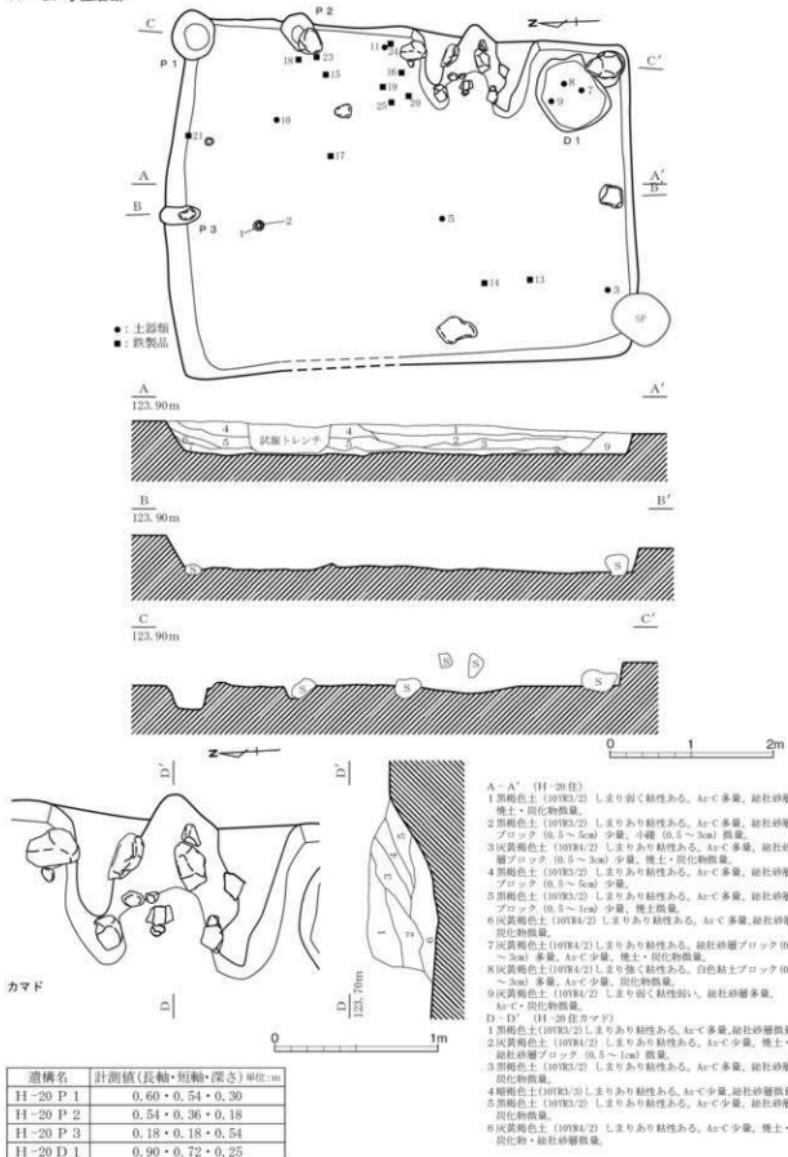
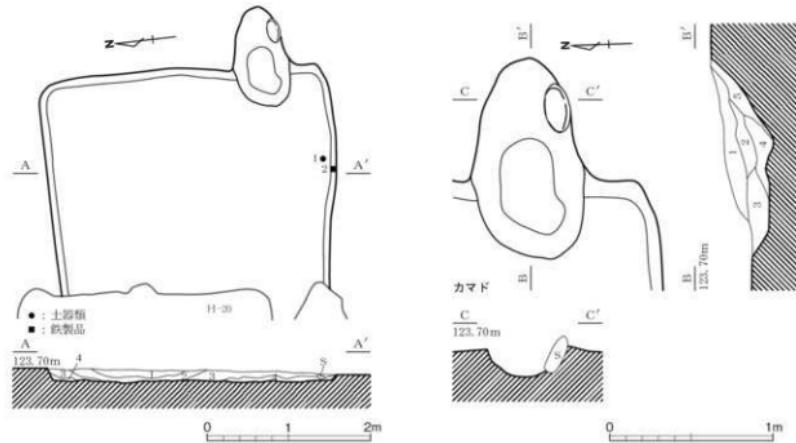


Fig. 20 堪穴住跡遺構図 (13)

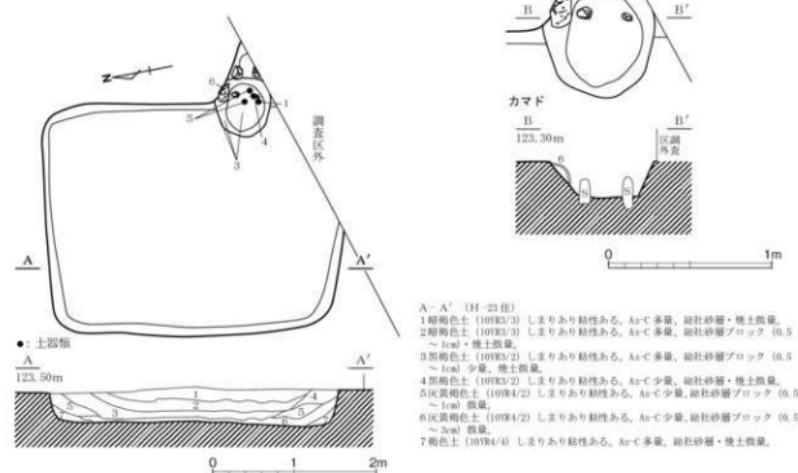
H-22号住居跡



A-A' (H-22住)

- 1 黒褐色土 (10YR6/2) しまり弱く粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層微量。
- 2 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 多量、燒土微量。
- 3 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 多量、kr-C 少量。
- 4 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。縦社砂層ブロック (0.5~3cm) 多量、kr-C 少量。
- 5 黑褐色土 (H-22住カマド)
- 1 黒褐色土 (10YR6/2) しまり弱く粘性ある。kr-C 多量、燒土微量。
- 2 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。kr-C・縦社砂層少量、燒土微量。
- 3 黑褐色土 (10YR6/2) しまりあり粘性ある。kr-C 少量、燒土・縦社砂層微量。
- 4 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 多量、燒土・灰微量。
- 5 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。縦社砂層多量。As-C 少量。

H-23号住居跡

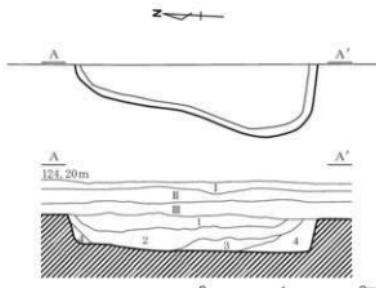


A-A' (H-23住)

- 1 暗褐色土 (10YR5/2) しまりあり粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層・焼土微量。
- 2 暗褐色土 (10YR5/3) しまりあり粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 燃土微量。
- 3 黑褐色土 (10YR6/2) しまりあり粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 少量、焼土微量。
- 4 黑褐色土 (10YR6/2) しまりあり粘性ある。kr-C 少量、縦社砂層・焼土微量。
- 5 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。kr-C 少量、縦社砂層ブロック (0.5~1cm) 燃土微量。
- 6 淡黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。kr-C 少量、縦社砂層ブロック (0.5~3cm) 燃土微量。
- 7 黑褐色土 (10YR4/4) しまりあり粘性ある。kr-C 多量、縦社砂層・焼土微量。

Fig. 21 壁穴住居跡遺構図 (14)

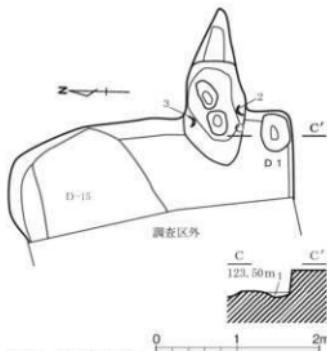
H-24号住居跡



A-A' (H-24住)

- 1 黒褐色土 (10VR3/2) しまり弱く粘性高い。A-C 多量。総社砂層少層。
- 2 黒褐色土 (10VR3/2) しまり弱く粘性高い。A-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 2m) 少量。炭化物微量。
- 3(灰) 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C 少量。黄色系石・総社砂層間隙。
- 4(灰) 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。

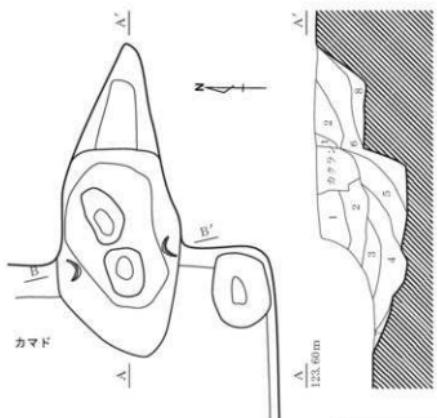
H-26号住居跡



A-A' (H-26住)

- 1 黒褐色土 (10VR3/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量。総社砂層・焼土微量。
 - 2 黒褐色土 (10VR3/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 2m) 少量。焼土微量。
 - 3 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性強い。総社砂層多層。地土・炭少量。A-C 多量。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/1) しまり弱く粘性強い。炭屑・焼土微量。
 - 5 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。地土少量。A-C 微量。
 - 6 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。A-C・焼土微量。
 - 7 黑褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性強い。炭屑微量。総社砂層少層。焼土・A-C 多量。
 - 8 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。A-C 微量。
- B-B' (H-26住 D 1)
- 1 斜褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性強い。A-C・褐色粘土質ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。燒土・地土微量。

H-27号住居跡①



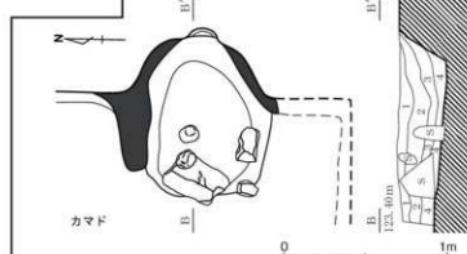
カマド

遺構名	計測値(長軸・短軸・深さ)単位:m
H-26 D 1	0.45・0.36・0.06

A-A' (H-27住)

- 1 單面削出土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。A-C・焼土多層。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。炭化物微量。
 - 2 斜褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。A-C 少量。総社砂層・焼土微量。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量。総社砂層少層。焼土微量。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量。総社砂層・焼土・炭化物微量。
 - 5 黑褐色土 (10YR3/1) しまり弱く粘性ある。A-C・総社砂層微量。
 - 6 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A-C・褐色粘土質ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
- C-C' (H-27住カマド)
- 1 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。A-C 多量。焼土・炭化物微量。
 - 2 斜褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。A-C・焼土少量。総社砂層・炭化物微量。
 - 3 黑褐色土 (10YR3/1) しまりあり粘性ある。焼土少量。A-C・炭化物微量。
 - 4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。焼土微量。A-C・総社砂層少層。焼土微量。

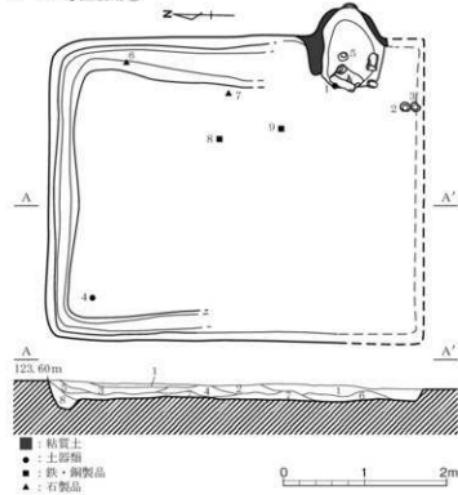
C-C' (H-27住カマド)



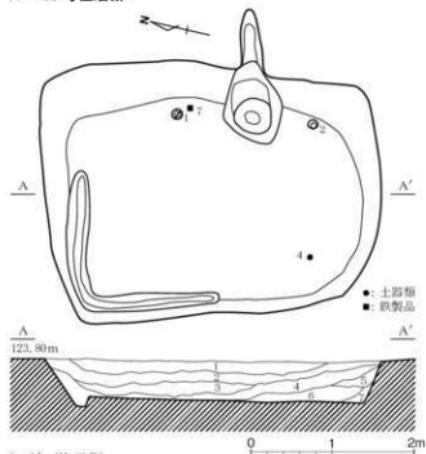
カマド

Fig. 22 竪穴住居跡遺構図 (15)

H-27号住居跡②



H-30号住居跡



- 1 黒褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層・他土微量。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。炭化物少量。他土微量。
- 3 黑褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm)・他土微量。
- 4 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 燐。
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層少量。
- 6 灰褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。Ae-C 少量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm)・他土微量。
- 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。
- 8 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層微量。
- 9 黑褐色土 (10YR4/4) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 燐。粘質土。灰井の剥離土。
- 10 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 燐。少量化。他土微量。
- 11 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 少量。第2層? (0.5 ~ 3cm) 少量。他土微量。
- 12 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 少量。Ae-C 燐。
- 13 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ae-C 多量。総社砂層微量。

H-28号住居跡

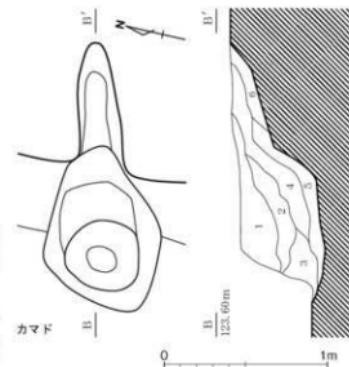
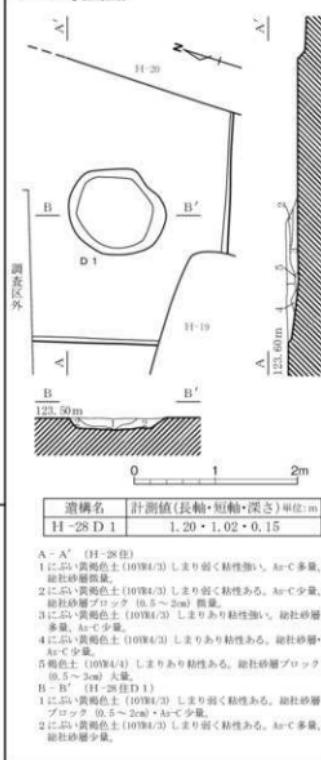
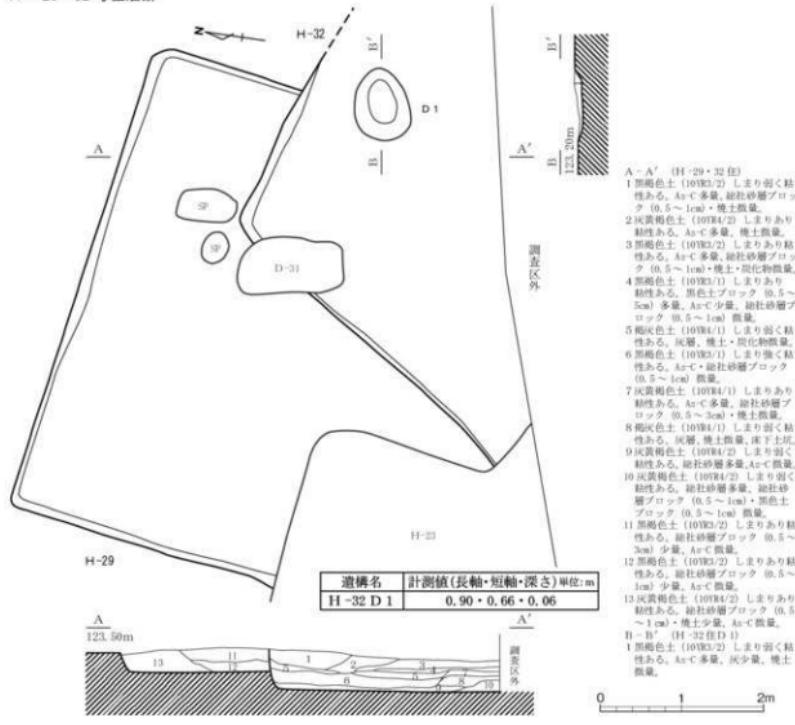


Fig. 23 壓穴住居跡遺構図 (16)

H-29・32号住居跡



H-31号住居跡①

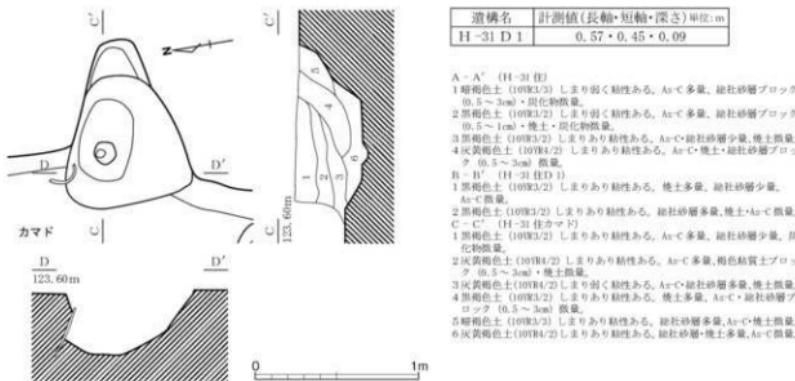
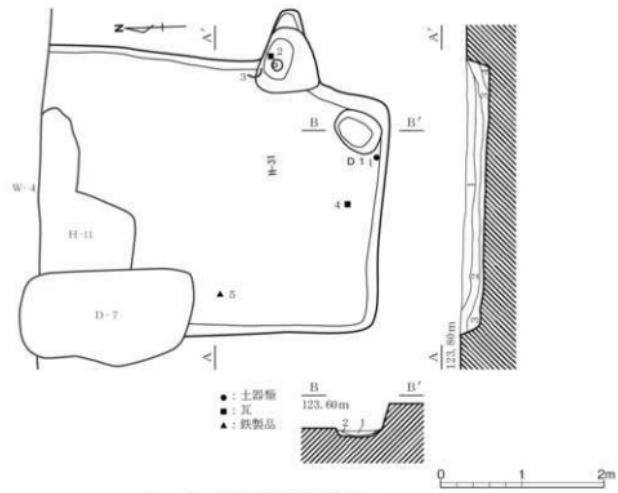
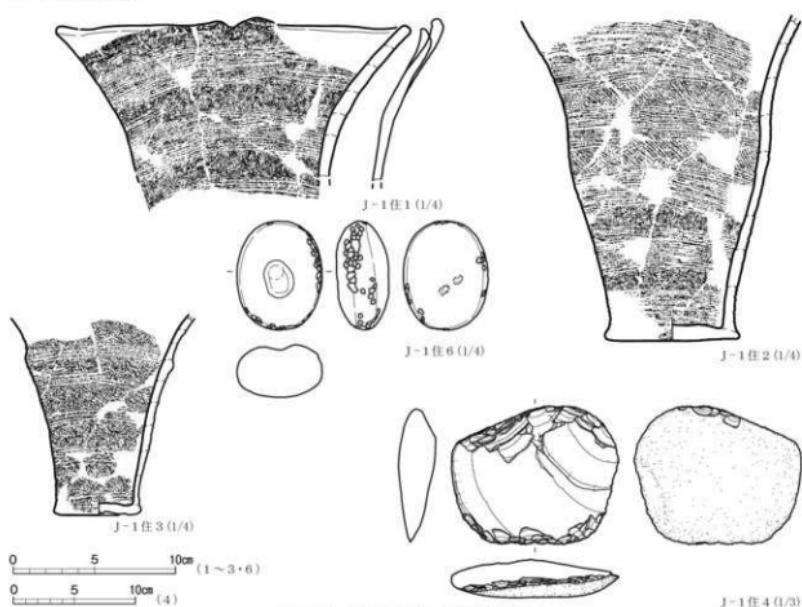


Fig. 24 堪穴住居跡遺構図 (17)

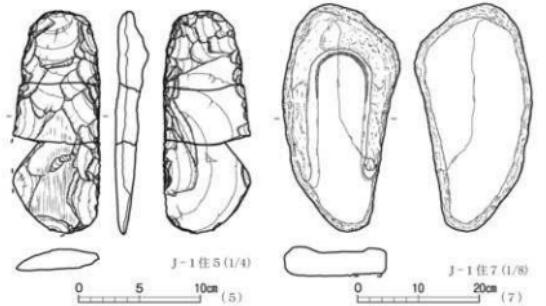
H-31号住居跡②



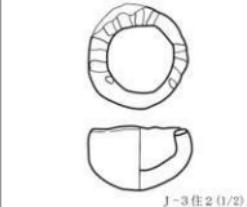
J-1号住居跡①



J-1号住居跡②



J-3号住居跡



J-4号住居跡①

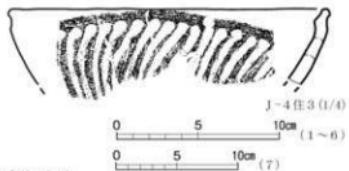
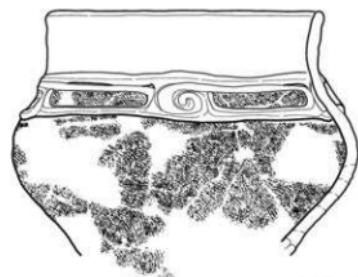
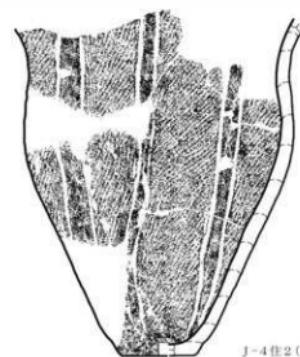
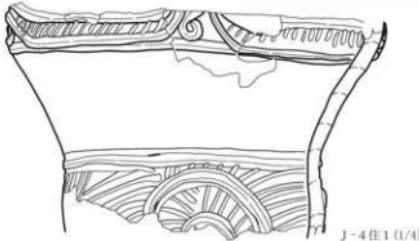
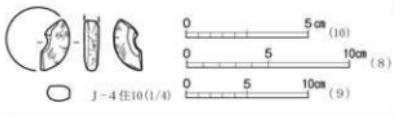
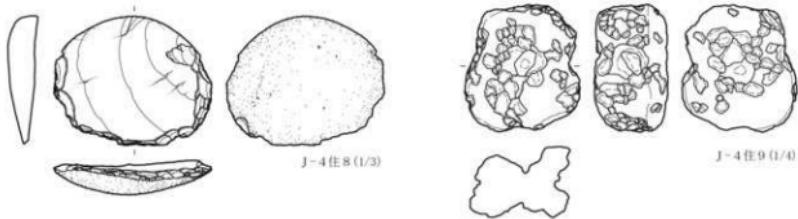


Fig. 27 壓穴住居跡出土遺物 (2)

J-4号住居跡②



J-5号住居跡①

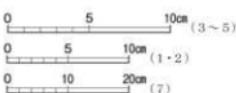
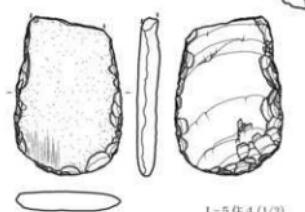
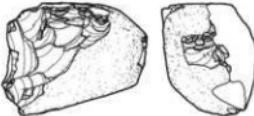
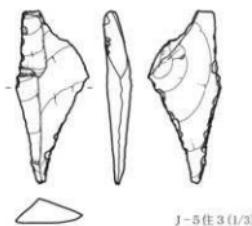
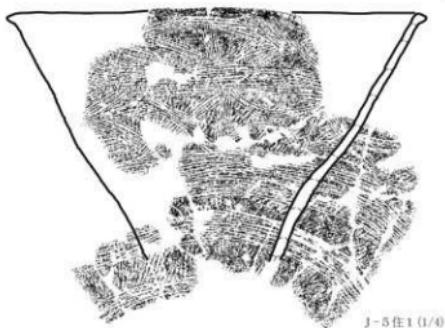
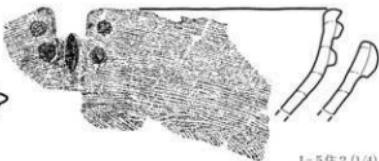
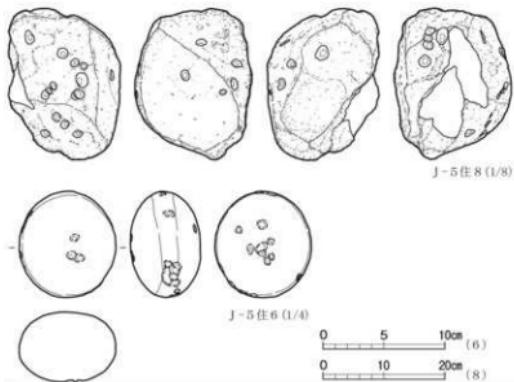
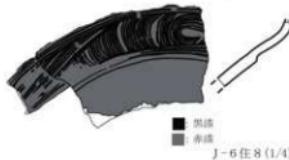


Fig. 28 壁穴住居跡出土遺物 (3)

J-5号住居跡②



J-6号住居跡①



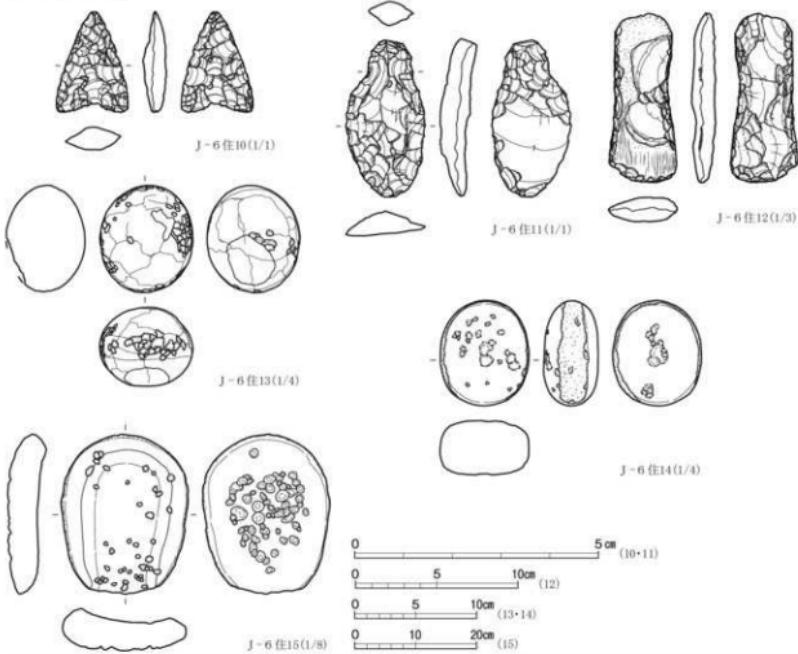
J-6住8 (1/4)



0 5 10cm (1~9)

Fig. 29 壁穴住居跡出土遺物 (4)

J-6号住居跡②



J-7号住居跡

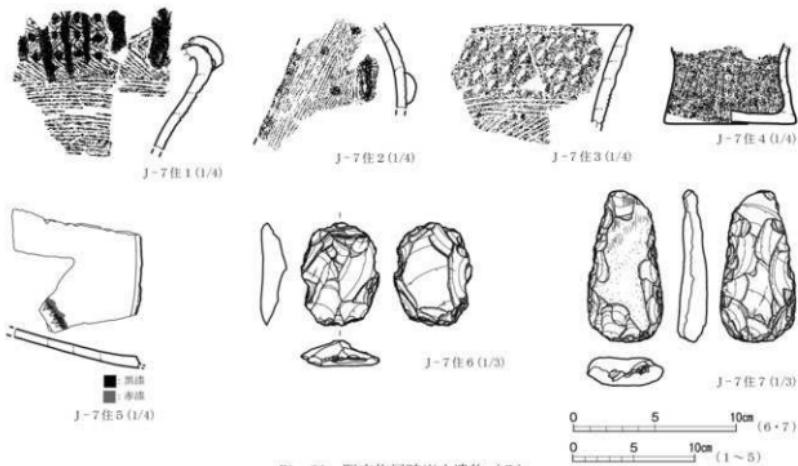


Fig. 30 堪穴住居跡出土遺物 (5)

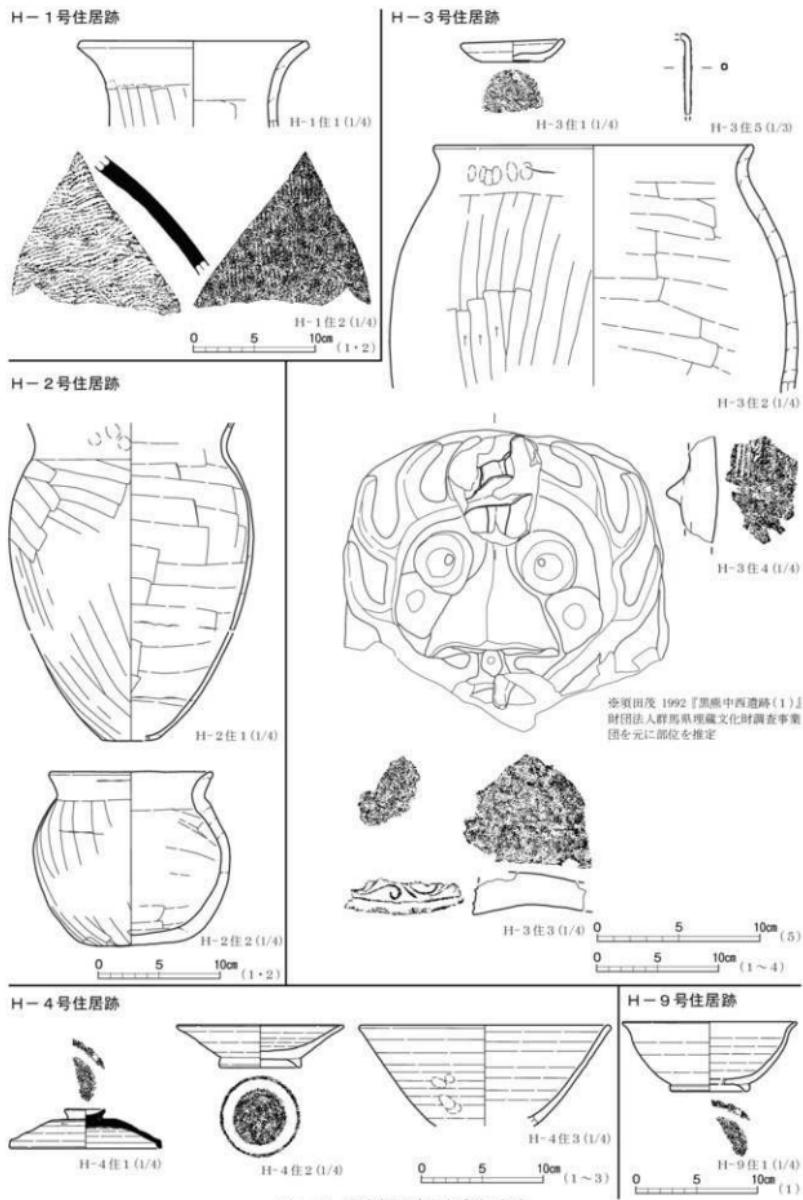
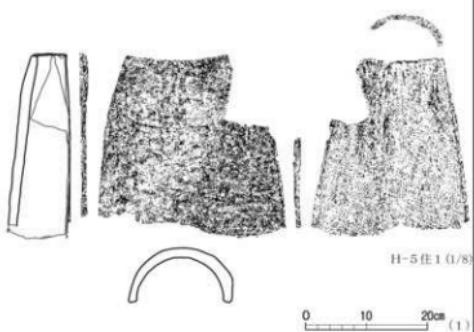
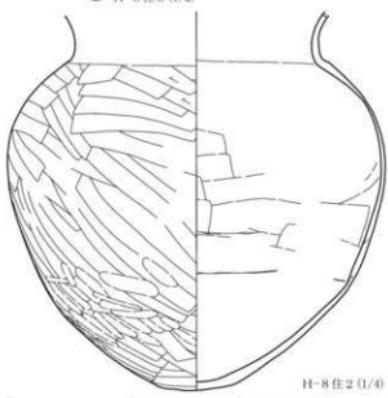
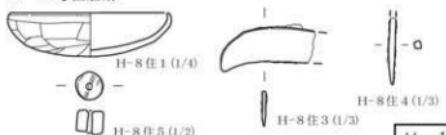


Fig. 31 堪穴住居跡出土遺物 (6)

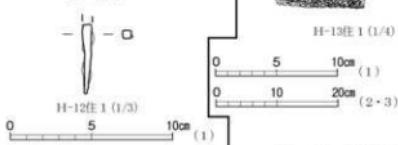
H-5号住居跡



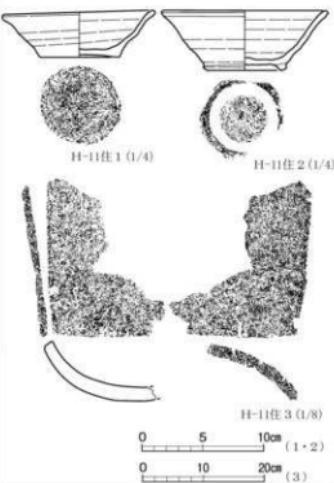
H-8号住居跡



H-12号住居跡



H-11号住居跡



H-13号住居跡

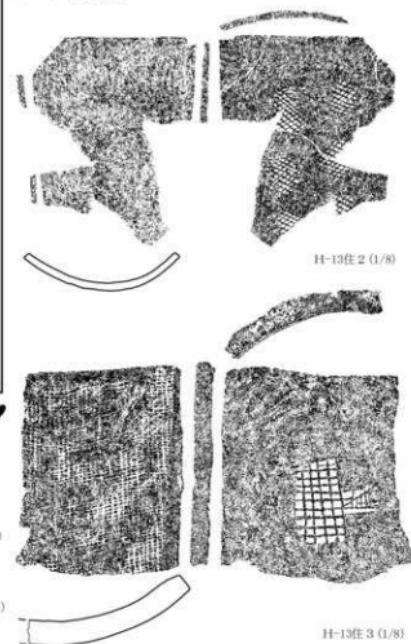


Fig. 32 堪穴住居跡出土遺物 (7)

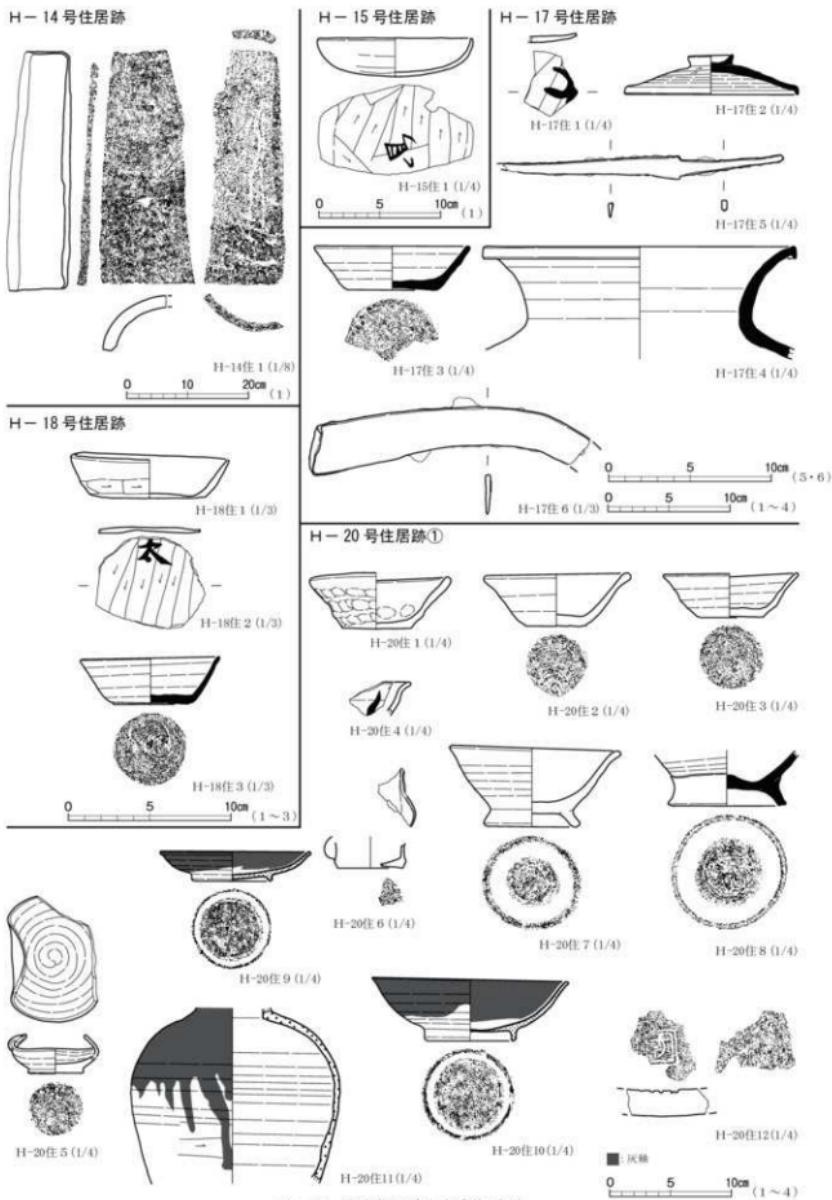
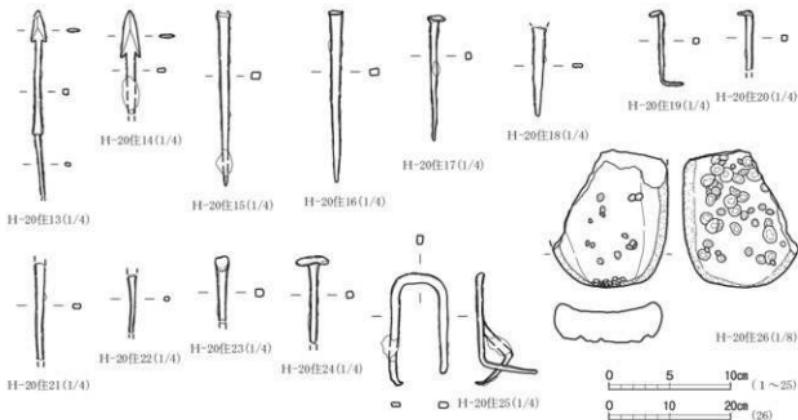
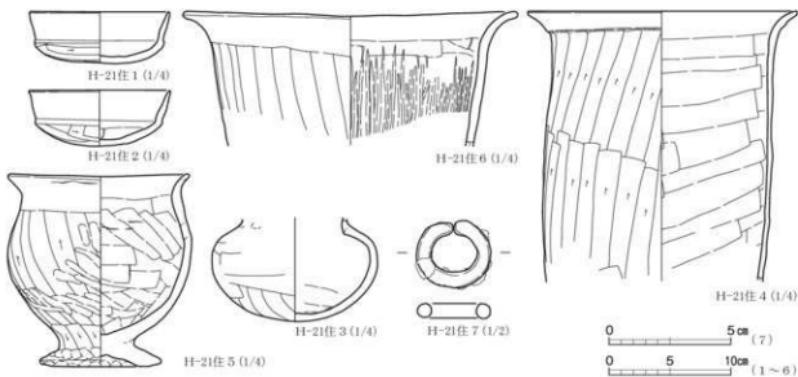


Fig. 33 壓穴住居跡出土遺物 (8)

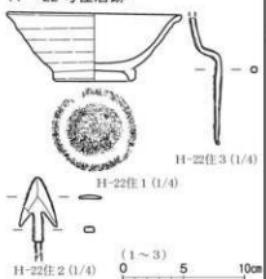
H-20号住居跡②



H-21号住居跡



H-22号住居跡



H-23号住居跡①

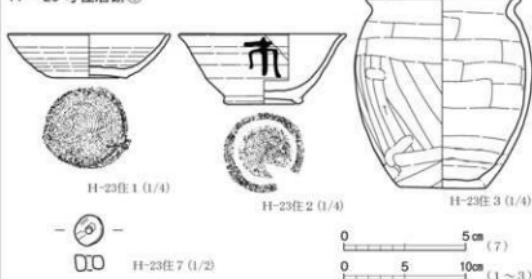
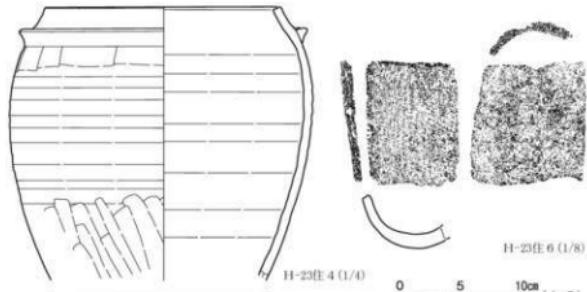
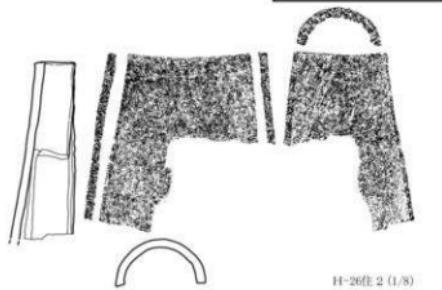
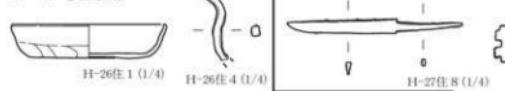


Fig. 34 壁穴住居跡出土遺物 (9)

H-23号住居跡②



H-26号住居跡



H-27号住居跡

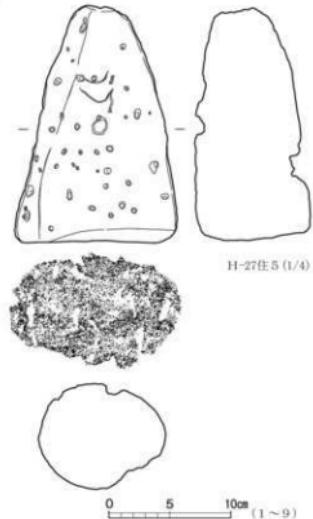
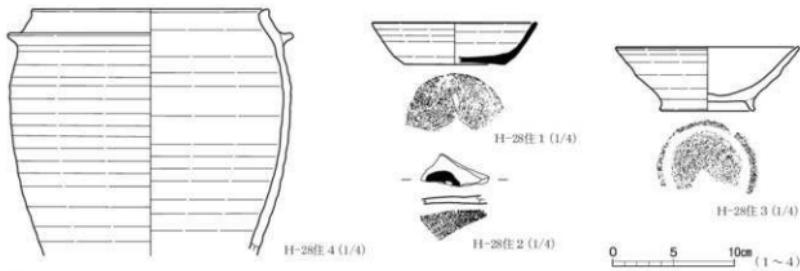


Fig. 35 壁穴住居跡出土遺物 (10)

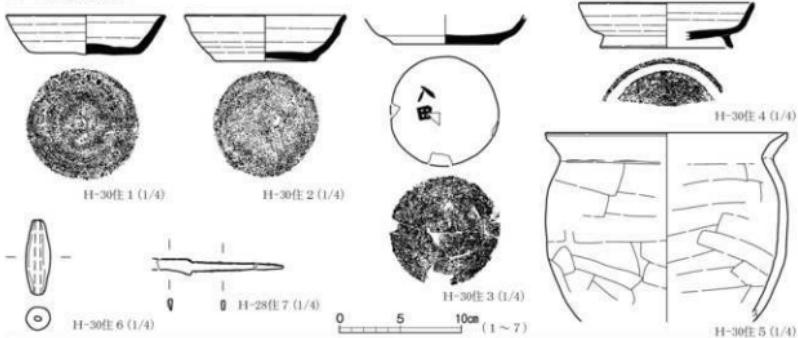
H-28号住居跡



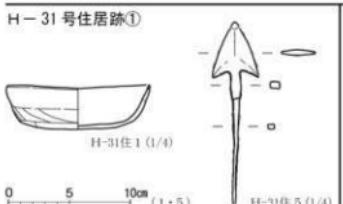
H-29号住居跡



H-30号住居跡



H-31号住居跡①



H-32号住居跡

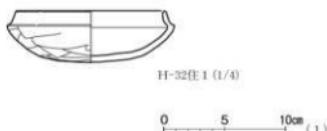
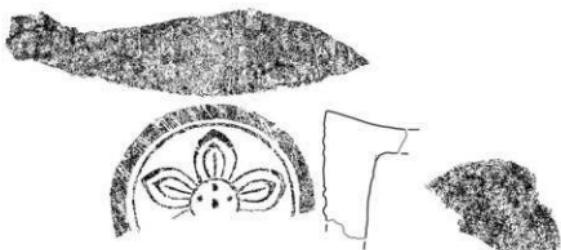
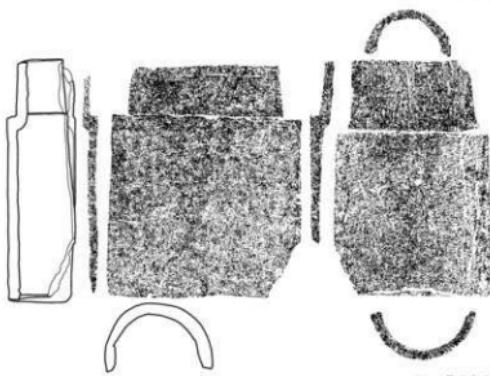


Fig. 36 壺穴住居跡出土遺物 (11)

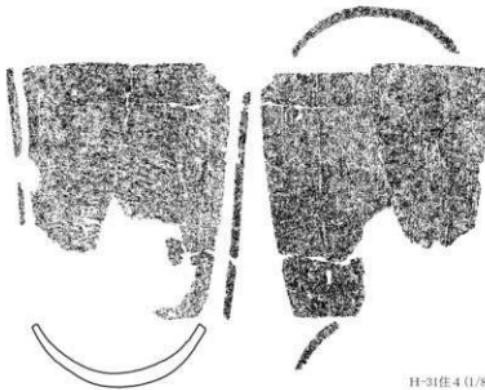
H-31号住居跡②



H-31住2(1/4)



H-31住3(1/8)



H-31住4(1/8)

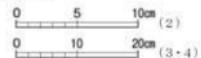


Fig.37 壇穴住居跡出土遺物 (12)

J - 1 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：(29.1) 底径：一 器高：(13.2)	①普通 ②外内 - 暗赤 ③白色輕石・黒色鉱物・黒色粘 縫間は無文。 ④口縁～胸部上半段	外面：半截竹管状工具による横位集合沈縫多段に施す。集合沈縫は無文。 内面：ミガキ。	
2	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：(10.8) 器高：(26.7)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色輕石・黒色鉱物・黒色粘 縫文。	外面：半截竹管状工具による横位・斜位・鋸歯状の集合沈縫を施す。 内面：ナデ。	
3	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：(6.4) 器高：(16.4)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色・黒色・白色粘石・白色粘 縫文。	外面：R.L.鵜文を地文とし半截竹管状工具による集合沈縫で胸 部を横位に多段に区画する。 内面：ミガキ。	
番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	石器 スクレイパー	長さ：8.5 幅：10.3 厚さ：2.4 重さ：223.6g	石材：真岩 備考：縫皮をもつ剥片を素材とし二側縁に片面 加工を施し刃部とする。	片面	
5	石器 打製石斧	長さ：(13.7) 幅：(5.4) 厚さ：2.0 重さ：118.4g	石材：真岩 備考：剥片を素材とし周縁を直接打撃に よる両面加工が施される。被熱により3点に破損している。	打撃打撃	
6	石器 凹石	長さ：9.0 幅：7.0 厚さ：4.3 重さ：390.6g	石材：片岩 備考：表・裏面に顕著な摩耗痕が認められ、表面 中央には溝状の凹穴あり。周縁の一部に敲打痕が認められる。磨一凹・戴。		
7	石器 石皿	長さ：37.8 幅：4.2 厚さ：4.8 重さ：5.100g	石材：片岩 備考：縫平縫を素材とし敲打により縫部を形成 する。皿面および台部は使用により平滑している。裏面の一部が欠損。		

J - 3 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：一	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色・褐色・黒色粘 縫文。	外面：半截竹管状工具による横位・矢羽根状の集合沈縫多段に施す。 内面：ミガキ。	
2	縄文土器 ミニチュア器	口径：3.9 底径：一 器高：2.6	①普通 ②外内 - 灰黃色 ③白色輕石・黒色鉱物・雲母 ④口縁部一部欠損	外面：ナデ。口唇部にキザミ。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
3	石器 打製石斧	長さ：(11.9) 幅：5.2 厚さ：1.7 重さ：92.4g	石材：安山岩 備考：剥片を素材とし周縁を直接打撃による両 面加工が施される。	片面	

J - 4 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：(19.0)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色・褐色・黒色粘・黒色鉱物 ④口縁～胸部上半段	外面：頸部と胸部に横位隆縫を沿せし区画する。隆縫間は無文。 口縁部は溝巻き状・横位隆縫を添付し、棒状工具による沈縫を施す。胸部は棒状工具による楕円形の沈縫を施す。 内面：ナデ。	炉体土器。
2	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：(5.8) 器高：(27.7)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色輕石・黒色鉱物・褐色粘 ④胸～底部1/3残	外面：R.L.鵜文施文後棒状工具による2条1対の縱位沈縫を施 し区画を施す。区画内には磨り削しを施す。 内面：ミガキ。	
3	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：一	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色・褐色・黒色粘物 ④口縁部	外面：棒状工具による弧状の沈縫を施す。 内面：ミガキ。口縁部に横位沈縫を施す。	
4	縄文土器 鉢	口径：(21.9) 底径：一 器高：(20.0)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色・黒色粘・黒色鉱物 ④口縁部	外：胸部と口縁部を溝巻き状・横位隆縫で区画する。隆縫間に は沈縫を施す。口縁部は無文。隆縫による区画内及び胸部は撲 示r施す。	
5	縄文土器 鉢	口径：一 底径：一 器高：一	①普通 ②外内 - 黄褐色 ③白色・黒色粘・黒色鉱物 ④口縁部	外面：胸部ミガキ。口縁部に2条の横位沈縫を施す。 内面：ミガキ。	
6	縄文土器 深鉢	口径：一 底径：一 器高：一	①良好 ②外内 - にぶい赤褐色 ③白色・石英・黒色粘・黒色 ④口縁部	外面：弧状の沈縫を施す。赤褐色が認められる。 内面：ミガキ。	
番号	器種	法量 (cm)	①地成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
7	土製品 耳栓	長さ：2.8 幅：2.2 厚さ：2.3 重さ：15.68g			
8	石器 スクレイパー	長さ：7.9 幅：9.7 厚さ：12.1 重さ：154.6g	石材：真岩 備考：縫皮をもつ剥片を素材とし周縁の一部に片 面加工を施し刃部とする。		
9	石器 凹口器	長さ：10.4 幅：9.4 厚さ：6.1 重さ：498.9g	石材：安山岩 備考：表・裏面や両側縁に多数の凹穴が認めら れ、表・裏面中央の一部に摩耗痕あり。磨一凹。		
10	石製品 块状瓦砾	長さ：(2.1) 幅：(1.2) 厚さ：0.6 重さ：(2.14g)	石材：蛭紋岩 備考：研磨による成形が施される。両面穿孔 欠損品。		

Tab. 3 堅穴住居跡出土遺物観察表 (1)

J - 5 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③始上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：(36.1) 底径：— 器高：<20.7>	①普通 ②外内にぶい褐色 ③白色粒・片岩・黒色粒・褐色 粒 ④口縁～胴部2/3残	外面：無施 1を地文とする。半載竹管状工具による集合沈線で 胴部を多段に区画する。区画内には同様の工具による集合沈線 で弧状・差状の集合沈線を施す。 内面：ミガキ。	
2	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外～黒褐色、内～に ぶい赤褐色 ③白色粒・黒色粒 黒色鉱物 ④口縁部片	外面：口縁部は長方形の抉りを施す。抉りの直下には耳状の突 起、周囲には2箇1対の円形添付文を施す。胴部は半載竹管状 工具による横位・矢羽根状の集合沈線を施す。 内面：ミガキ。	
番号	器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	備考	
3	石器 スクレイパー	長さ：10.6 幅：4.5 厚さ：1.7 重さ：47.4g	石材：頁岩 備考：横長片を素材とし縁辺に微細削痕が認 められる。		
4	石器 打製石斧	長さ：[9.8] 幅：6.6 厚さ：1.4 重さ：125.8g 石材：頁岩	備考：礫皮をもつ剥片を素材とし周縁を直接 打撃による両面加工が施される。基部大根。		
5	石器 石核	長さ：7.0 幅：8.9 厚さ：5.8 重さ：464.9g 石材：黒曜石	備考：礫皮が残存する。		
6	石器 閉石	長さ：18.7 幅：8.0 厚さ：5.8 重さ：525.7g 石材：安山岩	備考：表・裏面に顯著な摩耗痕が認められ、表・ 裏面や周縁の一帯に打撃痕あり。戴一磨。		
7	石器 石皿	長さ：[9.7] 幅：[8.4] 厚さ：6.3 重さ：460.2g 石材：安山岩	備考：裏面は使用により押挿状に隆み、 台部は全体に摩滅して一部に凹穴あり。小破片。		
8	石器 台石	長さ：12.4 幅：19.2 厚さ：18.3 重さ：9,910g 石材：安山岩	備考：大型礫の表・裏面や両側面の一部に凹 穴が認められる。		

J - 6 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③始上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内にぶい褐色 ③片岩・黒色鉱物 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による集合沈線を横位に施す。口縁 部に棒状添付文、耳状の突起を施す。 内面：ナヂ。口縁部に矢羽根状の集合沈線、耳状の突起、円形 添付文。	
2	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内にぶい褐色 ③チャート・黒色鉱物 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による集合沈線を横位・弧状に施す。 口縁部に凹凸文を横位に施す。 内面：ミガキ。	
3	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外～黄褐色、内～に ぶい褐色 ③白色粒・褐色粒・ 黒色鉱物 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による横位に多段施文。口縁部 に耳状突起。 内面：ミガキ。	
4	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外～黒褐色、内～に ぶい褐色 ③雲母・黒色鉱物・ 褐色粒 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による凹凸文を横位に施す。 口縁部に同心円状に添付する。 内面：ミガキ。	
5	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(25.5)	①普通 ②外～にぶい黄褐色 内～にぶい褐色 ③白色粒・ チャート・黒色鉱物 ④口縁～ 胴部1/6残	外面：半載竹管状工具による集合沈線を地文とする。結節浮線 文を同心円状に添付する。 内面：ミガキ。	
6	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：(18.1)	①普通 ②外～にぶい褐色、内 ～にぶい赤褐色 ③チャート・ 白蝶貝・黒色鉱物 ④口縁部 ～胴部上1/4残	外面：半載竹管状工具による横位集合沈線を地文とする。結節浮線 文を同心円状に添付する。円形添付文。 内面：ミガキ。	
7	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内～にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色粒・黒色鉱物 ④腹壁下位1/3残	外面：半載竹管状工具による横位集合沈線を地文とし、結節浮 線文を弧状に添付する。 内面：ナヂ。	
8	縄文土器 浅鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①良好 ②外内～にぶい褐色 ③褐色粒・黒色鉱物・雲母 ④口縁部片	外面：赤漆塗布後、ペン先状の工具で墨漬を用いて弧状・満巻 き状の添付文を施す。 内面：丁寧なミガキ。	
9	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外～灰黃褐色、内～ にぶい黄褐色 ③白色粒・石英 ④胴部片	外面：表面無葉。表面に顕著な摩耗痕が認められる。周縁や 表・裏面の一部に打撃痕あり。表・裏面中央に浅い凹穴が認められる。四・戻一磨。	
番号	器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	備考	
10	石器 石織	長さ：2.05 幅：1.47 厚さ：0.48 重さ：1.0g 石材：黒曜石	備考：凹基無葉。		
11	石器 石匙	長さ：3.2 幅：1.6 厚さ：0.8 重さ：2.7g 石材：鉄石英	備考：縦型石匙。		
12	石器 打製石斧	長さ：10.4 幅：4.2 厚さ：1.5 重さ：81.4g 石材：砂岩	備考：削鍛を素材とし周縁を直接打撃による両面 加工が施される。		
13	石器 磨石	長さ：28.8 幅：7.2 厚さ：6.5 重さ：532.4g 石材：安山岩	備考：全体に顯著な摩耗痕が認められ、周縁や 表・裏面の一部に打撃痕あり。被熱による焼けや亀裂痕がある。磨一磨。		
14	石器 閉石	長さ：28.7 幅：7.3 厚さ：4.5 重さ：385.7g 石材：安山岩	備考：表・裏面に顯著な摩耗痕が認められる。周 縁に戴・摩痕あり。表・裏面中央に浅い凹穴が認められる。四・戻一磨。		
15	石器 石皿	長さ：26.2 幅：20.8 厚さ：6.3 重さ：4,369g 石材：安山岩	備考：皿は使用により平滑している。台部 の中央部分には多数の凹穴があり全体に摩滅している。表・裏面の中央部分に変色範囲あり。		

Tab. 4 壁穴住居跡出土遺物観察表 (2)

J - 7 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径:一 底径:一 器高:一	①普通 ②外にぶい褐色、内 -灰褐色 ③白色粒、褐色粒、黑 色鉱物 ④口縁部片	外面:半裁竹管状工具による集合沈線を横位施文する。口縁部 は矢羽根状の集合沈線を横位施文し、耳状突起・棒状添付文、 円形添付文を施す。 内面:ナデ。	
2	縄文土器 深鉢	口径:一 底径:一 器高:一	①普通 ②外内-褐色 ③チャート・黒色鉱物、褐色粒 ④口縁部片	外面:半裁竹管状工具による集合沈線を矢羽根状・斜位に施文 する。耳状突起・円形添付文を施す。	
3	縄文土器 深鉢	口径:一 底径:一 器高:一	①普通 ②外にぶい黄褐色、 内にぶい褐色 ③金雲母・褐 色粒、チャート ④口縁部片	外面:半裁竹管状工具による集合沈線を横位に施文し口縁部を 区画する。口縁部を横位の凹凸文を多段に施文する。口部には 半裁竹管状工具による刺突を横位施文する。胴部は半裁竹管 状工具による斜位の集合沈線、円形添付文。 内面:ミガキ。	
4	縄文土器 深鉢	口径:一 底径:一 器高:一	①普通 ②外内-ぶい褐色 ③白色粒・チャート・石英 ④底部焼	外面:半裁竹管状工具による横位沈線。 内面:ナデ。	
5	縄文土器 鉢	口径:一 底径:一 器高:一	①良好 ②外内-ぶい褐色 ③白色粒・黒色鉱物、褐色粒 ④胴部片	外面:丁寧なナデ後ミガキを施す。 赤漆を塗布後、墨添で文様 を施す。 内面:ミガキ。	

H - 1 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
7	石器 スクレイパー	長さ:6.3 幅:4.8 厚さ:1.6 重さ:44.8g	石材:真岩 備考:縫皮をもつ剥片を素材とし周縁に内面加工 を施し刃部とする。		
8	石器 打製石斧	長さ:9.3 幅:4.7 厚さ:1.8 重さ:81.2g	石材:真岩 備考:縫皮をもつ剥片を素材とし周縁を直接打撃 による片面加工が施される。		

H - 2 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:(18, 4) 底径:一 器高:(7.1)	①良好 ②外にぶい黄褐色 ③片岩・チャート ④口縁部片	外面:胴部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面:胴部へナダ、口縁部ヨコナデ。	
2	須恵器 壺	口径:一 底径:一 器高:一	①塵元殻 ②外内-灰色 ③白色粒・褐色粒 ④胴部片	外面:平行タタキ後ナデ。 内面:同心円状の当て具痕。	

H - 3 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径:(8.2) 底径:(4.6) 器高:(26.1)	①普通 ②外にぶい黄色 ③白色粒、褐色粒、黑色鉱物 ④樹脂へ底部 1/3 破	外面:胴部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面:胴部へナダ、口縁部ヨコナデ。	
2	土師器 小型壺	口径:(13.2) 底径:一 器高:(14.3)	①普通 ②外内-浅黄色 ③白色粒・チャート・黒色鉱物 ④2/3 破	外面:胴部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面:胴部へナダ、口縁部ヨコナデ。	

H - 4 号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 环	口径:8.2 底径:5.2 器高:1.9	①酸化焰 ②外内-ぶい黄色 ③白色粒、褐色粒、黑色鉱物 ④1/2 破	外面:ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。 内面:ロクロ整形。	

Tab. 5 堪穴住居跡出土遺物観察表 (3)

H - 4号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
2	須恵器 皿	口径：(13.5) 底径：6.4 器高：3.5	①薄元気味 ②外内にふい・黄色 ③白色粒・石英・黒色粒・ 片岩 ④2/3残	外面：ロクロ整形、底部回転糸切り無調整、高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。	
3	須恵器 鉢	口径：(20.2) 底径：— 器高：(8.3)	①薄元気味 ②外内・灰黄色 ③白色粒・褐色粒・黒色粒・チャート ④1/4残	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。	

H - 5号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦 丸瓦	長さ：(30.3) 幅：7.2 厚さ：1.6	①薄元気味 ②外内・灰黄色 ③白色粒・石英・雲母・黒色粒 ④3/4残	凹面：布目痕。凸面：ヘラナデ。側面：2面のヘラケズリ。狭端部： ヘラケズリ。	

H - 8号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	土師器 壺	口径：13.0 底径：— 器高：3.6	①普通 ②外内にふい・褐色 ③黑色粘土・白色粒 ④1/3残	外面：体・底部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面：体部・ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。		
2	土師器 甕	口径：(13.0) 底径：6.3 器高：(31.0)	①普通 ②外内・橙色 ③白色粒・褐色粒・黒色粒 ④口縁部欠	外面：胴部・ヘラケズリ、胴部下半ナデ、口縁部ヨコナデ。 内面：胴部・ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。		
番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴				
3	鉄製品 鍵	長さ：5.8 幅：3.0 厚さ：0.4 重さ：11.97 g	備考：先端部残存。			
4	鉄製品 釘	長さ：4.1 幅：0.7 厚さ：0.5 重さ：2.33 g	備考：頂部欠損。			
5	石製品 白玉	直径：1.1 孔径：0.3 厚さ：1.0 重さ：2.16 g	備考：滑石製。混入遺物。			

H - 9号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：(14.1) 底径：(6.1) 器高：5.7	①燒成端 ②外内にふい・黃褐色 ③白色粒・褐色粒・片岩 ④1/3残	外面：ロクロ整形、底部回転糸切り無調整、高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。	

H - 11号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：12.3 底径：6.5 器高：3.9	①燒成端 ②外内にふい・黃褐色 ③白色粒・黒色粘土・褐色 粒・片岩 ④完形	外面：ロクロ整形、底部回転糸切り無調整。 内面：ロクロ整形。	
2	須恵器 壺	口径：(13.2) 底径：6.2 器高：4.9	①燒成端 ②外内にふい・黃褐色 ③片岩・褐色粒・黒色粘土 ④燒成1/2欠	外面：ロクロ整形、底部回転糸切り無調整、高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。	
3	瓦 平瓦	長さ：(26.8) 幅：(20.1) 厚さ：2.3	①薄元気味 ②外内・灰黄色 ③石英・白色粒・黒色粒 ④広端部	凹面：布目痕。凸面：ヘラナデ。線刻「田」。側面：2面のヘラケズリ。広端部：ヘラケズリ。	

H - 12号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品 釘	長さ：(4.3) 幅：0.6 厚さ：0.5 重さ：3.46 g	備考：頂部欠損。	

H - 13号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：(12.6) 底径：(7.9) 器高：3.3	①薄元端 ②外内にふい・灰褐色 ③白色粒・黒色粒・白色粘土状物 ④1/2残	外面：ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロ整形。	
2	瓦 平瓦	長さ：(35.3) 幅：25.6 厚さ：1.3	①薄元端 ②外内・灰褐色 ③白色粒・片岩・石英 ④2/3残	凹面：布目痕。凸面：格子目状叩き後ヘラナデ。側面：2面のヘラケズリ。広端部：ヘラナデ。	
3	瓦 平瓦	長さ：(18.2) 幅：(13.1) 厚さ：2.0	①薄元気味 ②外内・灰黄色 ③白色粒・石英・雲母・褐色粒 ④広端部	凹面：布目痕、ナデ。凸面：「雀」の字が付いた格子目状叩き後ヘラナデ。側面：2面のヘラケズリ。広端部：ヘラケズリ。	

Tab. 6 積穴住居跡出土遺物観察表（4）

H-14号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦 丸瓦	長さ：39.0 幅：9.5 厚さ：2.2	①焼成 ②外内 - 灰色 ③白色粒・石英・雲母・黒色粒 ④1/2 残	外面：布目痕。広端部付近ナデ。凸面：ヘラナダ、刺み。側面：2面のヘタケズリ。広端部：ヘラケズリ。狹端部：ヘタケズリ。	

H-15号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径：(12.6) 底径：— 器高：3.2	①普通 ②外内 - 灰色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3 残	外面：体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。表面に墨書。「馬」か。 内面：体部ヘラナダ、口縁部ヨコナデ。	

H-17号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴		備考
				外面	内面	
1	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：—	①良好 ②外内 - にぶい褐色 ③白色粒・黒色粒 ④体部片	墨書。	ヘラナダ。	
2	須恵器 蓋	口径：14.1 縦径：3.5 器高：3.3	①焼成 ②外内 - 灰白色 ③白色粒・チャート ④1/3 欠	ロクロ整形。天井部ヘタケズリ。	ロクロ整形。	
3	須恵器 坏	口径：(12.6) 底径：(7.3) 器高：3.6	①焼成 ②外内 - 灰色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3 残	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
4	須恵器 便	口径：(25.3) 底径：— 器高：(9.2)	①焼成 ②外内 - 灰色 ③白色粒・黒色氈物・チャート ④褐色粒 ⑤口縁部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考		
5	鉄製品 刀子	長さ：17.3 幅：1.5 厚さ：0.4 重さ：18.42 g	備考：両闇。先端部欠損。			
6	鉄製品 鍔	長さ：<17.0> 幅：3.0 厚さ：0.3 重さ：67.67 g	備考：先端部欠損。			

H-18号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴		備考
				外面	内面	
1	土師器 坏	口径：12.8 底径：9.5 器高：3.8	①普通 ②外内 - にぶい褐色 ③片岩・黒色粒・褐色粒 ④口縁～体部1/5欠	体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。	体部ヘラナダ、口縁部ヨコナデ。	
2	土師器 坏	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 内に：にぶい褐色 ③石英・黒色 氈物・黒色粒 ④底部片	ヘラケズリ。墨書「太」か。	ヘラナダ。	
3	須恵器 坏	口径：11.3 底径：6.1 器高：3.9	①焼成 ②外内 - 灰白色 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～体部1/5欠	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	

H-20号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴		備考
				外面	内面	
1	土師器 坏	口径：11.1 底径：5.5 器高：4.6	①普通 ②外内 - にぶい褐色 ③白色粒・黒色氈物・雲母 ④ほぼ完形	体部ナダ、底部ヘラケズリ。	内面に黒色の付着物が認められる。	
2	須恵器 坏	口径：11.5 底径：5.0 器高：4.4	①焼成 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・金雲母・褐色粒 ④完形	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
3	須恵器 坏	口径：10.8 底径：5.1 器高：3.7	①焼成 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・チャート・黑色粒 ④口縁部	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
4	須恵器 坏	口径：— 底径：— 器高：—	①焼成 ②外内 - 黄褐色 ③白色粒・黒色氈物 ④口縁部	ロクロ整形。墨書。	ロクロ整形。	
5	灰釉陶器 耳皿	口径：(10.4) 底径：4.2 器高：3.2	①良好 ②外内 - 淡黄色 ③白色粒・褐色粒 ④体部1/4欠	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。螺旋状のナデ。	
6	須恵器 耳皿	口径：— 底径：(5.4) 器高：(2.6)	①焼成 ②外内 - 黄褐色 ③黑色粒・黒色氈物・褐色粒 ④底部片	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。	
7	須恵器 壺	口径：13.6 底径：7.3 器高：6.8	①焼成 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒・黑色粒 ④口縁部一部欠	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。高台貼り付け。	ロクロ整形。	

Tab. 7 堅穴住居跡出土遺物観察表 (5)

H-20号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
8	須恵器 壺	口径：9.5 底径：9.5 器高：(4.5)	①透光性 ②外内・灰黄色 ③褐色・黒色・雲母 ④直縁片	外面：ロクロ整形。底部回転系切り無調整、高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。	
9	灰釉陶器 皿	口径：12.2 底径：6.3 器高：2.5	①堅紙 ②外内・灰白色 ③白色粒 ④白縁部一部欠	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。 灰釉漬け掛け。	
10	灰釉陶器 塊	口径：16.0 底径：7.1 器高：5.3	①堅紙 ②外内・灰白色 ③白色粒 ④白縁部1/2欠	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。 灰釉漬け掛け。	
11	灰釉陶器 蓋	口径：— 底径：— 器高：(14.4)	①堅紙 ②外内・灰白色 ③白色粒 ④堅紙2/3残	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形。 灰釉漬け掛け。	
12	瓦 平瓦	長さ：(5.80 幅：(7.8) 厚さ：2.1	①透光性味 ②外内・灰黄色 ③白色粒・石英・褐色粒・雲母 ④破片	凹面：布目瓦。口に「方」の刻印。 凸面：ヘラナデ。	

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考
13	鉄製品 鉄鎌	長さ：(14.9) 幅：1.35 厚さ：0.5 重さ：15.89 g	備考：基部の先端部欠損。	
14	鉄製品 鉄鎌	長さ：(9.5) 幅：1.7 厚さ：0.4 重さ：12.56 g	備考：基部欠損。	
15	鉄製品 釘	長さ：(14.3) 幅：1.2 厚さ：0.6 重さ：36.89 g	備考：頭部欠損。	
16	鉄製品 釘	長さ：14.1 幅：1.2 厚さ：0.6 重さ：29.76 g	備考：完形。	
17	鉄製品 釘	長さ：10.3 幅：1.4 厚さ：0.6 重さ：14.76 g	備考：完形。	
18	鉄製品 釘	長さ：(7.30 幅：1.2 厚さ：0.3 重さ：9.50 g	備考：頭部欠損。	
19	鉄製品 釘	長さ：6.2 幅：2.8 厚さ：0.5 重さ：8.28 g	備考：L字に屈曲する。完形。	
20	鉄製品 釘	長さ：(4.6) 幅：1.4 厚さ：0.5 重さ：5.95 g	備考：先端部欠損。	
21	鉄製品 釘	長さ：(7.9) 幅：1.0 厚さ：0.4 重さ：8.68 g	備考：両端部欠損。	
22	鉄製品 釘	長さ：(4.7) 幅：0.8 厚さ：0.4 重さ：2.86 g	備考：両端部欠損。	
23	鉄製品 釘	長さ：(5.6) 幅：1.2 厚さ：0.6 重さ：9.36 g	備考：先端部欠損。	
24	鉄製品 釘	長さ：(7.2) 幅：2.7 厚さ：0.6 重さ：24.65 g	備考：先端部欠損。	
25	鉄製品 鎌	長さ：9.2 幅：4.7 厚さ：0.5 重さ：30.00 g	備考：先端端部が互い違いにL字状に屈曲する。完形。	
26	石器 石鎌	長さ：[22.6] 幅：[18.9] 厚さ：6.6 重さ：3.172 g 石材：砂岩	備考：直面は使用により浅く僅み敲打痕 背面が認められ、台部は多数の敲打痕や穴開きあり。石盤の破損品を袖石に転用。	

H-21号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径：11.4 底径：— 器高：4.2 ④口縁完形	①普通 ②外内・橙色 ③褐色粒・黒色粒・チャート ④口縁・体部1/3欠	外面：体部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面：体部へラナデ。口縁部ヨコナデ。	
2	土師器 壺	口径：11.5 底径：— 器高：4.6 ④口縁・体部1/3欠	①普通 ②外内・橙色 ③褐色粒・黒色粒・チャート ④口縁・体部1/3欠	外面：体部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面：体部へラナデ。口縁部ヨコナデ。	
3	土師器 蓋	口径：— 底径：— 器高：(8.6) ④口縁・体部1/3欠	①普通 ②外内・にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒・黑色氷物 ④口縁・体部1/3欠	外面：体部へラケズリ、頭部指頭痕。 内面：体部へラナデ。	
4	土師器 長柄甕	口径：(21.9) 底径：(22.2) 器高：(8.6)	①普通 ②外内・にぶい褐色 ③片岩・チャート・褐色粒 ④口縁・体部1/4欠	外面：胴部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面：胴部へラナデ。口縁部ヨコナデ。	
5	土師器 台付甕	口径：(14.5) 底径：10.0 器高：15.9 ②口縁	①普通 ②外内・黄褐色 ③チャート・褐色粒 ④口縁	外面：胴部へラケズリ後ナデ、口縁部ヨコナデ。脚台部ナデ。 内面：胴部へラナデ。口縁部ヨコナデ。脚台部ナデ。	
6	土師器 瓶	口径：(27.0) 底径：— 器高：(11.1) ④口縁・胴部上位1/2欠	①普通 ②外内・橙色 ③褐色氷物・チャート・褐色粒 ④口縁	外面：体部へラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面：体部へラナデ後ミガキ。口縁部ヨコナデ。	

番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考
7	鉄製品 耳環	長さ：2.9 幅：3.1 厚さ：0.6 重さ：12.05 g	備考：完形。	

Tab. 8 壁穴住居跡出土遺物観察表（6）

H-22 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：14.1 底径：6.1 器高：5.7	①褐色～灰褐色 ②外内にぶい黄 色 ③白色粒・黒色粒・黒色鉢 物 ④口縁～全体 1/6欠	外面：ロクロ整形。底部回転系切り無調整、高台貼り付け。 内面：ロクロ整形。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
2	鉄製品 鉄器	長さ：<6.6> 幅：<2.8> 厚さ：0.5 重さ：11.12 g	備考：刃部の一部及び底部欠損。		
3	鉄製品 棒状製品	長さ：<10.4> 幅：0.7 厚さ：0.5 重さ：7.70 g	備考：両端部欠損。		

H-23 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：(13.2) 底径：6.1 器高：3.6	①酸化焰 ②外内～橙色 ③褐色粒・白色粒状物 ④口縁～全体 3/4欠	外面：ロクロ整形。底部回転系切り無調整。 内面：ロクロ整形。	
2	須恵器 壺	口径：(13.5) 底径：5.7 器高：5.8	①褐色～灰褐色 ②外内にぶい黄 色 ③黑色粒 ④口縁～全体 3/4欠	外面：ロクロ整形。底部回転系切り無調整、高台貼り付け。則 天文字の墨書き。 内面：ロクロ整形。	
3	土釜	口径：(12.2) 底径：7.0 器高：15.8	①普通 ②外内にぶい褐色 ③片岩・白色粒・褐色 ④口縁～胴部 1/3欠	外面：脚部へラケズリ後一部ナデ、口縁部ヨコナデ、底部ヘラ ケズリ。 内面：脚部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	
4	羽釜	口径：(19.2) 底径：一 器高：(22.5)	①酸化焰 ②にぶい黃褐色 ③片岩・チャート・黒色粒 ④口縁～胴部 1/2残	外面：ロクロ整形。胴部下位及び跨の下位ヘラナデ。 内面：ロクロ整形。	
5	羽釜	口径：(17.2) 底径：一 器高：(16.2)	①褐色～灰褐色 ②内外～暗灰褐色 ③白色粒・黒色粒・チャート ④口縁～胴部 2/3残	外面：ロクロ整形。 内面：ロクロ整形、胴部ヘラナデ。	
6	瓦 平瓦	長さ：<20.7> 幅：一 厚さ：2.4	①褐色～灰褐色 ②凸面～褐色 ③白色粒・黒色粒 ④広端部片	凹面：布目痕。凸面：ヘラナデ。側面：2面のヘラケズリ。広端面： 内面：ヘラケズリ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
7	石製品 臼玉	直径：1.3 孔径：0.3 厚さ：0.7 重さ：1.62 g	備考：滑石製。鉢内遺物。		

H-26 号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径：(12.6) 底径：9.9 器高：2.8	①普通 ②外内にぶい黄褐色 内にぶい褐色粒・白色粒・雲母 男色鉢物 ④口縁～全体 2/3欠	外面：体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ。 内面：体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	
2	瓦 丸瓦	長さ：(29.0) 幅：14.8 厚さ：1.5	①褐色～灰褐色 ②凹面～灰褐色 ③白色粒・黒色鉢物 ④2/3残	凹面：布目痕。凸面：ヘラナデ。側面：2面のヘラケズリ。狭端部： 内面：ヘラケズリ。	カマド芯材。
3	瓦 丸瓦	長さ：(16.5) 幅：14.4 厚さ：1.2	①酸化焰 ②凹凸面～にぶい相 色 ③白色粒・石英・黒色鉢物 ④褐色粒 ⑤快端部片	凹面：布目痕。凸面：ヘラナデ。側面：1面のヘラケズリ。狭端部： 内面：ヘラケズリ。	カマド芯材。
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
4	鉄製品 棒状製品	長さ：<5.4> 幅：0.8 厚さ：1.0 重さ：7.84 g	備考：両端部欠損。S字状に蛇行する。		

H-27 号住居跡出土遺物観察表①

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径：(12.0) 底径：一 器高：2.7	①普通 ②外内～橙色 ③白色粒・黒色粒・黒色鉢物 ④口縁～全体 1/2欠	外面：体部ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。 内面：体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	
2	須恵器 壺	口径：13.0 底径：6.1 器高：3.0	①褐色～灰褐色 ②外内～灰色 ③白色粒・褐色粒・チャート ④口縁～全体 1/6欠	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内面：ロクロ整形	
3	須恵器 壺	口径：12.6 底径：7.4 器高：3.1	①褐色～灰褐色 ②外内～灰色 ③白色粒・黒色鉢物 ④口縁～全体 1/4欠	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内面：ロクロ整形。	
4	須恵器 壺	口径：13.4 底径：8.5 器高：3.9	①褐色～灰褐色 ②外内～灰褐色 ③黑色粒・白色粒 ④口縁～全体 1/6欠	外面：ロクロ整形。底部回転ヘラ切り後ナデ。 内面：ロクロ整形。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴		備考
5	石製品 支脚	長さ：19.5 幅：13.4 厚さ：8.7 重さ：1631.50 g	備考：砂岩製。底面に工具による調整痕が認められる。 生体痕跡が多く認められる。		

Tab. 9 積穴住居跡出土遺物観察表 (7)

H-27号住居跡出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
6	石製品 筋鉢車	直径 : 4.4 乳径 : 0.7 厚さ : 1.5 重さ : 43.08 g 備考: 滑石製。表面及び側面に線刻が認められる。	
7	石製品 筋鉢車	直径 : 5.0 乳径 : 0.7 厚さ : 2.1 重さ : 68.80 g 備考: 滑石製。	
8	鉄製品 刀子	長さ : 14.4 幅 : 1.3 厚さ : 1.1 重さ : 16.13 g 備考:両開。	
9	銅製品 蛇尾	長さ : 4.2 幅 : 3.0 厚さ : 0.2 重さ : 7.36 g 備考: 2つの折が認められる。	

H-28号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 : (13.3) 底径 : (8.1) 器高 : 3.5	①滑元塗 ②外内 - 灰暗黄色 ③白色粒・黒色粒 ④1/3残	外面 : ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 : ロクロ整形。	
2	須恵器 壺	口径 : - 底径 : - 器高 : -	①滑元氣味 ②外内 - にぶい黃色 ③白色粒・片岩・褐色粒 ④破断片	外面 : 回転系切り無調整。 内面 : ロクロ整形。見込みに墨書き。	
3	須恵器 壺	口径 : (14.9) 底径 : (7.5) 器高 : 5.3	①醸化塗 ②外内 - にぶい黄褐色 ③褐色粒・黒色粒 ④1/2残	外面 : ロクロ整形、底部回転系切り無調整、高台貼り付け。 内面 : ロクロ整形。	
4	羽釜	口径 : (19.1) 底径 : - 器高 : (20.2)	①醸化塗 ②にぶい根色 ③白色粒・チャート・黒色鉱物 ④縁～胴部 1/4残	外面 : ロクロ整形。 内面 : ロクロ整形。	

H-29号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 : 12.4 底径 : 8.1 器高 : 3.3	①滑元塗 ②外内 - 灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁～体部一部欠	外面 : ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ。 内面 : ロクロ整形。	窓付着。
2	須恵器 壺	口径 : - 底径 : - 器高 : -	①滑元塗 ②外内 - 灰色 ③白色粒・黒色粒・チャート ④網部	外面 : 平行タタキ。 内面 : 当て具痕、ヘラナデ。	
番号	器種	法量(cm)	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考	
3	鉄製品 刀子	長さ : <10.2> 幅 : 1.1 厚さ : 0.4 重さ : 7.43 g	備考: 片開。刃部の先端欠損。		
4	鉄製品 棒状製品	長さ : (7.9) 幅 : 1.7 厚さ : 0.6 重さ : 10.44 g	備考: 先端部は扁平な円形を呈する。先端部欠損。		

H-30号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 : 13.0 底径 : 9.1 器高 : 3.2	①滑元塗 ②外 - 褐灰色、内 - にぶい黄褐色 ③黒色粒 ④口縁～完形	外面 : ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ。 内面 : ロクロ整形。	
2	須恵器 壺	口径 : 13.1 底径 : 8.0 器高 : 4.2	①滑元塗 ②外 - 灰色、内 - 灰白色 ③黒色粒・褐色粒 ④口縁～体部 1/2欠損	外面 : ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 : ロクロ整形。	
3	須恵器 壺	口径 : - 底径 : 8.7 器高 : (2.4)	①滑元塗 ②外内 - 灰黄色 ③黒色粒・チャート ④底部修理	外面 : ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ。墨書き「入田」。 内面 : ロクロ整形。	
4	須恵器 壺	口径 : (14.2) 底径 : (10.7) 器高 : 3.7	①滑元塗 ②外 - 灰色、内 - 灰白色 ③黒色粒・白色粒 ④口縁～底部 1/3残	外面 : ロクロ整形、底部回転ヘラケズリ、高台貼り付け。 内面 : ロクロ整形。	
5	須恵器 壺	口径 : (19.8) 底径 : - 器高 : (15.5)	①滑元塗 ②外内 - 灰褐色 ③褐色粒・チャート・雲母 ④口縁～胴部 1/6残	外面 : 胸部ヘラケズリ、胸部上位ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。 内面 : 胸部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	
番号	器種	法量(cm)	法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考	
6	土製品 土鍤	長さ : 6.2 幅 : 2.0 厚さ : 1.9 重さ : 19.7 g	備考: 完形。		
7	鉄製品 刀子	長さ : (8.1) 幅 : 1.3 厚さ : 0.4 重さ : 9.10 g	備考: 両開。刃部欠損。		

H-32号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船上④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器 壺	口径 : (12.2) 底径 : - 器高 : 4.3	①滑元 ②外内 - 黒褐色 ③白色粒・褐色粒 ④1/3残	外面 : 体部ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ。 内面 : 体部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。	

Tab. 10 堪穴住居跡出土遺物観察表 (8)

H-31号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径：11.6 底径：— 厚さ：3.7	①普通 ②外にぶい褐色、内 にぶい褐色 ③黑色粒・雲母 ④1/5欠	外面：体部ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ。 内面：体部ヘラナダ。口縁部ヨコナデ。	
2	瓦 軒丸瓦	長さ：12.7 幅：17.7 厚さ：4.4	①灘元焼 ②外内・灰色 ③白色粒・褐色粒・雲母 ④瓦端部2/3残	瓦当部：型押しによる単弁五弁文。団面：ヘラナダ。凸面：ヘ ラナダ。	
3	瓦 丸瓦 (玉縁瓦)	長さ：39.9 幅：17.7 厚さ：2.2	①灘元焼 ②外内・黄灰色 ③白色粒・黒色粒・黒色鉱物 ④瓦端部一部欠	団面：布目痕。凸面：クロロ回転によるヨコナデ。広端面：1 面のヘラケズリ。狭端面：1面のヘラケズリ。側面：2面のヘ ラケズリ。	
4	瓦 平瓦	長さ：42.3 幅：29.8 厚さ：2.4	①灘元焼 ②外内・灰白色 ③黒色粒・白色粒 ④3/4残	団面：布目痕。粘土板切り取り痕。凸面：前面に溝引き。弱 い縱方向のヘラナダ。広端部：1面のヘラケズリ。狭端部：1 面のヘラケズリ。側面：1面のヘラケズリ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
5	鉄製品 鉄鎌	長さ：14.5 幅：3.8 厚さ：0.7 重さ：27.35 g	備考：刃部先端及び茎部先端欠損。		

Tab.11 積穴住居跡出土遺物観察表（9）

3. 土坑

土坑は出土遺物や埋没土の含有物により概ね縄文時代前期、縄文時代中期、古墳時代以降、奈良・平安時代以降、As-B 降下以降、近世の6時期に分類された。また、古墳時代以降の土坑について明瞭に土坑に伴う遺物が出土しているものについては詳細な時期が判明したものもある。遺物の出土が認められなかった土坑については埋没土による時期分類を行っている。埋没土に As-C を含まないものは縄文時代以降、As-C を含み As-B を含まないものは古墳時代以降、As-B を含むものは As-B 降下以降として扱った。なお、古墳時代以降に帰属する土坑については遺物が細片であるが奈良・平安時代に帰属する遺物が含まれていたものについては奈良・平安時代以降として扱った。

縄文時代前期：D-8・10・11・28・34・36・37・39・51・56・59・60号土坑が該当する。これらの土坑からは諸磧b～c式を中心とした深鉢や浅鉢のほか、石鑿・打製石斧・スクレイバー・石錐・磨石・剝片などの石器が出土した。なお、出土した浅鉢のなかには赤彩が施されているものも認められた。

縄文時代中期：D-29・30・32・49・54・57・61号土坑が該当する。D-30号土坑は深鉢・浅鉢が多量に出土したほか、耳栓や滑石製の垂飾が出土した。墓壙の可能性も考慮される。

縄文時代以降：D-50・52・53が該当する。

古墳時代以降：D-18・23・26・47・48号土坑が該当する。いずれの土坑も土器小片が出土するのみであった。

奈良・平安時代以降：D-1・4・5・9・13～17・21・26・43・44が該当する。D-1号土坑は瓦や土器片が土坑内に集積したような状態で出土しており出土遺物から10世紀に帰属するものと考えられる。D-21号土坑は長軸が4.27mを測る大型の土坑である。埋没土は人為埋没の状況を呈しており、遺構形態などと勘案すると室として機能していた可能性が考慮される。帰属時期は出土遺物から10世紀と考えられる。D-44号土坑は平面形は横円形を呈し、規模は3.36×3.00・深さ0.90mを測る。底面には中央部に隅丸長方形を呈する浅い土坑状の掘り込みとその両脇に1基ずつピットが認められた。出土遺物は須恵器盤や甕が出土しており帰属時期は8世紀と考えられる。

As-B 降下以降：D-2・7・12・31・45が該当する。D-12号土坑は遺構形態から井戸跡と考えられる。D-31号土坑は人骨の出土が認められたことから墓壙と考えられる。埋葬形態は横臥屈葬で頭頂部は北に位置していた。副葬品の出土は認められなかった。

近世：D-3・20号土坑が該当する。D-3号土坑の埋没土中からは瓦質土器の鉢と考えられる口縁部片が1点出土している。D-20号土坑からは近世に陶器・磁器が出土した。

造構名	規模				出土遺物	発属時期	備考
	平面形	断面形	長軸	短軸			
D-1	J	J	(1.20)	(1.20)	— 須恵器（便）、羽釜、瓦（軒丸瓦・平瓦）	10世紀	遺物集積土塀。
D-2	B	F	1.41	0.90	0.36 出土遺物なし	Az-B 降下以降	
D-3	B	H	1.63	1.02	0.54 瓦質土器（鉢）	近世	
D-4	C	I	1.62	1.44	0.09 土師器小片、瓦（平瓦）	奈良・平安時代以降	
D-5	C	I	2.61	1.29	0.18 土師器（便）	奈良・平安時代以降	
D-6 欠番							
D-7	C	F	2.16	1.17	0.42 出土遺物なし	Az-B 降下以降	
D-8	D	F	1.20	1.05	0.51 繩文土器（深鉢）、石器（削片）	縹文時代初期	諸城c式
D-9	B	F	1.38	0.96	0.57 須恵器（坪）、土製品（土鍋）	奈良・平安時代以降	
D-10	D	F	1.26	1.20	0.72 繩文土器（深鉢）、石器（削片）	縹文時代中期	諸城c式
D-11	C	F	0.94	0.63	0.24 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-12	A	—	1.35	1.32	(0.60) 出土遺物なし	Az-B 降下以降	井戸跡。底面未検出。
D-13	E	F	0.99	0.69	0.30 土師器（便）	奈良・平安時代以降	
D-14	B	F	1.29	1.02	0.33 土師器（便）、須恵器（坪）	奈良・平安時代以降	
D-15	J	F	1.44	<1.38>	0.60 土師器（坪・便）、須恵器（坪・便・便）瓦（丸瓦）	10世紀	
D-16	E	F	1.47	0.66	0.18 土師器（坪・便）、須恵器（便）、瓦（丸瓦・平瓦）	奈良・平安時代以降	
D-17	E	F	1.68	<1.50>	0.33 土師器（便）、須恵器（坪）、灰釉陶器（壺）	10世紀	
D-18	J	F	1.38	<1.40>	0.21 出土遺物なし	古墳時代以降	
D-19 欠番							
D-20	E	H	2.28	1.80	0.51 陶器（壺）、磁器（碗）	近世	
D-21	C	G	4.32	2.07	0.78 須恵器（坪）、刻墨、瓦（平瓦）	10世紀	
D-22 欠番							
D-23	F	F	1.29	0.69	0.39 出土遺物なし	古墳時代以降	
D-24 欠番							
D-25 欠番							
D-26	E	F	1.35	1.02	0.51 土師器（坪・便）、須恵器（便・便）	奈良・平安時代以降	
D-27	C	F	1.63	1.20	0.30 土師器小片	古墳時代以降	
D-28	A	F	2.16	2.04	0.33 繩文土器（深鉢）、石器（スクレイバー・打製石斧）	縹文時代前期	諸城c式
D-29	J	J	1.68	1.50	0.48 石器（石鑿・石皿・多孔石）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-30	J	<F>	2.07	<1.23>	0.24 繩文土器（深鉢・鉢）、土製品（瓦片）・石製品（垂飾）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-31	C	F	1.32	0.72	0.06 人骨	Az-B 降下以降	墓壙
D-32	E	F	1.86	1.50	0.78 繩文土器（深鉢）、石器（石底・石核）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-33	B	F	1.32	1.02	0.36 出土遺物なし	縹文時代以降	
D-34	C	F	2.22	2.10	0.99 繩文土器（深鉢）、石器（石鑿）	縹文時代前期	諸城c式
D-35	A	F	1.14	1.08	0.48 出土遺物なし	時期不明	
D-36	B	F	0.90	0.90	0.24 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-37	<C>	F	<1.56>	1.08	0.72 繩文土器（深鉢）、石器（打製石斧）	縹文時代前期	諸城c式
D-38	<A>	F	<0.84>	<0.78>	0.66 出土遺物なし	縹文時代以降	
D-39	J	F	<1.68>	1.23	0.48 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-40	<C>	F	<2.28>	1.86	0.63 繩文土器（深鉢）、石器（石鑿・スクレイバー）	縹文時代前期	諸城c式
D-41	C	F	1.44	1.20	0.18 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-42	A	F	1.56	1.50	0.36 出土遺物なし	時期不明	
D-43	J	F	<1.05>	<0.99>	0.60 土師器（坪・便）	奈良・平安時代以降	
D-44	B	F	3.36	3.00	0.90 須恵器（盤・甕）	8世紀	
D-45	C	F	2.34	1.53	0.33 出土遺物なし	Az-B 降下以降	
D-46 欠番							
D-47	B	F	1.86	0.93	0.57 土師器小片	古墳時代以降	
D-48	B	F	1.02	0.87	0.27 土師器（坪・便）	古墳時代以降	
D-49	J	F	<0.87>	0.87	0.36 繩文土器（深鉢）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-50	A	E	0.81	0.81	0.21 出土遺物なし	縹文時代以降	
D-51	B	F	1.38	1.08	0.36 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-52	B	H	0.84	0.66	0.39 出土遺物なし	縹文時代以降	
D-53	B	F	1.02	0.81	0.21 出土遺物なし	縹文時代以降	
D-54	C	<F>	1.23	0.87	0.12 繩文土器（深鉢）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-55	E	F	1.53	1.35	0.39 出土遺物なし	時期不明	
D-56	E	F	2.64	<2.43>	0.81 繩文土器（深鉢・浅鉢）、石器（石鑿）	縹文時代前期	諸城c式
D-57	J	F	1.02	0.69	0.39 繩文土器（深鉢）	縹文時代中期	加曾利E田式
D-58	E	F	1.68	0.87	0.60 出土遺物なし	時期不明	
D-59	A	F	1.14	1.14	0.64 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-60	J	F	<1.86>	1.50	0.60 繩文土器（深鉢）	縹文時代前期	諸城c式
D-61	B	I	2.55	2.25	0.12 繩文土器（深鉢）	縹文時代中期	加曾利E田式

*単位：m 平面形態=A：円形・B：橢円形・C：満丸長方形、D：満丸方形、E：不整形、F：逆台形、G：箱形、H：U字形、I：皿形、J：不明 計測値の規模は上端幅を計測した。

Tab. 12 土坑一覧

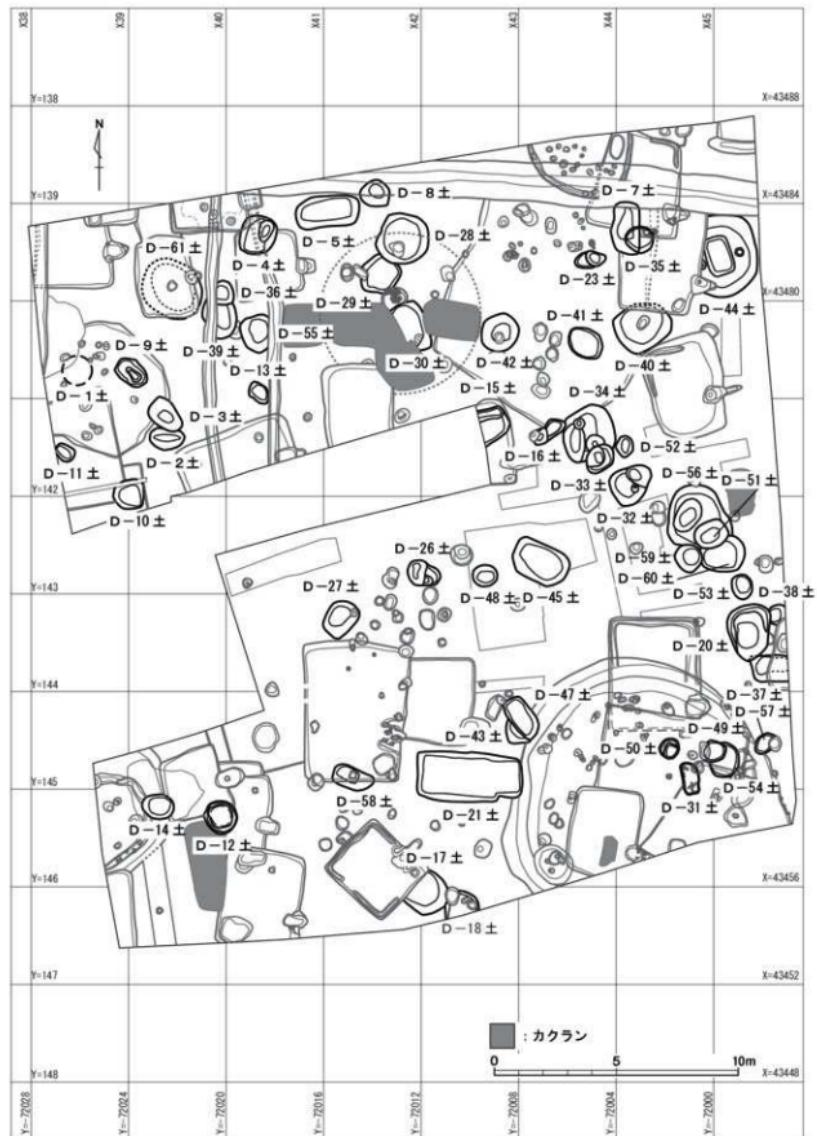


Fig. 38 土坑全体図

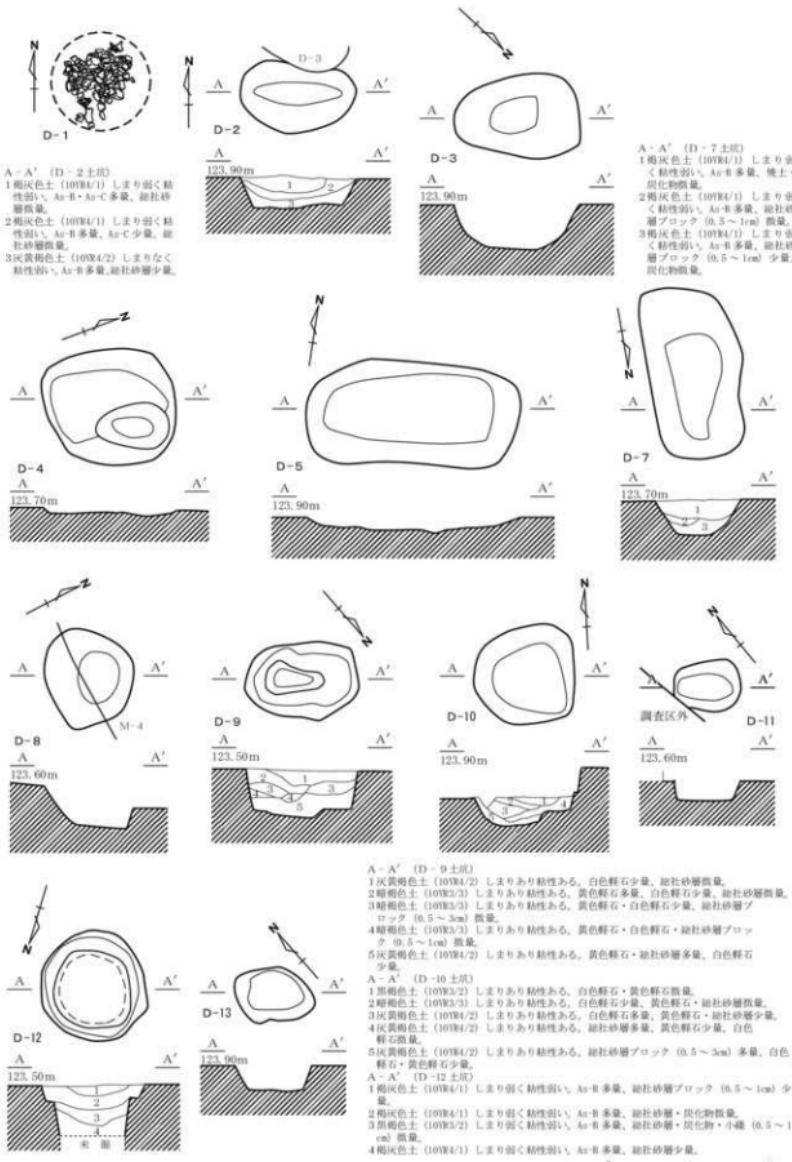


Fig. 39 土坑遺構図 (1)

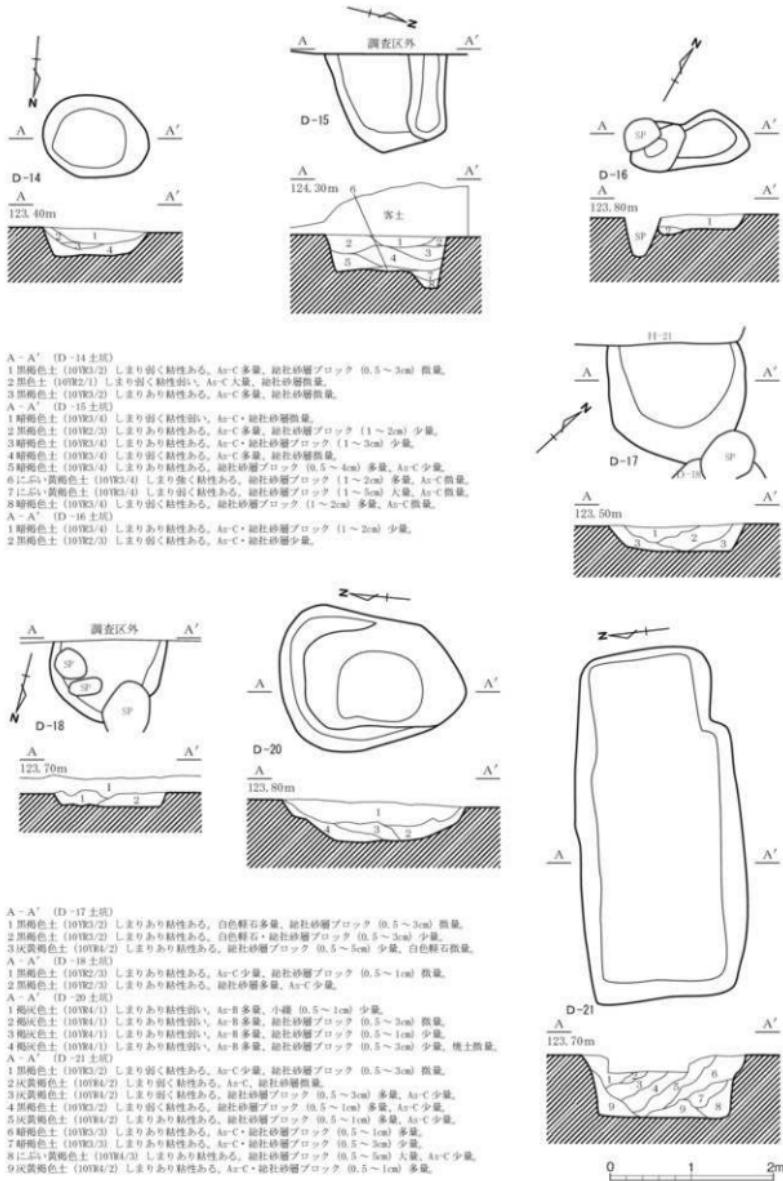
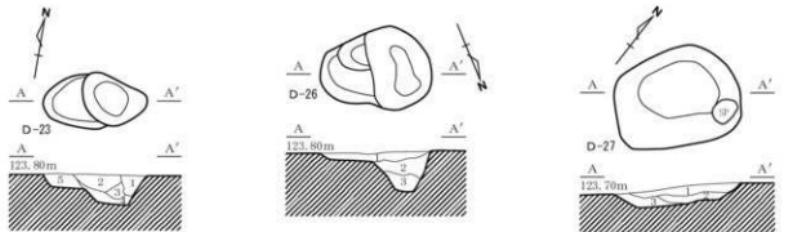
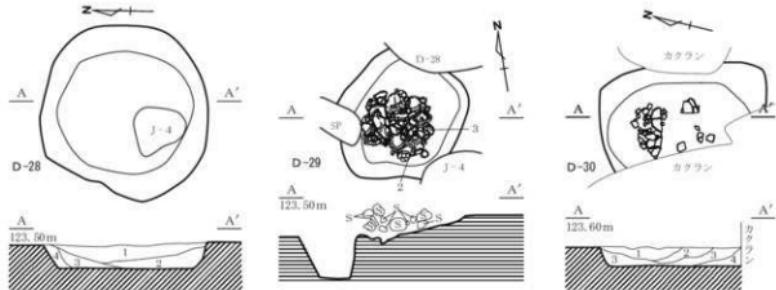


Fig. 40 土坑構造図 (2)



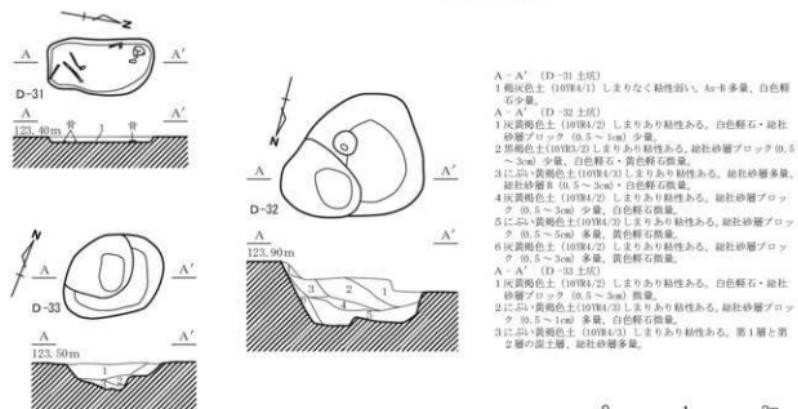
- A - A' (D-23 土壌)
1 黒褐色土 (10YR4/4) しまりなし粘性ない。Ax-C・総社砂層微量。
2 黒褐色土 (10YR2/1) しまりなし粘性弱い。風化していない Ax-C 多量。
3 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ax-C 少量。総社砂層微量。
4 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ax-C・総社砂層微量。
5 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ax-C 多量。総社砂層微量。
A - A' (D-26 土壌)
1 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ax-C 多量。総社砂層微量。

- 2 黒褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。Ax-C 多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 程量。
3 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 多量。Ax-C 少量。
A - A' (D-27 土壌)
1 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Ax-C 少量。総社砂層微量。
2 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性弱い。Ax-C 多量。総社砂層微量。
3 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層微量。Ax-C 微量。



- A - A' (D-28 土壌)
1 黄褐色土 (10YR6/3) しまりあり粘性ある。黄色軽石多量。白色軽石少量。燒土・総社砂層微量。
2 に黄褐色土 (10YR6/4) しまりあり粘性ある。総社砂層多量。黄色軽石微量。
3 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層多量。黄色軽石少量。
4 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石・総社砂層多量。白色軽石微量。

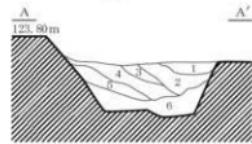
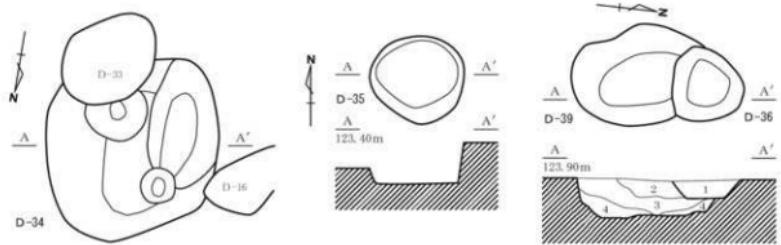
- A - A' (D-29 土壌)
1 黄褐色土 (10YR6/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。白色軽石少量。
2 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石少量。白色軽石・焼化物微量。
3 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 5cm) 多量。白色軽石・焼化物微量。
4 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色軽石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。焼化物微量。



- A - A' (D-31 土壌)
1 黄褐色土 (10YR4/1) しまりなく粘性弱い。Ax-B 多量、白色軽石少量。
A - A' (D-32 土壌)
1 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。白色軽石・黃褐色石微量。
2 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。白色軽石・黃褐色石微量。
3 に 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層多量。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。白色軽石微量。
4 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。白色軽石微量。
5 に 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。白色軽石微量。
6 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。白色軽石微量。
A - A' (D-33 土壌)
1 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
2 に 黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 多量。白色軽石微量。
3 に 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。第1層と第2層の底層、総社砂層多量。



Fig. 41 土坑遺構図 (3)

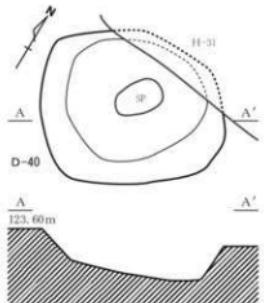
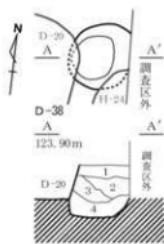
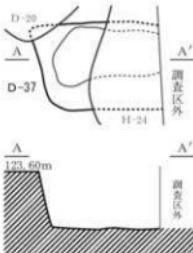


A - A' (D-34 土境)

- 1 黑褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層多量、黄色鮮石・白色鮮石微量。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。黄色鮮石少量、白色鮮石微量。
- 3 にじみ黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 多量、白色鮮石微量。
- 4 にじみ黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 5cm) 多量、黄色鮮石微量。
- 5 にじみ黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 大量、黄色鮮石微量。
- 6 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量、白色鮮石・黄色鮮石微量。

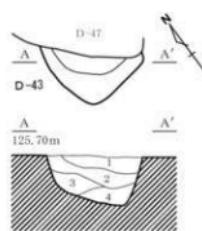
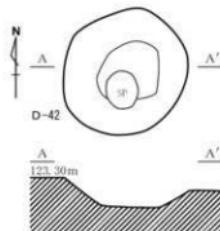
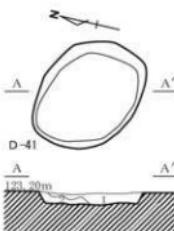
A-A' (D-34 土境)

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量、黄色鮮石微量。
- 2 黄褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石・総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 稀量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) ・黄色鮮石微量。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層多量。



A - A' (D-38 土境)

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性弱い。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 多量、白色鮮石微量。
- 2 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石多量、総社砂層少量。
- 3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石多量、総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 1cm) 多量、白色鮮石微量。



A - A' (D-41 土境)

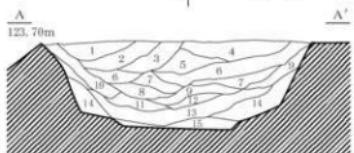
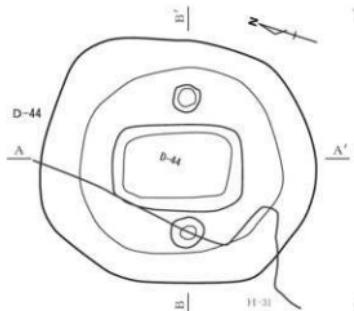
- 1 黑褐色土 (10YR2/3) しまりあり粘性弱い。白色鮮石多量、総社砂層ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。総社砂層ブロック (0.5 ~ 5cm) 多量、白色鮮石微量。

A - A' (D-42 土境)

- 1 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性弱い。Aa-C 多量、総社砂層少量。
- 2 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Aa-C 多量、黄色鮮石少量、総社砂層微量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。Aa-C 多量、総社砂層ブロック (0.5 ~ 5cm) 少量。
- 4 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。Aa-C 多量、総社砂層・黄色鮮石微量。



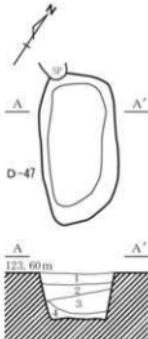
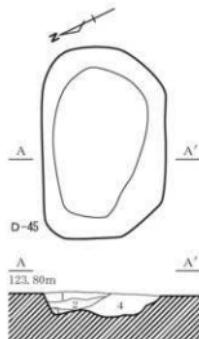
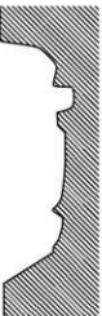
Fig. 42 土坑遺構図 (4)



A-A' (D-44上位)
1 黒褐色土 (10YR 4/8) 2 しまりあり粘性ある。An-C 多量、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~1cm) 少量。
2 黒褐色土 (10YR 4/2) しまりあり粘性ある。An-C 少量、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~3cm) 無量。

B-B' (D-44下位)
1 黄褐色土 (10YR 2/4) しまりあり粘性ある。An-C 多量、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~1cm) 少量。
2 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。An-C、C、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~1cm) 少量。
3 水成褐色土 (10YR 4/2) しまりあり粘性ある。絆砂粒
砂層ブロック (0.5~3cm) 大量、An-C 少量。
7 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。絆砂粒
砂層ブロック (0.5~1cm) 少量、An-C 少量。
8 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。An-C 多量、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~3cm) 少量。
9 喀斯特土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。An-C 多量、
絆砂粒砂層少量。

C-C' (D-44中位)
1 黑褐色土 (10YR 4/8) しまりあり粘性ある。絆砂粒砂
層ブロック (0.5~1cm) 少量。
11 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。絆砂粒
砂層ブロック (0.5~3cm) 大量、An-C 少量。
12 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。An-C 少量、
絆砂粒砂層ブロック (0.5~3cm) 無量。
13 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。絆砂粒
砂層ブロック (0.5~3cm) 大量、An-C 少量。
14 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。An-C 少量、
絆砂粒砂層少量。
15 黄褐色土 (10YR 2/2) しまりあり粘性ある。絆砂粒
砂層ブロック (0.5~3cm) 少量、An-C 無量。



A- A' (D-45 土)

1赤褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層、A'=C 浅量。

2赤褐色土 (10YR 3/0) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層、A'=C 浅量。

3-3 黄褐色土 (10YR 5/3) しまり弱く粘性なし。緑砂層 (0.5~1cm) 少量、白色粘土無量。

4赤褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。緑砂層ブロック (0.5~1.5cm) 少量、白色粘土無量。

A- A' (D-47 土)

1赤褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層ブロック (0.5~1cm) 少量、白色粘土無量。

2赤褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。A=少量、緑砂層ブロック (0.5~2cm) 少量。

3-3 黄褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。A=少量、緑砂層ブロック (0.5~4cm) 少量。

4赤褐色土 (10YR 3/0) しまり弱く粘性なし。A=C、緑砂層ブロック (0.5~10cm) 少量。

A- A' (D-48 土)

1赤褐色土 (10YR 2/2) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層無量。

2-2 黄褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。緑砂層ブロック (0.5~1cm) 少量、A'=C 浅量。

A- A' (D-51 土)

1赤褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層無量。

2-2 黄褐色土 (10YR 3/0) しまり弱く粘性なし。A=多量、緑砂層無量。

3-3 黄褐色土 (10YR 4/2) しまり弱く粘性なし。黄色粘土無量。

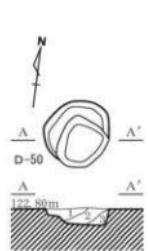
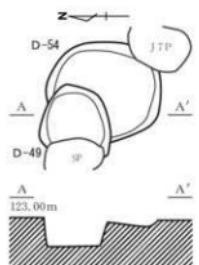
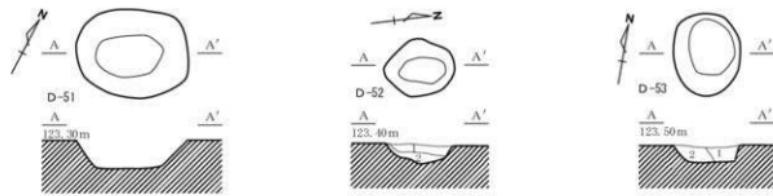
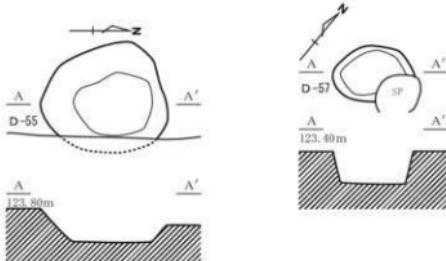


Fig. 43 土坑遺構圖 (5)





A - A' (D-52 土坑)
1 黄褐色土 (10YR5/2) しまりあり粘性ある。細粒砂
質ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量、白色鮮石・黄色鮮石微量。
2 に5% 黄褐色土 (10YR5/4) しまりあり粘性ある。細
粒砂質ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量、黄色鮮石微量。
A - A' (D-53 土坑)
1 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。細粒砂
質ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量、白色鮮石微量。
2 黑褐色土 (10YR3/2) Lしまりあり粘性ある。細粒砂
質ブロック (0.5 ~ 10cm) 大量、白色鮮石微量。



A - A' (D-56 土坑)
1 黑褐色土 (10YR5/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石
大量、黄色鮮石・細粒砂質ブロック (0.5 ~ 3cm) 多量。
2 に5% 黄褐色土 (10YR4/3) しまりあり粘性弱い。黃
色鮮石少々。細粒砂質ブロック (0.5 ~ 1cm) 稀。
3 黑褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石・
細粒砂質ブロック (0.5 ~ 3cm) 少量、白色鮮石微量。
4 黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色鮮石・
細粒砂質ブロック (0.5 ~ 1cm) 少量。

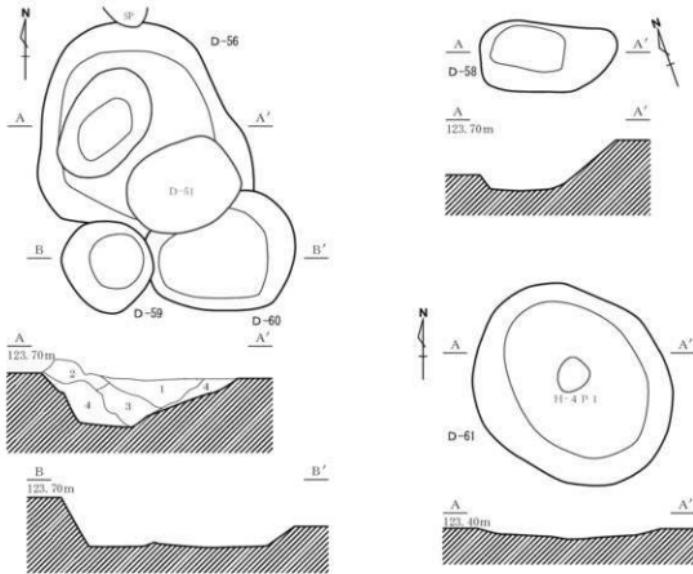
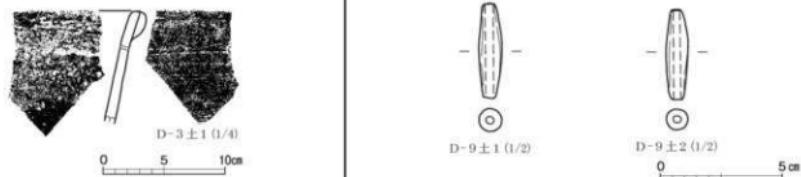


Fig. 44 土坑遺構図 (6)

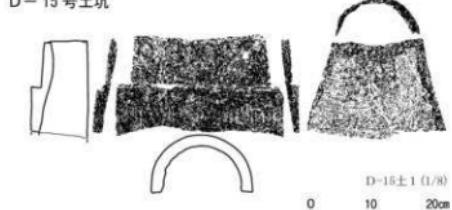
D-1号土坑



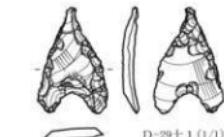
D-3号土坑



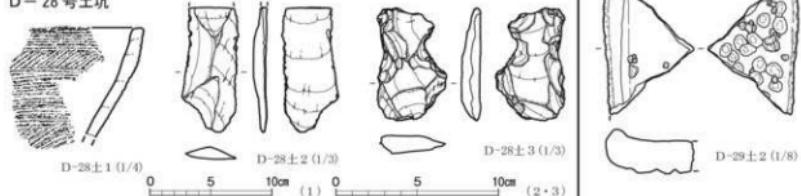
D-15号土坑



D-29号土坑



D-28号土坑



D-34号土坑

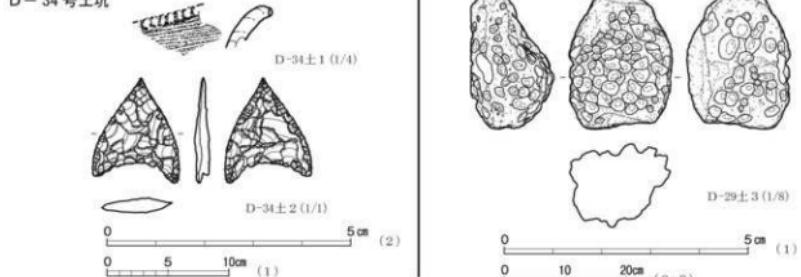
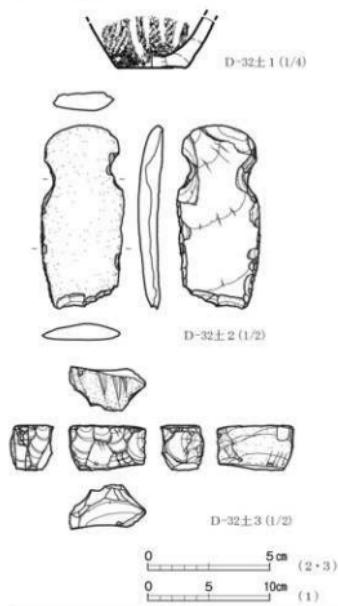


Fig. 45 土坑出土遗物 (1)

D-32号土坑



D-30号土坑

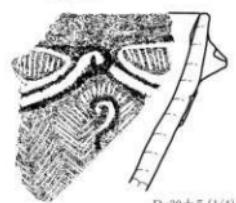
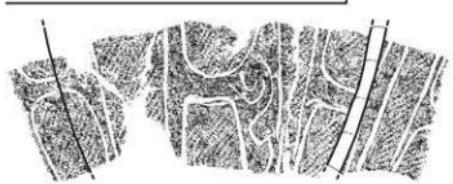
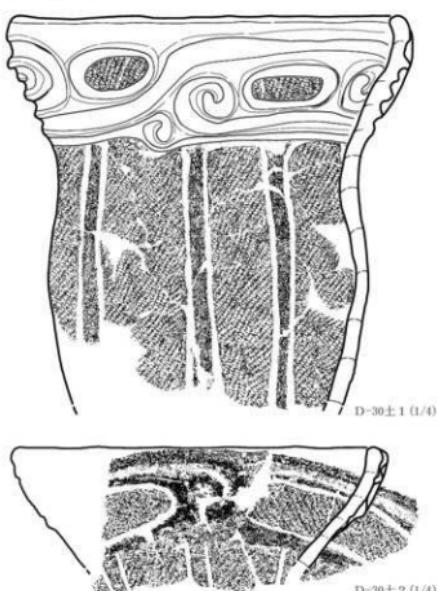
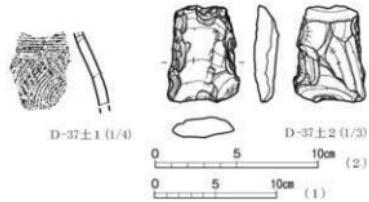
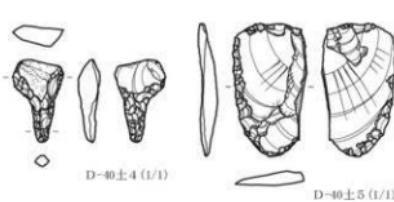


Fig. 46 土坑出土遗物 (2)

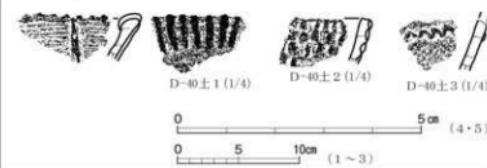
D-37号土坑



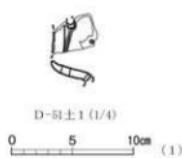
D-40号土坑



D-44号土坑



D-51号土坑



D-56号土坑

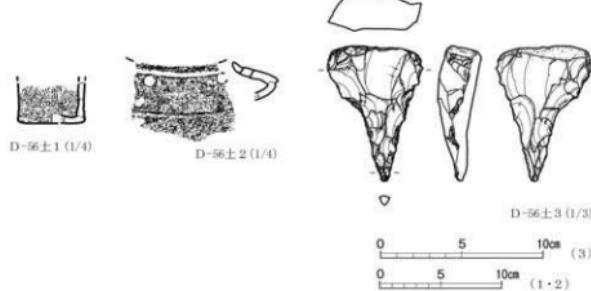


Fig. 47 土坑出土遗物 (3)

D - 1 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径：— 底径：— 器高：—	①慶元焼 ②外・灰白色、内・褐灰色 ③黑色粒・白色粒 ④胴部片	外面：平行叩き、円形竹管文。 内面：同心円状の当て具痕。	
2	瓦 軒丸瓦	長さ：<4.2> 幅：<9.4> 厚さ：3.4	①慶元焼 ②外内・灰色 ③白色粒・石英・褐色粒 ④瓦当部破片	正面：ナデ。背面：ヘラナデ。瓦当面：単弁五葉蓮華文か。	

D - 3 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦質土器 鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外・暗灰色、内・灰色 ③褐色粒・片岩・白色粒 ④口縁部片	外面：ロクロ整形。口縁部は肥厚する。補修孔が認められる。 内面：ロクロ整形。	

D - 9 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)、成・整形技法の特徴			備考
1	土製品 土鉢	長さ：3.9	幅：0.9	厚さ：0.9 重さ：2.95 g	備考：ほぼ完形。
2	土製品 土鉢	長さ：3.7	幅：0.9	厚さ：0.8 重さ：2.43 g	備考：完形。

D - 15 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	瓦 丸瓦 (玉緑瓦)	長さ：<11.0> 幅：<15.7> 厚さ：1.8	①慶元気味 ②外にぶい褐色、内・橙色 ③白色粒・褐色粒 ④1/6 瓦	正面：布目質。部分的にヘラナデ。凸面：調叩き後。ヘラナデ。窓体付着。 側面：2面のヘラケズリ。鉄端部：ヘラケズリ。	

D - 28 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	繩文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：<9.0>	①普通 ②外にぶい褐色、内・灰褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面：半截竹管状工具による横位・斜位の集合沈錠を施す。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量 (cm)	成・整形技法の特徴	備考	
2	石器 スクレイパー	長さ：<1.6> 幅：3.5 厚さ：0.8 重さ：18.4g	石材：安山岩 備考：鋸歯削片の二側縁に微細剝離痕が認められる。上部欠損。		
3	石器 打製石斧	長さ：6.9 幅：4.3 厚さ：1.2 重さ：35.0g	石材：ホルンフェルス 備考：剥片を素材とし周縁を直接打撃による両面加工が施される。		

D - 29 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)、成・整形技法の特徴			備考
1	石器 石鏟	長さ：2.15 幅：1.43 厚さ：0.34 重さ：0.51g	石材：黒曜石 備考：基盤無基。		
2	石器 石皿	長さ：<20.0> 幅：<14.8> 厚さ：7.3 重さ：1.816g	石材：砂岩 備考：裏面は浅く底み平滑し、台部は多数の凹閉状が認められる。小破片。		
3	石器 多孔石	長さ：22.3 幅：16.9 厚さ：13.6 重さ：3.500g	石材：安山岩 備考：不定形な大型縦の表・裏面や左側面に多数の開穴が認められる。		

D - 30 号土坑出土遺物観察表①

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	繩文土器 深鉢	口径：(32.4) 底径：— 器高：<31.9>	①普通 ②外内にぶい褐色 ③白色粒・褐色粒・黒色鉱物 片岩 ④口縁・胴部1/2 瓦	外面：口縁部に高巻き状・楕円形の隆帯を添付。隆帯脇には幅広の沈錠を施す。区画内にはL R 繩文を施す。胴部はL R 繩文施文後2条1対の縦位沈錠による区画を施す。区画内には磨り消しを施す。 内面：ナデ。	
2	繩文土器 深鉢	口径：(29.2) 底径：— 器高：(9.9)	①普通 ②外内にぶい褐色、内・明赤褐色 ③白色粒・褐色粒・黒色鉱 ④口縁部片	外面：口縁部に高巻き状・楕円形の隆帯を添付する。隆帯脇には幅広の沈錠を施す。楕円形区画内にはR L 繩文。胴部はR L 繩文施文後2条1対の縦位沈錠による区画を施す。区画内には磨り消しを施す。 内面：ミガキ。	
3	繩文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外・褐色、内・ぶい褐色 ③白色粒・片岩・褐色粒 ④胴部片	外面：R L 繩文施文後棒状工具による縦位・弧状の沈錠を施し区画する。区画内には磨り消しを施す。 内面：ナデ。	

Tab. 13 土坑出土遺物観察表 (1)

D-30 号土坑出土遺物観察表②

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船士④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内 - にぶい褐色 ③白色粒・雲母・褐色粒 ④口縁部片	外面：口縁部を横位隆帯で区画する。口縁部には丸棒状工具による刺突を充填する。船部はL.R縄文を施す。 内面：ナデ。	
5	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：<19.6>	①普通 ②外 - にぶい褐色、内 - 褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面：口縁部と船部を弧状の隆帯で区画する。隆帯上には沈線を施す。口縁部は沈線で横円形に区画し、区画内には横位沈線を充填する。船部は縦棒状の沈線を縱位に施す。 内面：ナデ。	
6	縄文土器 鉢	口径：(33.2) 底径：— 器高：<18.2>	①普通 ②外内 - にぶい褐色 ③チャート・白色粒・褐色粒 ④口縁～船部 1/6 残	外面：口縁部に棒状工具による横位沈線を施す。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
7	土製品 耳栓	長さ：3.45 幅：3.65 厚さ：3.25 重さ：35.53g	備考：上面に36、下面に15の刺突を施す。		
8	石製品 重鉤	長さ：2.4 幅：1.2 厚さ：0.25 重さ：1.14g	石材：滑石 備考：両面穿孔。下部は欠損。		

D-32 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船士④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：(5.5) 器高：<4.1>	①普通 ②外 - 内にぶい黄褐色、内 - 褐色 ③白色粒・黒色鉱物 ④底縁部片	外面：R.L縄文施文後2条1対の横位沈線を施し区画する。区内には磨り消しを施す。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
2	石器 石鉤	長さ：<10.2> 幅：1.1 厚さ：0.4 重さ：7.43g	石材：頁岩 備考：片開。刃部の先端欠損。		
3	石器 石核	長さ：(7.9) 幅：1.7 厚さ：0.6 重さ：10.44g	石材：頁岩 備考：先端部は扁平な円形を呈する。先端部欠損。		

D-34 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船士④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：12.2 底径：8.1 器高：3.3	①普通 ②外 - 黄灰色、内 - にぶい赤褐色 ③白色粒・黒色鉱物 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による横位集合沈線、口縁部凹凸。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
2	石器 石鉤	長さ：2.15 幅：1.79 厚さ：0.31 重さ：0.64g	石材：黒曜石 備考：回基無茎。		

D-37 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船士④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内 - にぶい赤褐色 ③金星貝・黒色鉱物 ④船部片	外面：R.L縄文施文後半載竹管状工具による横位、弧状の集合沈線。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
2	石器 打製石斧	長さ：5.9 幅：14.4 厚さ：1.5 重さ：39.1g	石材：頁岩 備考：縫皮をもつ剥片を素材とし周縁を直接打撃により正面加工が施される。基部折損後の加工痕あり。		

D-40 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③船士④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：<3.9>	①普通 ②外 - にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面：半載竹管状工具による集合沈線を横位に施す。口縁部には棒状添付穴。 内面：船部ナデ。口縁部斜位の集合沈線施文後、棒状添付穴。	
2	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：<3.7>	①普通 ②外 - 黄褐色、内 - 褐色 ③白色粒・褐色粒 ④口縁部片	外面：凹凸穴。 内面：ナデ。	
3	縄文土器 深鉢	口径：— 底径：— 器高：—	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③黑色鉱物・褐色粒 ④船部片	外面：L.R縄文施文後、陸帯を波状に添付する。 内面：ナデ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
4	石器 石鉤	長さ：1.69 幅：1.04 厚さ：0.45 重さ：0.46g	石材：黒曜石 備考：縫皮をもつ剥片を素材とし二側縁に両面加工を施し船部を加工する。小型品。		
5	石器 スクレイバー	長さ：2.72 幅：1.53 厚さ：0.39 重さ：1.22g	石材：黒曜石 備考：小型剥片を素材とし周縁の一部に微細な剥離痕が認められる。		

Tab.14 土坑出土遺物観察表（2）

D-44 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 盤	口径 : 18.0 底径 : 13.6 器高 : 4.2	①焼元塗 ②外内 - 黄灰色 ③黑色粒 ④口縁へ体部 1/3 残	外面 : ロクロ整形。底部回転へラケズリ。高台貼り付け。『×』の線刻。 内面 : ロクロ整形。	
2	須恵器 盤	口径 : 22.6 底径 : 16.1 器高 : 3.2	①焼元塗 ②外内 - 灰白色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁・底部 1/3 残	外面 : ロクロ整形。底部回転へラケズリ。底部回転へラケズリ、高台貼り付け。 内面 : ロクロ整形。	
3	須恵器 盤	口径 : - 底径 : 11.3 器高 : 1.9	①焼元塗 ②外 - 灰色、内 - 灰白色 白色・白色粒	外面 : ロクロ整形。底部回転へラケズリ後ナデ。削り出し高台。 内面 : ハナダ。	
4	須恵器 甕	口径 : - 底径 : - 器高 : <12.5	①焼元塗 ②外 - にぶい黄褐色、内 - 黄灰色 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部片	外面 : 横位沈縫による区画内に桶衝状工具による波状文を多段に施文。 内面 : ハケ状工具によるナデ。	

D-51 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	織文土器 浅鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : <1.7	①良好 ②外内 - にぶい赤褐色、内 - 赤褐色 ③金雲母・黒色粒 物・白色粒。 ④口縁部片	外面 : 口縁部に横位沈縫を施す。2箇所の穿孔が認められる。 赤漆付着。	

D-56 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考	
1	織文土器 深鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : <3.9	①普通 ②外内 - 黄灰色 ③白色粒・褐色粒 ④底部 1/3 残	外面 : 半截竹管状工具による集合沈縫を縦位・横位・斜位に施文する。 内面 : ナデ。		
2	織文土器 浅鉢	口径 : - 底径 : - 器高 : <3.1	①良好 ②外内 - 明るい赤褐色 ③金雲母・褐色粒 ④口縁部片	外面 : ミガキ。2箇所の穿孔が認められる。赤漆塗布。 内面 : ナデ。赤漆塗布。		
番号	器種	法量 (cm)、成・整形技法の特徴				
3	石器 石鎚	長さ : 8.3 幅 : 5.9 厚さ : 2.7 重さ : 85.7g	石材 : 頁岩	備考 : 積度をもつ剥片を素材とし二側縁に両面加工を施し錐部を作出する。		

Tab. 15 土坑出土遺物観察表 (3)

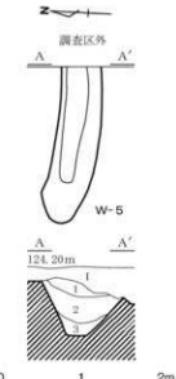
4. 溝

5条の溝を検出した。いざれも流水の痕跡が堆積土において認められないことから区画として用いられた溝と考えられる。W-1・2は検出状態・形状・走行方向から勘案すると同時期に機能していた溝と考えられる。調査区の南側では検出されなかつたことから調査区外において屈曲するか止まるものと考えられる。W-3号溝は埋没土中にAs-B降下に伴う火山灰がブロック状に堆積するのが確認された。W-4号溝は東西方向に走行する溝で埋没土にはAs-Bを含まない。W-3号溝との位置関係を考慮すると調査区外において直行する可能性が考えられる。埋没土には差が認められることからW-4号溝開削後に新たにW-3号溝が開削され機能していた可能性も考慮されよう。W-5号溝はわずかな範囲を検出するのみであったが、形状・理・埋没土から勘案すると区画に使用された溝と判断される。

造構名	規格			走行方向	断面形状	帰属時期	備考
	上端幅	下端幅	深さ				
W-1	0.42	0.18	0.30	N-5° -W	逆台形	As-B 降下以降	
W-2	0.45	0.21	0.27	N-2° -E	逆台形	As-B 降下以降	
W-3	(0.60)	(0.51)	0.35	N-1° -E	（逆台形）	奈良・平安時代以降	
W-4	1.05	0.27	0.48	N-85° -W	逆台形	奈良・平安時代以降	
W-5	0.54	0.45	0.69	N-90° -E	逆台形	As-B 降下以降	

豪単位 : m

Tab. 16 溝一覧



A - A' (W-02) 1相褐色 (10YR 4/1) しまりなく粘性ない。As-B 大量。
2相褐色 (10YR 4/2) しまり強く粘性ない。As-B 多量。
As-C 結社砂層 分層。
3床 黄褐色 (10YR 4/2) しまり強く粘性弱い。As-B・結社砂層 多量。
3床 黄褐色 (10YR 4/2) しまり強く粘性弱い。As-C 微量。

Fig. 48 溝遺構図 (1)

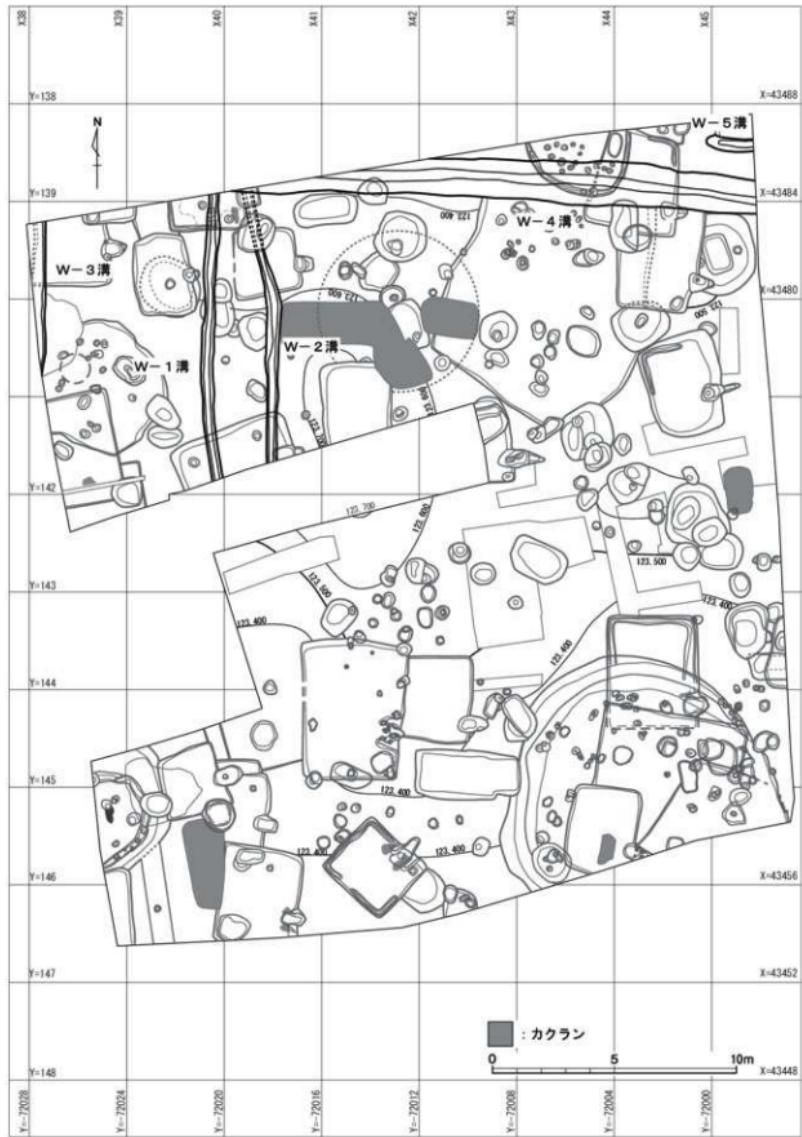


Fig. 49 溝全体図

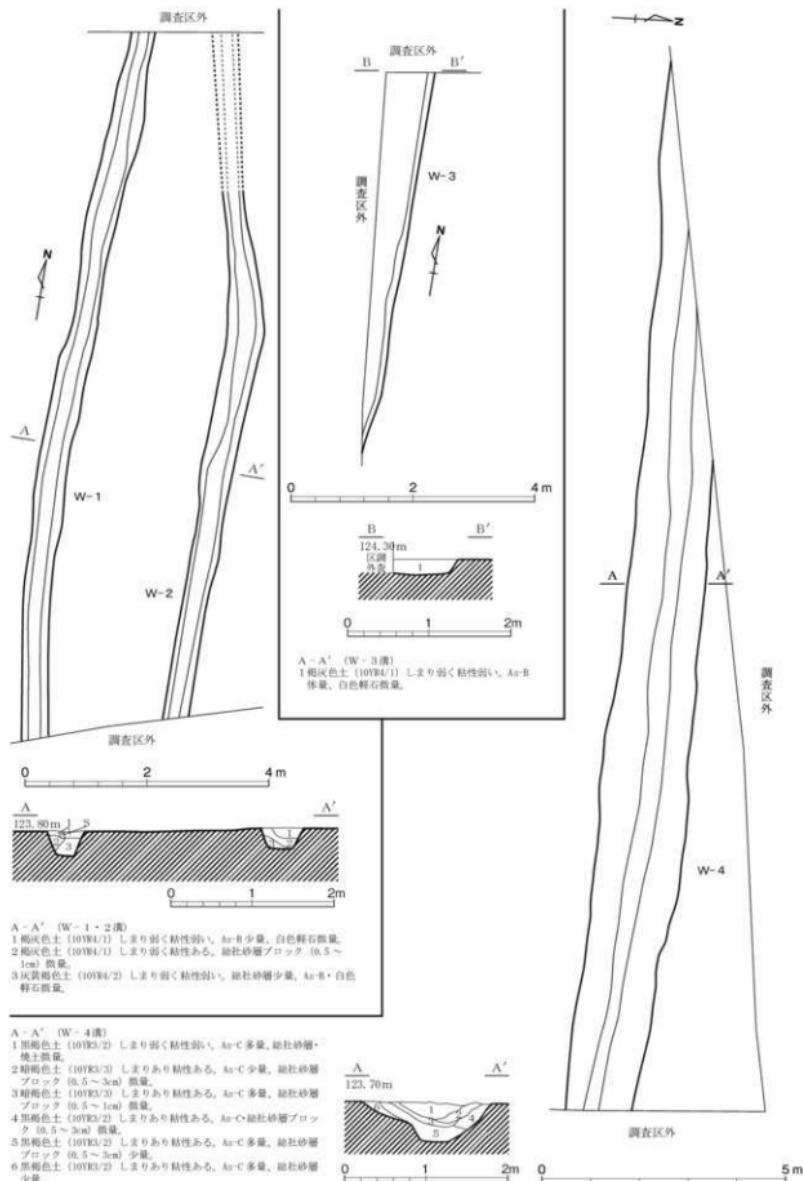


Fig. 50 溝遣構図 (2)

5. ピット

82基のピットを検出した。今回の調査では掘立柱建物跡などの検出には至らなかった。ピットは埋没土により帰属時期を3期に分類した。縄文時代以降としたものは埋没土に黄色軽石を含み褐色土を基調とするものである。古墳時代以降としたものは埋没土にAs-Cを含み黒褐色土を基調とするものである。As-B降下以降としたものは埋没土にAs-Bを含み褐色土を基調とするものである。

遺構名	位置	平面形	規格		備考
			長軸・短軸・深さ		
SP-01	X43・Y140	A	0.54・0.52・0.39		古墳時代以降
SP-02	X43・Y140	B	0.61・0.49・0.13		古墳時代以降
SP-03	X43・Y140	B	0.69・0.49・0.19		古墳時代以降
SP-04	X43・Y140	C	0.60・0.47・0.32		古墳時代以降
SP-05	X45・Y143	B	0.34・0.23・0.22	As-B降下以降	
SP-06	X45・Y143	B	0.31・0.26・0.35	As-B降下以降	
SP-07	X44・Y144	B	0.41・0.32・0.63	As-B降下以降	
SP-08	X43・Y145	B	0.56・0.51・0.19		古墳時代以降
SP-09	X43・Y145	B	0.56・0.51・0.19		古墳時代以降
SP-10	X43・Y145	B	0.40・(0.34)・0.14		古墳時代以降
SP-11	X43・Y140	E	0.77・0.57・0.23		古墳時代以降
SP-12	X42・Y145	B	0.77・0.65・0.23		古墳時代以降
SP-13	X42・Y146	B	0.42・0.35・0.17		古墳時代以降
SP-14	X42・Y146	(B)	0.42・(0.21)・0.14		古墳時代以降
SP-15	X42・Y146	B	0.74・0.58・0.20		古墳時代以降
SP-16	X41・Y145	D	0.51・0.50・0.22		古墳時代以降
SP-17	X41・Y145	B	0.28・0.25・0.31		古墳時代以降
SP-18	X41・Y145	(B)	<0.69・0.44・0.18		古墳時代以降
SP-19	X41・Y145	A	0.58・0.52・0.10		古墳時代以降
SP-20	X41・Y145	B	0.37・0.31・0.63		古墳時代以降
SP-21	X41・Y145	B	0.41・0.35・0.39		古墳時代以降
SP-22	X40・Y144	C	0.70・0.59・0.25		古墳時代以降
SP-23	X41・Y143	B	0.66・0.48・0.14	As-B降下以降	
SP-24	X41・Y143	A	0.38・0.37・0.12		古墳時代以降
SP-25	X41・Y141	B	0.67・0.53・0.30		縄文時代以降
SP-26	X39・Y146	A	0.25・0.24・0.20		古墳時代以降
SP-27	X41・Y143	B	0.40・0.33・0.25		古墳時代以降
SP-28	X41・Y143	(A)	<0.43・0.43・0.13		古墳時代以降
SP-29	X41・Y143	A	0.40・0.36・0.10		古墳時代以降
SP-30	X42・Y143	A	0.57・0.52・0.37		古墳時代以降
SP-31	X42・Y143	E	0.34・0.31・0.15		古墳時代以降
SP-32	X43・Y140	B	0.63・0.43・0.31		古墳時代以降
SP-33	X44・Y144	C	0.74・0.42・0.17	As-B降下以降	
SP-34	X43・Y139	C	1.27・1.11・0.56		古墳時代以降
SP-35	X44・Y141	B	0.81・0.51・0.38		古墳時代以降
SP-36	X41・Y142	E	0.86・0.63・0.36		古墳時代以降
SP-37	X42・Y143	B	0.74・0.61・0.25		古墳時代以降
SP-38	X44・Y142	B	0.62・0.49・0.41		古墳時代以降
SP-39	X44・Y142	(A)	0.62・(0.61)・0.32		古墳時代以降
SP-40	X44・Y140	C	0.62・0.40・0.31		古墳時代以降
SP-41	X42・Y143	B	0.84・0.62・0.25		古墳時代以降
遺構名	位置	平面形	規格		備考
			長軸・短軸・深さ		
SP-42	X43・Y142	A	0.33・0.31・0.33		古墳時代以降
SP-43	X45・Y143	A	0.23・0.21・0.25		古墳時代以降
SP-44	X45・Y143	(B)	0.30・0.24・0.35		古墳時代以降
SP-45	X45・Y144	B	0.46・0.39・0.23		古墳時代以降
SP-46	X40・Y140	A	0.38・0.32・0.55		古墳時代以降
SP-47	X43・Y142	B	0.98・0.78・0.33		古墳時代以降
SP-48	X44・Y140	(B)	0.75・(0.65)・0.32		古墳時代以降
SP-49	X41・Y143	B	0.54・0.45・0.48		古墳時代以降
SP-50	X42・Y142	A	0.91・0.85・0.51		古墳時代以降
SP-51	X44・Y143	B	0.44・0.34・0.52		古墳時代以降
SP-52	X42・Y144	C	<1.06・0.57・0.16		古墳時代以降
SP-53	X41・Y145	B	0.42・0.30・0.19		古墳時代以降
SP-54	X42・Y145	A	0.42・0.39・0.21		古墳時代以降
SP-55	X42・Y145	B	0.36・0.26・0.23		古墳時代以降
SP-56	X45・Y144	C	0.34・0.28・0.28		古墳時代以降
SP-57	X45・Y144	B	0.65・0.51・0.44		古墳時代以降
SP-58	X45・Y144	E	0.81・0.58・0.10		古墳時代以降
SP-59	X45・Y145	B	0.90・0.68・0.15		古墳時代以降
SP-60	X40・Y140	(A)	0.75・(0.54)・0.42		古墳時代以降
SP-61	X40・Y140	B	0.30・0.24・0.27		古墳時代以降
SP-62	X40・Y141	A	0.35・0.32・0.21		古墳時代以降
SP-63	X41・Y139	C	0.74・0.39・0.78		古墳時代以降
SP-64	X42・Y140	A	0.46・0.42・0.12		古墳時代以降
SP-65	X43・Y141	B	0.47・0.36・0.53		古墳時代以降
SP-66	X45・Y142	B	0.49・0.41・0.29		古墳時代以降
SP-67	X45・Y142	(A)	<0.33・<0.21・0.10		古墳時代以降
SP-68	X45・Y142	(B)	<0.35・<0.27・0.11		古墳時代以降
SP-69	X45・Y142	C	0.70・0.57・0.11		古墳時代以降
SP-70	X42・Y143	A	0.26・0.24・0.29		古墳時代以降
SP-71	X42・Y144	A	0.32・0.27・0.16		古墳時代以降
SP-72	X42・Y144	B	0.44・0.32・0.35		古墳時代以降
SP-73	X42・Y143	B	0.60・0.51・0.25		古墳時代以降
SP-74	X42・Y143	C	0.84・0.62・0.25		古墳時代以降
SP-75	X41・Y143	B	0.33・0.26・0.30		古墳時代以降
SP-76	X40・Y143	A	0.58・0.55・0.15		縄文時代以降
SP-77	X43・Y141	A	0.59・0.54・0.13		縄文時代以降
SP-78	X43・Y142	A	0.43・0.39・0.12		縄文時代以降
SP-79	X45・Y143	(B)	0.78・(0.41)・0.28		縄文時代以降
SP-80	X45・Y143	(A)	0.56・(0.46)・0.17		縄文時代以降
SP-81	X44・Y142	B	0.54・0.47・0.35		縄文時代以降
SP-82	X42・Y139	A	0.31・0.29・0.15		縄文時代以降

※単位：m 平面形態=A：円形・B：橢円形・C：隅丸長方形・D：不整形、E：不明 計測値の規格は上端幅を計測した。

Tab. 17 ピット一覧

6. 遺構外出土遺物

遺構外出土遺物として18点を図示した。外1・2・5・6は縄文時代前期後葉に帰属する深鉢片、外3・4は赤津II式の深鉢片、7は縄文時代前中期葉と思われる鉢である。外の8・9は加曾利E III式の深鉢胴部片だが、赤彩が認められる。外10は土製円盤である。外11は須恵器口、外12は須恵器横瓶である。外13は須恵器坪で、体部外面に「中」と思われる墨書きが認められる。外14は平瓦で側面には4回のヘラケズりが認められる。外15は鉄製品袋状铁斧である。両端部は欠損している。外16～18は石器であるが、外17・18の石材は緑色岩類となつており遺構出土の遺物においては見られなかった石材である。

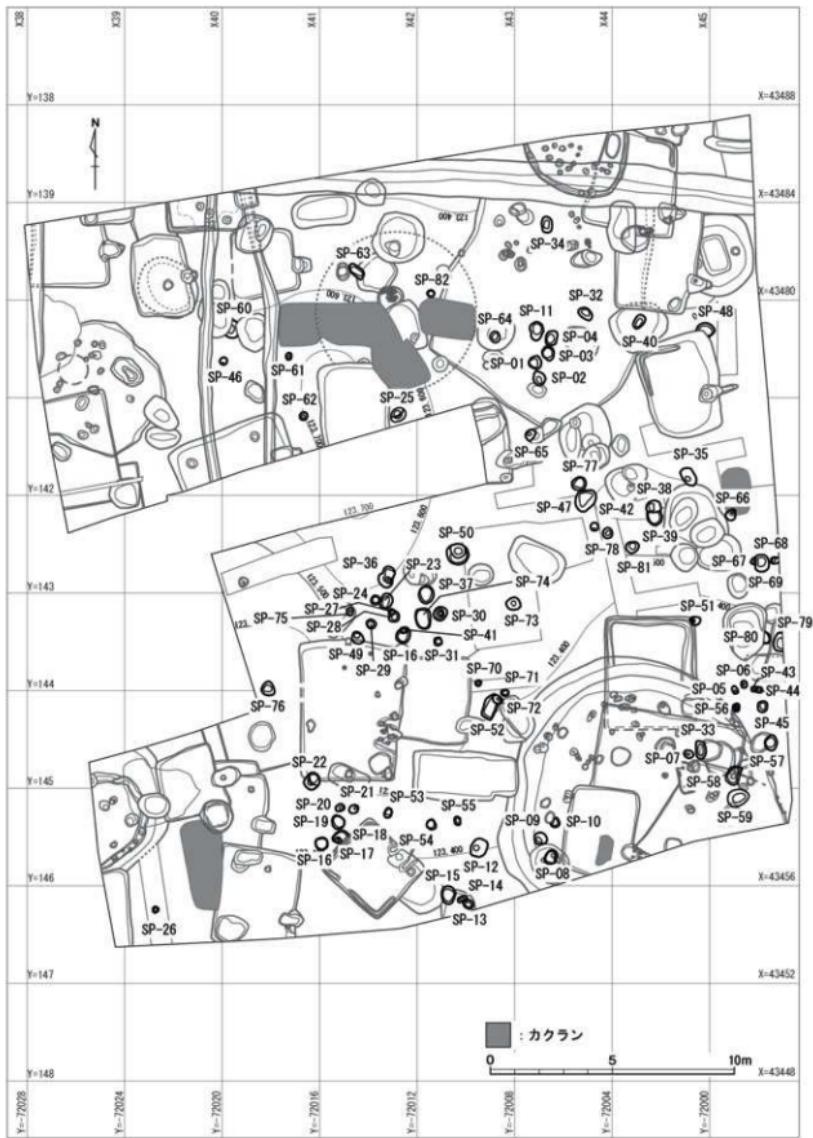


Fig. 51 ピット全体図

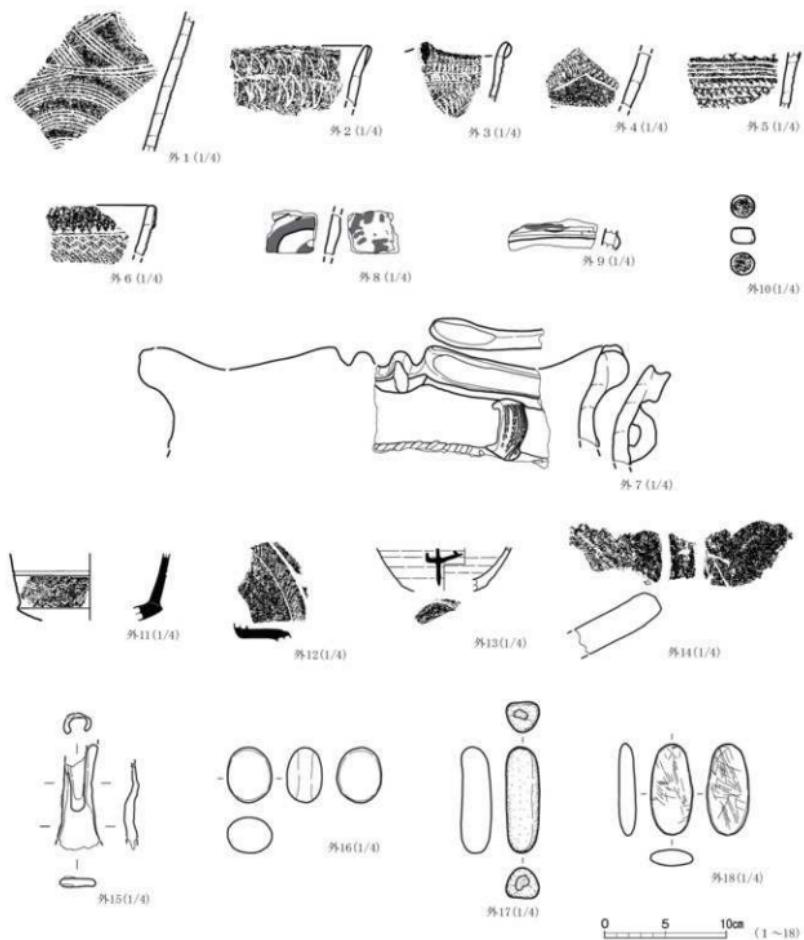


Fig. 52 遺構外出土遺物

番号	器種	法縦(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: -	①普通 ②外 - にぶい黄褐色 内 - にぶい赤褐色 ③白色粒 黑色鉱物 ④網縫片	外面: 半裁竹管状工具による集合化繩を弧状・周衛状に施文する。 内面: ナデ。	縄文時代前期 後葉
2	縄文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: (5, 0)	①普通 ②外 - にぶい黄褐色 内 - にぶい黄褐色 ③白色粒 ④口縫部片	外面: 口縫部は肥厚する。貝殻模状文。 内面: ナデ。	縄文時代前期 後葉
3	縄文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: (4, 9)	①普通 ②外 - にぶい黄褐色 内 - 灰黃褐色 ③白色粒 ④口縫部片	外面: 沈縫による区画内にスリケン貝紋。波頂部に耳状の突起。 内面: ミガキ。	興津II式

Tab. 18 遺構外出土遺物観察表 (1)

番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
4	調文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: -	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・黒色黏物 ④胴部片	外面: 沈線による区画内にスリケン貝紋。 内面: ミガキ。	興津日式
5	調文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: -	①普通 ②外 - にぶい黄褐色、内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・黑色粒 ④石英 ④胴部片	外面: 半直竹管状工具による横位沈線、三角文。 内面: ナヂ。	調文時代前期 後葉
6	調文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: <4.2	①普通 ②外 - 明黄褐色、内 - 黄褐色 ③白色粒・石英・雲母 ④口縁部片	外面: 口縁部は隆帯で肥厚させ、施術状の刻み・鶴嘴状工具による刺突を施す。胴部はR.L.調文施文後横位沈線、削削状の横位沈線を施す。 内面: ナヂ。	調文時代前期 後葉
7	調文土器 鉢	口径: (49.8) 底径: - 器高: (8.1)	①普通 ②外内 - にぶい黄褐色 ③白色粒・石英・黒色粘物 ④口縁部片	波状口縁を呈する。 外面: 波頂下に相当の突起。口縁部は隆帯により肥厚させ幅広の沈線を施す。胴部は棒状工具による削みのある隆帯で区画する。把手には鶴嘴状工具による押し引きを施す。 内面: ナヂ。	調文時代前期 末葉か
8	調文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: -	①良好 ②外 - 増灰黄色、内 - オリーブ褐色 ③白色粒 チャート ④胴部片	外面: 弧状の幅広沈線を施す。赤彩が認められる。 内面: ミガキ。赤彩が認められる。	加曾利EⅢ式
9	調文土器 深鉢	口径: - 底径: - 器高: -	①良好 ②外 - 增灰黄褐色、内 - オリーブ黒色 ③白色粒 チャート・黒色粒	外面: 横位隆帯。赤彩が認められる。	加曾利EⅢ式
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
10	土製品 土製円盤	長さ: 1.7 幅: 1.9 厚さ: 1.25 重さ: 4.3 g			
番号	器種	法量(cm)	①焼成②色調③胎土④残存	成・整形技法の特徴	備考
11	須恵器 口	口径: - 底径: - 器高: -	①運出場 ②外内 - 灰色 ③白色粒 ④体部片	外面: ロクロ整形。横位沈線、帯波状文。 内面: ロクロ整形。	
12	須恵器 横瓶	口径: - 底径: - 器高: -	①運出場 ②外内 - 灰色 ③黑色粒 ④体部片	外面: ロクロ整形。2条の横位沈線で区画を施し、区画内にL字彫文を施す。 内面: ロクロ整形。	
13	須恵器 壺	口径: - 底径: - 器高: -	①塵元気味 ②外内 - 灰白色 ③黑色粒 ④体部片	外面: ロクロ整形。墨書「中」か。 内面: ロクロ整形。	
14	瓦 平瓦	口径: - 底径: - 器高: - ④破片	①塵元気味 ②凹面 - 黄褐色、 凸面 - にぶい黄褐色 ③白色粒・褐色粒	凹面: 布目痕、ナヂ。 凸面: ヘラナヂ。 側面: 4単位のラケザブリ。	
番号	器種	法量(cm)	成・整形技法の特徴	備考	
15	鉄製品 袋状鉄斧	長さ: <8.7 幅: 3.5 厚さ: 0.7 重さ: 60.50 g	備考: 背端部欠損。		
16	石器 磨石	長さ: 4.6 幅: 3.7 厚さ: 3.0 重さ: 68g 石材: 安山岩	備考: 小縫全体に摩耗痕が認められる。		
17	石器 敲石	長さ: 8.7 幅: 2.8 厚さ: 2.5 重さ: 100.3g 石材: 緑色岩類	備考: 体状縫の上下端部に戴、摩耗が認められる。		
18	石器 扁平鍬	長さ: 7.5 幅: 3.5 厚さ: 1.4 重さ: 56.2g 石材: 緑色岩類	備考: 小型扁平鍬の表・裏面に摩耗痕が認められる。表・裏面の一部に擦痕あり。		

Tab.19 遺構外出土遺物観察表(2)

VI まとめ

1. J-6・7号住居跡出土漆塗り彩文土器について

今回の調査においてJ-6・7号住居跡より、赤漆を下地に黒漆で文様を描いた浅鉢がそれぞれ1点ずつ出土した。いずれも胴部破片で器形の全容を把握するには至らなかった。他地域における同時期の事例をみると山形県東置賜郡高畠町に所在する押出遺跡が著名である。押出遺跡では大木4式の有孔浅鉢を始めとし、漆塗りの彩文土器の好試料が多数出土していることで知られている。群馬県内では利根郡みなかみ町乾田II遺跡において諸磲b式と考えられる浅鉢口縁部に漆で文様を描いた土器の出土が認められるのみで他の事例は皆見に触れなかった。漆塗りの彩文土器については、遺存状態の問題は多分に考慮されるが当該期における遺跡数及び遺物の出土量を鑑みると非常に稀有な事例といえその特異性について検討する必要性が感じられる。

2. 碓石建ち堅穴住居跡について

本遺跡において検出されたH-20号住居跡は壁際に礎石と考えられる礎が配された住居跡であった。このような形態をもつ堅穴住居跡は類例こそ少ないが各地に散見され様々な検討がこれまでになされている。ここでは第V章において示した事実記載に若干の補足を加え群馬県内及び周辺域の事例⁽¹⁾と比較・検討を行いまとめたい。

H-20号住居跡について

H-20号住居跡は調査区中央南寄りで検出された。出土遺物から10世紀に帰属する堅穴住居跡と考えられる。礎石と考えられる礎は北壁中央に1基（礎石6）、南壁中央に1基（礎石4）、東壁に3基（礎石1～3）、西壁に1基（礎石5）が確認された。礎石1・3・6はピットに伴うものであった。北東コーナーにあるP1については、礎石の検出はなかったものの位置関係から考慮すると礎石を伴うものであつた可能性が考えられよう。また、西壁の礎石については削平により失われているものもあること

が想定される。礎石の計測値についてはTab. 20に示した。

他遺跡の事例

堀越中道遺跡（群馬県前橋市大胡町）

18号住居跡が該当する。出土遺物から9世紀に帰属する住居跡とされている。規模は南北長7.8m、東西長7.3mを測り当該期の住居跡としては大型のものである。主柱穴と考えられる位置に4基の礎石（S1～S4）が検出されており、柱間はいずれも3.3mを測る。礎石の下部には根石と考えられる礎も検出されている。壁際には壁柱穴とも考えられる小ピットが9基認められる。出土遺物には「里」と刻書された土製結縫車や「立」と書かれた墨書き土器、折頭釘、飾り釘などを始めとした鉄製品など特筆すべき遺物が多く出土している。

糸井宮前遺跡（群馬県利根郡昭和村）

第32号住居址が該当する。出土遺物から10世紀に帰属する住居跡とされている。規模は6.55×6.05mを測る。4基の礎石と考えられる礎が検出されており、そのうち1基には加工痕が認められ、石工との関連が指摘されている。出土遺物は土師器甕、須恵器甕、羽釜などの他、刀子、輪形鉄製品などが出土している。

若宮遺跡（群馬県渋川市）

6～9号住居跡が該当する。出土遺物から10世紀に帰属する住居跡とされている。規模については西側が調査区外に及ぶ

礎石No.	規格	長さ・幅・厚さ(cm)
礎石1	34.0	31.5×23.5
礎石2	32.5	23.0×25.0
礎石3	47.0	31.5×24.0
礎石4	30.5	29.5×29.0
礎石5	61.5	31.5×22.5
礎石6	25.5	18.0×15.0

Tab. 20 磚石計測表

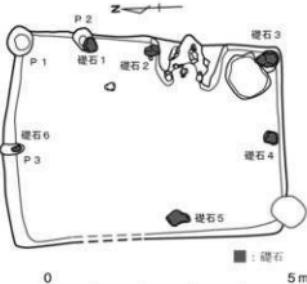
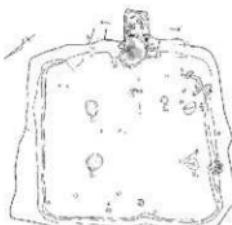


Fig. 53 H-20号住居跡礎石検出状態



堀越中道遺跡 18号住居跡



糸井宮前遺跡第32号住居址



Fig. 54 磚石建ち堅穴住居跡の事例（1）

ため詳細は不明である。本住居跡は同一箇所で4回の拡幅を目的とした建て直しが推測される住居跡である。特筆すべきは建て直しを行った際に古い住居跡の埋戻しには版築を用いている点である。礎石は主柱穴と考えられる箇所に4基検出されており、最も古い段階に帰属する6号住居跡と最も新しい段階に帰属する9号住居跡が機能しているときに使用されたものとされている。また、検出された礎石は全てピットに伴うものであり、その内3基には栗石と思われる硬も出土している。出土遺物は土師器壺、須恵器壺、羽釜、灰有陶器、土製品土錘などである。

阿知越遺跡（埼玉県本庄市児玉町）

第6号住居跡が該当する。出土遺物から9世紀に帰属する住居跡とされている。規模は東西7.5×南北6.4mを測る。2基の礎石と考えられる硬が東側の主柱穴と思われる位置に検出されている。その他、壁際には支柱穴とされる小ピットが検出されている。遺物は土師器壺・壺・台杯壺、須恵器蓋・壺・塚・大型広口壺、鉄製品紡錘車・刀子・鎌・飾り釘、石製品紡錘車などが多量に出土している。土師器壺には内面に「田」が墨書きされたものも認められる。本住居跡については、住居形態や規模、出土遺物の質及び量から本遺跡において確認された他の住居跡と比較しても傑出しているとされ、下級官人層に連なる人物が居住していた可能性について指摘されている。

結び

以上、他遺跡における事例を概観した。群馬県内の事例ではこれまで主柱穴の位置に礎石を有する形態が認められているのみで、本遺跡の事例のように壁沿いに礎石が配置されるものについては管見に触れない。今回の事例には掲載していないが、山梨県の青木北遺跡4号住居跡が壁沿いに礎石が認められるもので本遺跡における事例と共に通じる形態を有するものである。これについては報文中で、9世紀中葉から後半における首長層の住居跡と考えられ大陸系文化の影響を受けたことによって成立した住居形態である可能性について指摘されている。また、礎石を用いる点や若宮遺跡にみられる版築技法と礎石を使用する点など寺院建築に共通する工法を用いていることから、寺院建築に携わる工人が関連した住居跡である可能性⁽²⁾についても指摘されている。今回示した礎石建ち堅穴住居跡において共通することは、9～10世紀に帰属する堅穴住居跡であること、同一集落内に同様の住居形態をもつものが認められないこと⁽³⁾、出土遺物が質及び量において同一集落内における他の住居跡と比較すると上回っていること、当該期における住居規模と比較すると大型のものが認められることなどが挙げられる。以上の点から勘案すると礎石建ち堅穴住居跡は特異な住居形態といえ、集落内において明らかな優位性示している⁽⁴⁾といった指摘については首肯されよう。

(1) 群馬県内及び埼玉県の事例について扱った。

(2) 種類考古学会会報 第60号

(3) 駿府中道跡では建設を用いた可能性のある堅穴住居跡が報告されている。

(4) 駿府中道跡 P.215 第2章調査のまとめ 第2節歴史時代の遺構と遺物 (1) 堅穴住居跡

[引川文庫]

木川恵ほか 1977 『駿府中道跡発掘調査報告』 水上町教育委員会

山下信 1997 『駿府中道跡』 群馬県勢多大胡町教育委員会

石川実ほか 1985 『承井古墳遺跡I』 群馬県考古資料叢書

大庭昌彦 1996 『若宮遺跡』 沼田市教育委員会

跡の地図は 1983 『河内城跡I』 児玉町教育委員会

森和恵ほか 1992 『青木北遺跡』 山梨県教育委員会



Fig. 55 磂石建ち堅穴住居跡の事例（2）

写 真 図 版



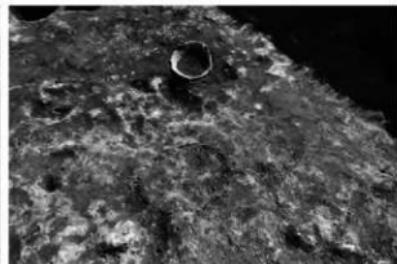
J-7号住跡調査風景（北東から）



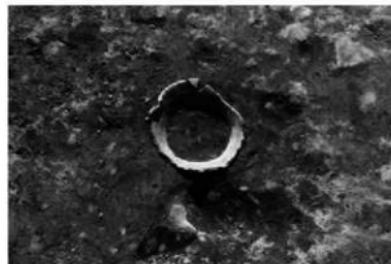
調査区全景（上が北）



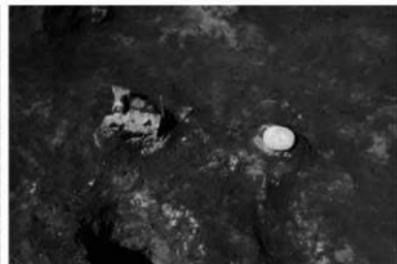
J-1号住居跡（北東から）



J-1号住居跡炉跡（北東から）



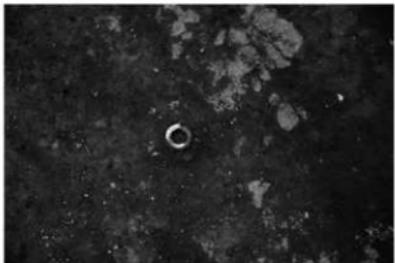
J-1号住居跡埋設土器（北東から）



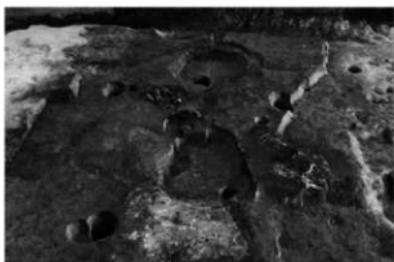
J-1号住居跡遺物出土状態（北西から）



J-3号住居跡（南から）



J-3号住居跡遺物出土状態（東から）



J-4号住居跡（南から）



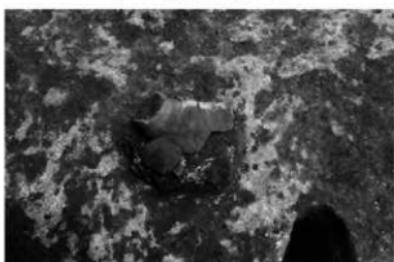
J-4号住居跡炉跡（西から）



J-5号住居跡（北から）



J-5号住居跡炉跡（北から）



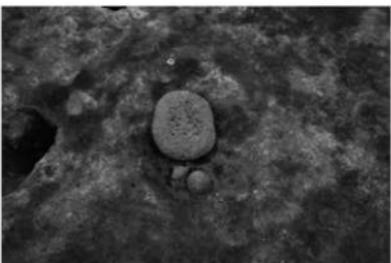
J-5号住居跡遺物出土状態（南西から）



J-6号住居跡（上が北）



J-6号住居跡遺物出土状態（北から）



J-6号住居跡遺物出土状態（南から）



J-7号住居跡（南東から）



J-7号住居跡北東部ピット列（南西から）



H-1号住居跡（西から）



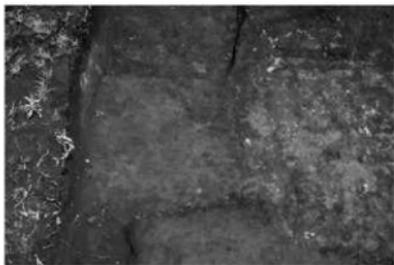
H-2・6号住居跡（西から）



H-3・7号住居跡（西から）



H-4号住居跡（西から）



H-5号住居跡（西から）



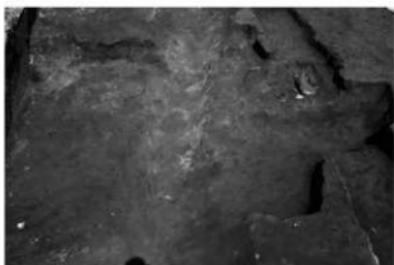
H-8号住居跡（西から）



H-9号住居跡（南西から）



H-10号住居跡・W-5号溝（西から）



H-11号住居跡（西から）



H-12号住居跡（西から）



H-13・14号住居跡（西から）



H-15号住居跡（西から）



H-16号住居跡（東から）



H-17号住居跡（西から）



H-18・19号住居跡（西から）



H-20号住居跡（西から）



H-20号住居跡カマド（西から）



H-20号住居跡遺物出土状態（西から）



H-20号住居跡遺物出土状態（西から）



H-21号住居跡（南西から）



H-21号住居跡カマド（南西から）



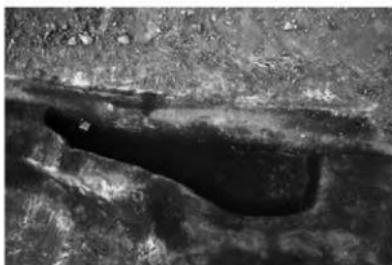
H-21号住居跡遺物出土状態（南東から）



H-22号住居跡（西から）



H-23号住居跡（西から）



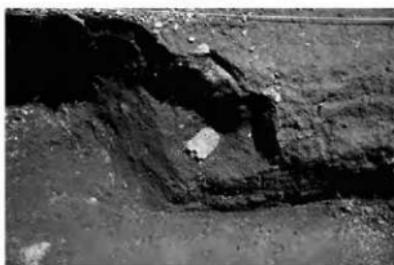
H-24号住居跡（西から）



H-26号住居跡（西から）



H-27号住居跡（西から）



H-27号住居跡遺物出土状態（西から）



H-28号住居跡（西から）



H-29号住居跡（西から）



H-30号住居跡（西から）



H-31号住居跡（西から）



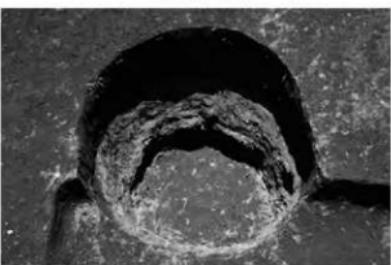
H-31号住居跡カマド（西から）



H-32号住居跡（南西から）



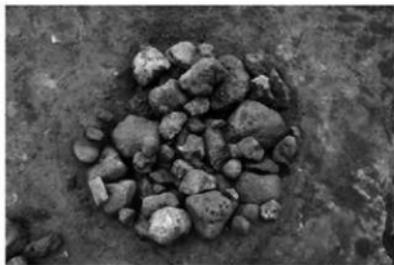
D-1号土坑遺物出土状態（北西から）



D-12号土坑（北から）



D-15号土坑（東から）



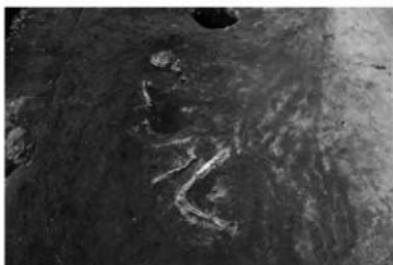
D-29号土坑遺物出土状態（東から）



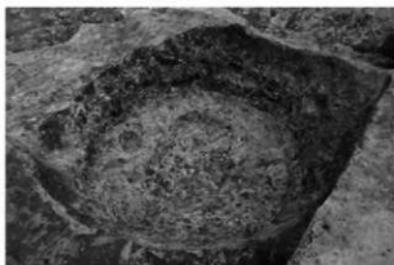
D-29号土坑遺物出土状態（東から）



D-30号土坑遺物出土状態（北西から）



D-31号土坑人骨出土状態（南から）



D-44号土坑（北東から）



W-3号溝（南から）



W-4号溝（南東から）

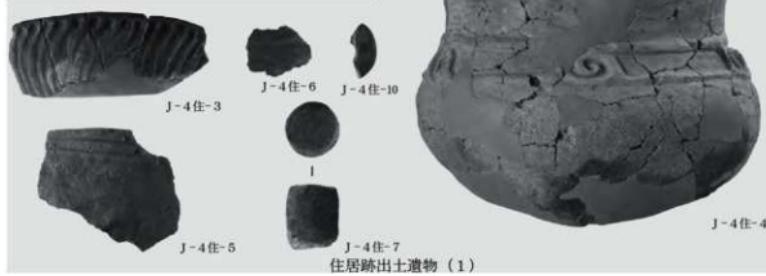
J - 1号住居跡



J - 3号住居跡



J - 4号住居跡①



住居跡出土遺物 (1)

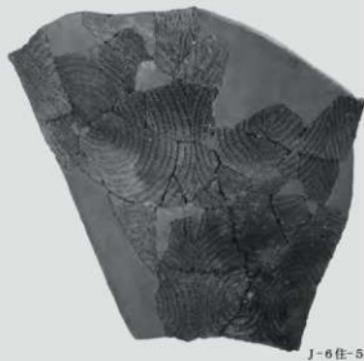
J - 4号住居跡②



J - 5号住居跡



J - 6号住居跡①



住居跡出土遺物 (2)

J - 6号住居跡②



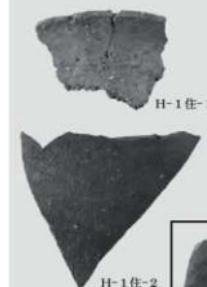
J - 7号住居跡



H - 2号住居跡



H - 1号住居跡



H - 5号住居跡



H - 4号住居跡



H - 9号住居跡



H - 3号住居跡



住居跡出土遺物 (3)

H - 8号住居跡



H - 12号住居跡



H - 14号住居跡



H - 11号住居跡



H - 15号住居跡



H - 13号住居跡



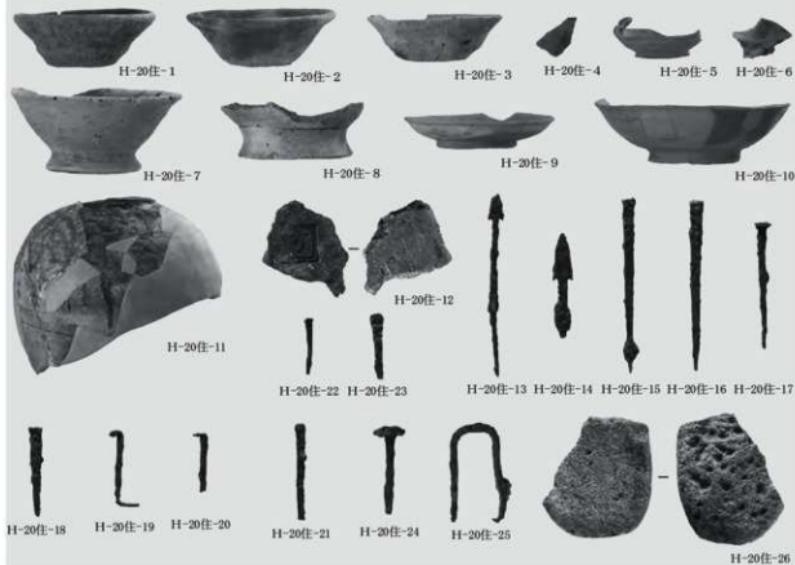
H - 17号住居跡



H - 18号住居跡



H-20号住居跡



H-21号住居跡



H-22号住居跡

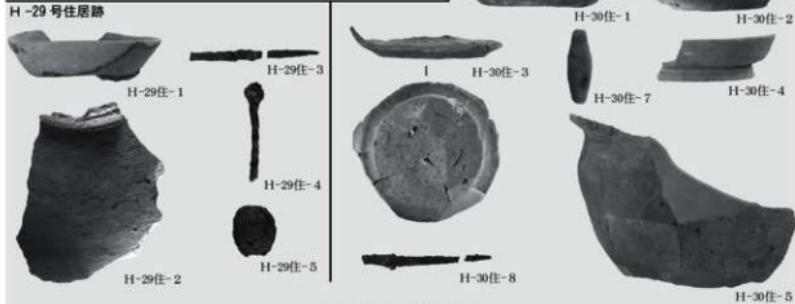
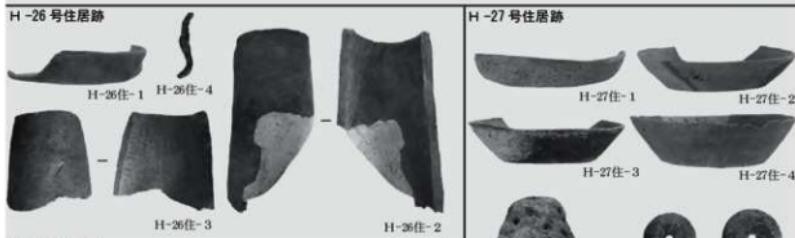


H-23号住居跡①



住居跡出土遺物 (5)

H -23 号住居跡②

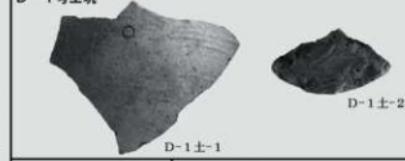


住居跡出土遺物 (6)

H -31号住居跡



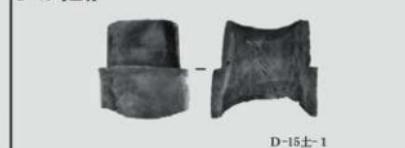
D - 1号土坑



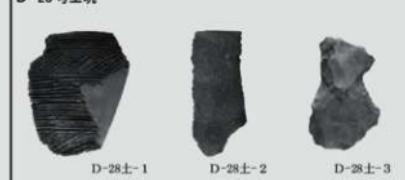
D - 3号土坑



D - 15号土坑



D - 28号土坑



H -32号住居跡



D - 29号土坑



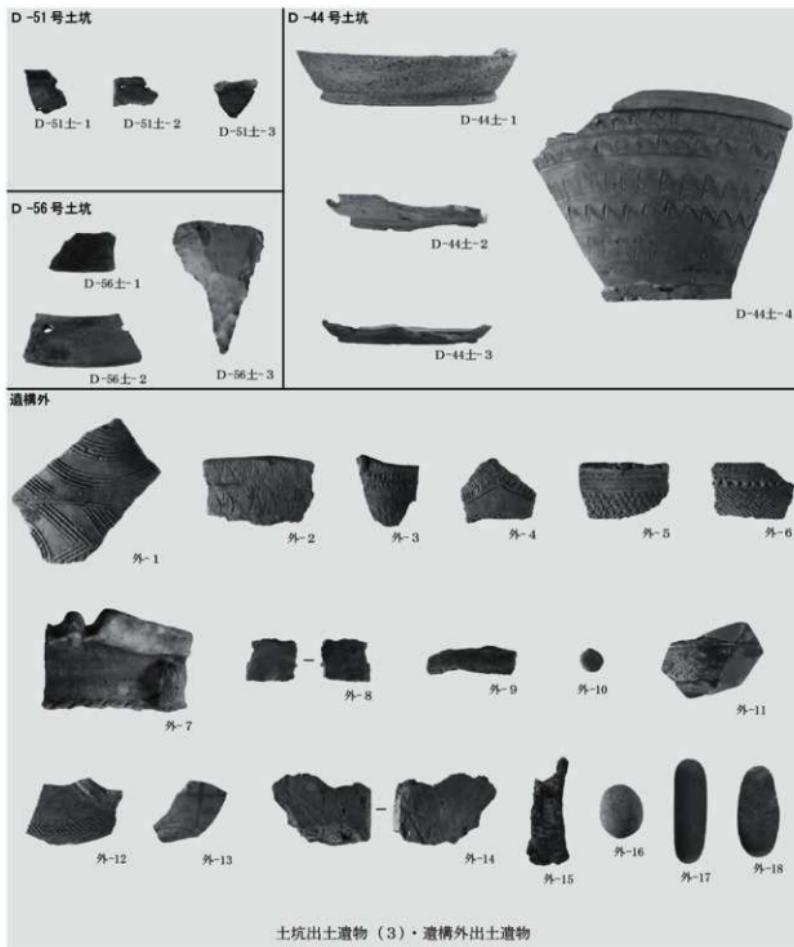
住居跡出土遺物 (7) · 土坑出土遺物 (1)

D-29土出土石器

D -30 号土坑



土坑出土遗物 (2)



抄 錄

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (94 ガイク)
書名	元総社舊海遺跡群 (94 街区)
副書名	店舗建設伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰鶴 伊藤順一 南田法正
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒 371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	平成 30 年 8 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北緯	東経			
元総社舊海遺跡群 (94 街区)	群馬県前橋市元総社町 94街区 1607、 1610-1・2・3、 1561-1、1799 (甲)	10201	28A230	36° 39' 22"	139° 02' 73"	20170417 ～ 20170616	805 m ²	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社舊海遺跡群 (94 街区)	集落跡	縄文時代前期 縄文時代中期 古墳時代後期 奈良時代 平安時代 As-B 降下以降	堅穴住居跡 土坑 溝 ピット	37軒 55基 5条 82基 品・銅製品・石製品・人骨・植物遺体	縄文時代前期の彩塗土器が出土。 10世紀の礎石を有する堅穴住居跡を確認。

元總社蒼海遺跡群（94 街区）
店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 30 年 8 月 20 日印刷

平成 30 年 8 月 31 日発行

編集／有限会社毛野考古学研究所
発行／前橋市教育委員会
印刷／朝日印刷工業株式会社
